式 文

キリスト教聖礼典および諸式文

日本同盟基督教団
式文委員会

新式文第二次草案
発行 日本同盟基督教団 式文委員会
2022 年 9 月
印刷 日本ワントゥワンソリューションズ
株式会社

目次

第一章 礼拝
一 主の祈り（文語・口語）
二 十戒
三 使徒信条（文語・口語）
四 ニカイア・コンスタンティノポリス信条（文語・口語）
五 派遣のことば
六 祝祷・祝福
七 日本同盟基督教団信仰告白

第二章 聖礼典 及び信仰の誓約を伴う諸式

一　洗礼
二　訪問洗礼（病床洗礼）
三　聖餐（主の晩餐の礼典）
四　訪問聖餐（病床聖餐）
五　幼児洗礼
六　献児式
七　信仰告白式（堅信礼）
八　転入会式

第三章　教会関係諸式
一　牧師就任式
二　伝道師就任式

三　役員(長老・執事)任職式(就任式)
四　教会学校校長および教師就任式
五　第一種教会設立式
六　第二種教会設立式
七　第一種教会加入式
八　第二種教会加入式
九　教会付属伝道所開設式
一〇　教会合併式
一一　教会堂建築起工式
一二　教会堂定礎式
一三　教会堂献堂式

第四章　教団関係諸式
一　正教師任職式(按手式)
二　補教師任職式(准允式)
三　加入正教師任職式
四　加入補教師任職式
五　教団理事長任命式
六　教団総主事任命式(各主事任命式)
七　国外宣教師派遣式
第五章　結　婚
一　婚約式
二　結婚式

第六章　葬儀関係諸式
一　臨終の祈り
二　納棺式
三　前夜式
四　葬式
五　火葬前式
六　埋葬式(納骨式)
七　記念会
八　墓前礼拝
第七章　祝福式
一　子ども祝福式

二　成人祝福式
三　敬老祝福式

第八章　建築関係諸式
一　起工式(定礎式)
二　上棟式
三　落成式
四　新居式
五　諸事業開設式

凡例

●本式文の聖書箇所は『聖書 新改訳2017』による。その他、引用がある場合はその都度引用元を明記した。

●聖書表記について、聖書本文を記載している聖書箇所は正式なものを、箇所のみの記載は略語を用いた。

【例】マタイの福音書一章一節 → マタイ一1
コリント人への手紙第一、一〇章一節 → Iコリント一〇1

●司式者への所作等の指示は（　）で表し、誓約などの実際に発声する箇所は「　」とした。

第一章 礼 拝

一 主の祈り(文語)

天にまします我らの父よ、
ねがわくはみ名をあがめさせたまえ。
み国を来らせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を 我らがゆるすごとく、
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、悪より救い出(いだ)したまえ。

国とちからと栄えとは限りなくなんじのものなればなり。
アーメン。

訳文は「一八八〇年訳」（日本基督教団讃美歌委員会『讃美歌21』所収）

主の祈り（口語）

天にいます私たちの父よ。
御名が聖なるものとされますように。
御国が来ますように。
みこころが天で行われるように、地でも行われますように。
私たちの日ごとの糧を、今日もお与えください。

私たちの負い目をお赦しください。
私たちも、私たちに負い目のある人たちを赦します。
私たちを試みにあわせないで、悪からお救いください。
国と力と栄えは、とこしえにあなたのものだからです。
アーメン。　訳文は「新改訳2017」マタイの福音書六章九～一三節

二十戒

わたしは、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出した
あなたの神、主である。
あなたには、わたし以外に、ほかの神があってはならない。

あなたは自分のために偶像を造ってはならない。
それらを拝んではならない。それらに仕えてはならない。
あなたは、あなたの神、主の名をみだりに口にしてはならない。
安息日を覚えて、これを聖なるものとせよ。
あなたの父と母を敬え。
殺してはならない。
姦淫してはならない。
盗んではならない。
あなたの隣人について、偽りの証言をしてはならない。
あなたの隣人の家を欲してはならない。

訳文は「新改訳2017」出エジプト記二〇章二～一七節(一部抜粋)

三　使徒信条（文語）

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、処女（おとめ）マリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天にのぼり、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこより来りて、生ける者と死ねる者（死にたる者）とを審きたまわん。我は聖霊を信ず、聖（とこ）なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、身体のよみがえり、永遠の生命を信ず。アーメン。

訳文は『讃美歌一九五四年版』（日本基督教団讃美歌委員会）所収
ただし（死にたる者）は『聖歌』による。

使徒信条(口語)

わたしは、天地の造り主、全能の父である神を信じます。わたしはそのひとり子、わたしたちの主、イエス・キリストを信じます。主は聖霊によってやどり、おとめマリアより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとで苦しみを受け、十字架につけられ、死んで葬られ、よみにくだり、三日目に死人のうちからよみがえり、天にのぼられました。そして全能の父である神の右に座しておられます。そこからこられて、生きている者と死んでいる者とをさばかれます。わたしは聖霊を信じます。きよい公同の教会、聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、永遠のいのちを信じます。アーメン。

訳文は『讃美歌21』(日本基督教団讃美歌委員会)所収

四　ニカイア・コンスタンティノポリス信条(文語)

我らは唯一の神、全能の父、天と地、すべて見えるものと見えざるものとの造り主を信ず。

また我らは唯一の主、イエス・キリストを信ず。主は神の御独り子、よろず世に先立って、御父より生まれ、光よりの光、真の神よりの真の神、造られずして生まれ、御父と同質にして、万物は主によって造られたり。

主は我ら人間のため、また我らの救いのために天より下り、聖霊によりて処女マリヤより肉体をとりて人となり、我らのためポンテオ・ピラトのもとに十字架につけられ、苦しみを受け、葬られ、聖書に従いて三日目によみがえり、天に昇り、御父の右に座したまえ

り。生ける者と死ねる者とをさばくため、栄光をもって再び来たりたもう。その御国は終わることなし。

また我らは主にしていのちを与える聖霊を信ず。聖霊は御父と御子とより出で、御父と御子とともに礼拝せられ、崇められ、預言者を通して語りたまえり。

我らは唯一にして聖なる、公同の使徒的教会を信ず。

我らは罪の赦しを得させる唯一の洗礼を告白す。

我らは死人のよみがえりと、来たるべき世のいのちとを待ち望む。アーメン。

訳文は朝岡勝による。(『ニカイア信条を読む』(いのちのことば社)所収)

ニカイア・コンスタンティノポリス信条(口語)

わたしたちは、唯一の神、全能の父、天と地と、見えるものと見えないものすべての造り主を信じます。

わたしたちは、唯一の主、神の独り子、イエス・キリストを信じます。主はすべての時に先立って、父より生まれ、光よりの光、まことの神よりのまことの神、造られずに生まれ、父と同質であり、すべてのものはこの方によって造られました。

主は、わたしたち人間のため、またわたしたちの救いのために、天より降り、聖霊によって、おとめマリアより肉体をとって、人となり、わたしたちのためにポンティオ・ピラトのもとで十字架につけら

れ、苦しみを受け、葬られ、聖書に従って、三日目によみがえり、天に昇られました。そして父の右に座し、生きている者と死んだ者とをさばくために、栄光をもって再び来られます。その御国は終わることがありません。

わたしたちは、主であり、命を与える聖霊を信じます。聖霊は、父と子とから出て、父と子とともに礼拝され、あがめられ、預言者を通して語ってこられました。

わたしたちは、唯一の、聖なる、公同の、使徒的教会を信じます。わたしたちは、罪のゆるしのための唯一の洗礼を、信じ告白します。わたしたちは、死人のよみがえりと来るべき世の命を待ち望みます。アーメン。

訳文は日本基督教団改革長老教会協議会教会研究所訳

五　派遣のことば

平和のうちに、この世へと出て行きなさい。主なる神に仕え、隣人を愛し、主なる神を愛し、隣人に仕えなさい。

平和のうちに行きなさい。自由な者として生き、聖霊の力により、喜びをもって主に仕えなさい。

六　祝祷・祝福

主があなたを祝福し、あなたを守られますように。
主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。
主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。

民数記六章二四～二六節

すべてのものが神から発し、神によって成り、神に至るのです。
この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。

ローマ人への手紙一一章三六節

どうか、希望の神が、信仰によるすべての喜びと平安で
あなたがたを満たし、聖霊の力によって
希望にあふれさせてくださいますように。
ローマ人への手紙一五章一三節

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、
あなたがたすべてとともにありますように。
コリント人への手紙第二、一三章一三節

どうか、平和の主ご自身が、どんな時にも、どんな場合にも、
あなたがたに平和を与えてくださいますように。
どうか、主があなたがたすべてとともにいてくださいますように。
テサロニケ人への手紙第二、三章一六節

永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエスを、死者の
中から導き出された平和の神が、あらゆる良いものをもって、
あなたがたを整え、みこころを行わせてくださいますように。
また、御前でみこころにかなうことを、イエス・キリストを通し
て、私たちのうちに行ってくださいますように。栄光が世々限り
なくイエス・キリストにありますように。アーメン。
ヘブル人への手紙一三章二〇～二一節

七　日本同盟基督教団信仰告白

日本同盟基督教団教憲第一条

我らは、聖書において啓示され、使徒信条をはじめとする公同の信条が言い表し、宗教改革において鮮明にされた信仰にもとづいて、次のように信じ、告白する。

1. 旧、新約聖書66巻は、すべて神の霊感によって記された誤りのない神のことばであって、神の救いのご計画の全体を啓示し、救い主イエス・キリストを顕し、救いの道を教える信仰と生活の唯一絶対の規範である。

2. 神は霊であり、唯一全能の主である。神は永遠に父と子と聖霊の三位一体であって、その本質において同一であり、力と栄光とを等しくする。

3. 神は、永遠の御旨により万物を創造し、造られたものを摂理によって統べ治める絶対主権者である。

4. はじめに人は、神のかたちに創造され、神と正しい関係にあった。しかしサタンに誘惑され、神のいましめに背いて罪を犯し、神のかたちを毀損した。それゆえ、すべての人は生まれながら罪と悲惨、死の支配のもとにあり、思いと言葉と行為とにおいて罪ある者である。自分の努力によっては神に立ち返ることができず、永遠の滅びに至る。

5. 主イエス・キリストは、父なる神のひとり子であって、聖霊によって宿り、処女マリヤより生まれたまことの神にしてまことの人である。主は我らに代わって十字架にかかり、死んで葬られ、よみにくだり、三日目に死者の中からよみがえり、我らのために贖いを成し遂げ、我らに永遠のいのちを与えた。主は天に昇り、父なる神の右の座に着き、大祭司として今も我らのために執り成している。

6. 聖霊は、我らに父と子を示し、罪を認めさせ、赦しを与え、我らを新たに生まれさせ、神の子とする。人は、自分の行いによらず神の恵みにより、主イエス・キリストの贖いのゆえに、キリストを信じるただその信仰によって義と認められる。さらに、聖霊は、助け主、慰め主として我らの中に住み、我らを主と同

じかたちに造りかえ、我らに御旨を行わせ、世の終わりまで我らとともにあり、我らをキリストとの共同相続人とする。

7. 教会は、聖霊によって召し出された神の民、主イエス・キリストをかしらとするからだであり、羊飼いなる主の御声にのみ聴き従う羊の群れである。地上の教会は、再び来られる主を待ち望みつつ礼拝し、みことばを説教し、聖礼典を執行し、戒規を重んじ、聖霊の力によって全世界に福音を宣べ伝える。

8. 終わりの時に、主イエス・キリストはみからだをもって再臨し、生ける者と死せる者とを審判する。主は我らをからだをもってよみがえらせ、我らをご自身の栄光と同じ姿に造りかえ、万物を新たにし、神の国を完成する。アーメン。

第二章　聖礼典　及び信仰の誓約を伴う諸式

一　洗　礼

●聖礼典の執行においては、以下の諸点を重要な要素とし省略しないこと。
〈聖書朗読　式辞　誓約　聖礼典の執行　祈祷　宣言〉

●上記のほかに、聖礼典の奥義を明らかにする象徴的行為が行われてもよいものとする。ただしそれらの行為が行われる際には、必ずそこに表される意味と目的を明らかにし、参列する会衆に誤解が生じないよう説明が求められ、迷信や偶像崇拝的要素等が入り込むことのないよう、最大限の努力と配慮をしなければならない。

●洗礼に先立っては、洗礼を受ける本人が、教会が提供する洗礼準備のクラス等を受け、第一種教会においては役員会、第二種教会においては主任教師による試問を経て承認を受ける。また洗礼式に先立って、受洗者に救いの証しをしてもらうとよい。

一　序　言

聖礼典(洗礼と聖餐)は、主イエス・キリストが守るようにと定め、教会に与えた、救いの契約のしるしと保証です。それは、目に見えない霊的な事柄を、目に見えるしるしによって明らかにしたものです。

聖礼典そのものは、私たちの内に信仰を生み出すものではなく、聖霊の働きによって私たちの信仰を強め、神の救いの約束をいよいよ確信させ、保証するものです。

二　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

マタイの福音書二八章一八～二〇節

イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」

使徒の働き二章三七～三九節

人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟

たち、私たちはどうしたらよいでしょうか」と言った。そこで、ペテロは彼らに言った。「それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。この約束は、あなたがたに、あなたがたの子どもたちに、そして遠くにいるすべての人々に、すなわち、私たちの神である主が召される人ならだれにでも、与えられているのです。」

ローマ人への手紙六章三～一一節

それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたのではありませんか。私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリ

ストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいいのちに歩むためです。私たちがキリストの死と同じようになって、キリストと一つになっているなら、キリストの復活とも同じようになるからです。私たちは知っています。私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが滅ぼされて、私たちがもはや罪の奴隷でなくなるためです。死んだ者は、罪から解放されているのです。私たちがキリストとともに死んだのなら、キリストとともに生きることにもなる、と私たちは信じています。私たちは知っています。キリストは死者の中からよみがえって、もはや死ぬことはありません。死はもはやキリストを支配しないのです。なぜなら、キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、キリストが生きておられるのは、神に対して生きておられるのだからです。同

じように、あなたがたもキリスト・イエスにあって、自分は罪に対して死んだ者であり、神に対して生きている者だと、認めなさい。

ヨハネ三3－8　IIコリント五15－17　ガラテヤ二19－20
ガラテヤ三26－29　コロサイ二9－17　テトス三3－7

三　式　辞

洗礼は、私たちをイエス・キリストに結びつける新しい契約のしるしです。これは、次のことを保証します。すなわち、父と子と聖霊の三位一体の神による罪の洗いきよめがなされたこと、イエス・キリストご自身に私たちが接ぎ木され神の子どもとされていること、罪の赦しが実現したこと、聖霊によって新しくされたこと、神の民の一員とされていること、そして私たちが永遠のいのちに生きて復活することです。

それゆえ洗礼を受ける者は、罪ある古い自分に死に、キリストにある新しい自分にされたことを確信し、これからは自分自身のためではなく、自分のために死んでよみがえってくださった方のために生きるのです。

四　祈　祷

天の父なる神さま。あなたは、私たちがまだ罪人であったとき、キリストを私たちに遣わして、私たちの罪の贖いを成し遂げてくださいました。その恵みをもって、今、御前に立つ（　　兄弟／姉妹）を導き、あなたの救いにあずからせてくださることを感謝します。

今、（　　兄弟／姉妹）は、神の恵みに応えて、神と人との前に誓約しようとしています。どうか、聖霊なる神が助け導いてくださり、罪

を認めて悔い改め、神への信仰をはっきりと告白することができるようにしてください。

救い主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

五　誓　約

1. あなたは、天と地の造り主、生けるまことの神のみを信じますか。（「信じます。」）
2. あなたは、この神の前に、自ら罪人であることを認めますか。（「認めます。」）
3. あなたは、自分のために十字架の贖いを成し遂げてくださった神の御子イエス・キリストを信じますか。（「信じます。」）
4. あなたは、聖霊の恵みに謙虚に信頼し、キリストのしもべとしてふさわしく生きることを誓約しますか。（「誓約します。」）

5. あなたは、最善を尽くして教会に仕え、礼拝を熱心にささげ、キリストのからだの一器官として教会員の務めを果たし、かしらなるキリストを証しして生きることを誓約しますか。
（「誓約します。」）

6. あなたは、日本同盟基督教団の教憲・教規、および（　　）教会の規則に従って、教会の純潔と一致と平和のために努めることを誓約しますか。（「誓約します。」）

六　聖礼典の執行（授洗）

（　　兄弟／姉妹）、父と子と聖霊の御名によって洗礼（バプテスマ）を授ける。
アーメン

七　祈　祷

恵み深い父なる神さま。主イエス・キリストの十字架の贖いによって、（　兄弟／姉妹）を罪から救ってくださったことを感謝します。そこに現された、あなたの愛のみわざを賛美します。

あなたは、（　兄弟／姉妹）を生まれる前からキリストにあって選び、あなたのご計画の中で神を信じるに至らせ、信仰を告白するまで導いてくださいました。今、洗礼の恵みにあずからせてくださり、主イエス・キリストと結び合わされたことと、それによって注がれる恵みの確証を与えてくださいました。このように、神の民の群れである教会の交わりに加えてくださったことを感謝します。

どうか、聖霊の助けによって、これから直面するすべての誘惑に打ち勝たせてください。（　兄弟／姉妹）を信仰から信仰に進ませてくだ

さり、主の栄光のために生きる者として、天の御国に入る日までお守りください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

八　宣　言

（　　兄弟／姉妹）は、今ここに、父・子・聖霊の御名において洗礼を受けました。神の民の一員とされ、（　　）教会の教会員となったことを宣言します。それゆえ（　兄弟／姉妹）、あなたは、神の教会のすべての特権を与えられ、聖餐にあずかることができます。

九　受洗者への奨励

（　　兄弟／姉妹）、神の民の一員とされたあなたは、今ここで行なった信仰の告白と誓約に従い、神の民にふさわしく生きることが求められます。そのために必要な力は、神が与えてくださいます。自らを

過信することなく、謙虚に神に委ねつつ、神の聖と義と愛にふさわしい生き方を心掛けてください。

ペテロの手紙第一、一章一三～一六節

ですから、あなたがたは心を引き締め、身を慎み、イエス・キリストが現れるときに与えられる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。従順な子どもとなり、以前、無知であったときの欲望に従わず、むしろ、あなたがたを召された聖なる方に倣い、あなたがた自身、生活のすべてにおいて聖なる者となりなさい。「あなたがたは聖なる者でなければならない。わたしが聖だからである」と書いてあるからです。

ピリピ三12－16

一〇　会衆への勧告

（会衆に向かって）愛する兄弟姉妹たち。神は洗礼を通して、

（　　兄弟／姉妹）に対する恵みと憐れみを約束し、保証してくださいました。あなたがたも、かつての自分の洗礼を思い起こし、改めて神への信頼と服従をもって、この恵みに応答することが求められています。

そして、（　　兄弟／姉妹）を同じキリストのからだに属する神の民の一員として受け入れ、主にある家族として愛し、互いに仕え合って歩んでください。

（受洗者と会衆の双方に向けて）

「平和の神ご自身が、あなたがたを完全に聖なるものとしてくださいますように。あなたがたの霊、たましい、からだのすべてが、私たちの

主イエス・キリストの来臨のときに、責められるところのないものとして保たれていますように。あなたがたを召された方は真実ですから、そのようにしてくださいます。」（Ⅰテサロニケ五23－24）

※このあと、改めて受洗者の紹介をしてもよい。あるいは、迎え入れる教会の代表として、受洗者に対する言葉があってもよい。

※聖餐を行う際には、最初に受洗者から分餐するとよい。

二　訪問洗礼（病床洗礼）

●訪問洗礼（病床洗礼）は、受洗者の体調や状態を考慮し、心身両面における負担とならないよう配慮をもって行う。受洗者には、あらかじめ水を頭部につけること

を伝え、驚きやショックを与えないよう注意すること。受洗者の体調にもよるが、受洗者につける水の量にも細心の注意を払うこと。

●洗礼が私的なものとならぬよう、牧師とともに役員や教会員が同行することが望ましい。

●訪問洗礼(病床洗礼)に際しては、事前に役員会(もしくはそれに準ずる機関)の承認を経ていることが望ましいが、緊急を要する場合などは、牧師の判断で執行することもありうる。その際は、役員会への報告をすること。

●同席者(家族・友人など)に、ここでなされていることが理解できるよう、わかりやすい言葉で説明すること。

●病床であっても、受洗者の体調によっては洗礼式の式文を使用することもできる。

一　式　辞

これから、イエス・キリストが定めた洗礼を授けます。これは、イエス・キリストを信じた者が、確かに救いにあずかり、永遠のいのちを得ていることを保証するものです。

二　聖書朗読(次の箇所等から選ぶ)

コリント人への手紙第二、五章一七節

ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

ガラテヤ人への手紙二章一九～二〇節

しかし私は、神に生きるために、律法によって律法に死にました。私

はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。今私が肉において生きているいのちは、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子に対する信仰によるのです。

三　誓　約

（誓約の前に、受洗者に、短い問いをするので「はい、信じます」と明確に答えるよう伝えるとよい。なお、言葉での返答が困難な場合、挙手やまばたき等、応答がわかる方法で返答してもらうよう伝えること。）

あなたは、あなたの罪のために十字架にかかって死に、復活された主イエス・キリストを救い主として信じますか。

（「はい、信じます。」）

四　聖礼典の執行（授洗）

（　兄弟／姉妹）、父と子と聖霊の御名によって洗礼（バプテスマ）を授ける。
アーメン

五　祈り

天の父なる神さま。今、（　兄弟／姉妹）は、私たちの罪のために十字架にかかられた主イエス・キリストを信じて、救いの保証である洗礼を受けることができました。感謝します。

どうか、慰め主なる聖霊が、（　兄弟／姉妹）を助け、天の御国に入るその日まで、あなたの守りの中で支え導いてください。

救い主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

六　宣言

（　兄弟／姉妹）は、今ここに洗礼を受けて、神の民の一員とされたことを宣言します。

「平和の神ご自身が、あなたがたを完全に聖なるものとしてくださいますように。あなたがたの霊、たましい、からだのすべてが、私たちの主イエス・キリストの来臨のときに、責められるところのないものとして保たれていますように。あなたがたを召された方は真実ですから、そのようにしてくださいます。」（Ⅰテサロニケ五23－24）

三　聖　餐（主の晩餐の礼典）

●聖礼典の執行においては、以下の諸点を重要な要素とし省略しないこと。

〈聖書朗読　式辞　聖礼典の執行　祈祷　〉

●上記のほかに、聖礼典の奥義を明らかにする象徴的行為が行われてもよいものとする。ただしそれらの行為が行われる際には、必ずそこに表される意味と目的を明らかにし、参列する会衆に誤解が生じないよう説明が求められ、迷信や偶像崇拝的要素等が入り込むことのないよう、最大限の努力と配慮をしなければならない。

一　序　言

聖礼典(洗礼と聖餐)は、主イエス・キリストが守るようにと定め、教会に与えた、救いの契約のしるしと保証です。それは、目に見えない霊的な事柄を、目に見えるしるしによって明らかにしたものです。

聖礼典そのものは、私たちの内に信仰を生み出すものではなく、聖霊の働きによって私たちの信仰を強め、神の救いの約束をいよいよ確信させ、保証するものです。

二　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

マタイの福音書二六章二六～二九節（マルコ一四22-25、ルカ二二14-23）

また、一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、神をほめたたえてこれを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取って食べなさい。これはわたしのからだです。」また、杯を取り、感謝の祈りをささげた後、こう言って彼らにお与えになった。「みな、この杯から飲みなさい。これは多くの人のために、罪の赦しのために流される、わたしの契約の血です。わたしはあなたがたに言います。今から後、わたしの父の御国であなたがたと新しく飲むその日まで、わたしがぶどうの実からできた物を飲むことは決してありません。」

コリント人への手紙第一、一一章二三～三二節

私は主から受けたことを、あなたがたに伝えました。すなわち、主イエスは渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげた後それを裂き、こう言われました。「これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。」食事の後、同じように杯を取って言われました。「この杯は、わたしの血による新しい契約です。飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。」ですから、あなたがたは、このパンを食べ、杯を飲むたびに、主が来られるまで主の死を告げ知らせるのです。したがって、もし、ふさわしくない仕方でパンを食べ、主の杯を飲む者があれば、主のからだと血に対して罪を犯すことになります。だれでも、自分自身を吟味して、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい。みからだをわきまえないで食べ、また飲む者は、自分自身に対するさばきを食べ、また飲むことになるのです。あなたがたの中

に弱い者や病人が多く、死んだ者たちもかなりいるのは、そのためです。しかし、もし私たちが自分をわきまえるなら、さばかれることはありません。私たちがさばかれるとすれば、それは、この世とともにさばきを下されることがないように、主によって懲らしめられる、ということなのです。

ヨハネ六35　ヨハネ六53-58　Ⅰコリント一〇16-17

三　信仰告白

主の食卓にあずかるのに先立って、私たちの信仰を告白しましょう。

（使徒信条もしくは日本同盟基督教団の信仰告白を唱和する）

四　式辞

（四―一）説明

聖餐は、主イエス・キリストが十字架につけられる前夜、弟子たちとともに最後の食事をとる時に制定された新しい契約の礼典です。その席で主は、パンを取り、神をほめたたえてこれを裂き、弟子たちに分け与えられました。また杯を取り、感謝の祈りをささげてから弟子たちに分け与え、主の再臨の日まで主の死を告げ知らせるためにこれを守るようにと命じられました。

この礼典は、主イエス・キリストが十字架の上で裂かれた肉を表わすパンと、流された血潮を表わす杯を通して、主の犠牲をくり返し覚えるためのものであり、主の犠牲がもたらすすべての祝福を信仰者に保証するためのものです。これを通して私たちは、キリストにある霊的な養いを受け、キリストとの結びつきを強くし、キリストにある兄弟姉

妹の交わりと絆を確かめ合います。またこの食卓は、やがて完成される神の国での祝宴の先取りであり、保証です。

この聖餐にあずかる時、主は聖霊の働きによって私たち一人一人の内に親しく臨んでくださいます。これによって教会全体に主の霊が満たされて、私たちは終わりの日に向かって希望をもって前進させていただくのです。

そのため聖餐にあずかる人は、神の御前に自分自身を深く吟味し、悔い改めと信仰をもってこれに臨んでください。しばらく、黙祷します。

（四―二）招きの言葉

愛する兄弟姉妹たち。主イエス・キリストを神のひとり子である救い

主と信じ、聖霊の恵みに謙虚に信頼して、キリストのしもべとしてふさわしく生きる志のある者はすべて、この食卓に招かれています。たとえ罪のとがめや良心の呵責を覚えたとしても、それを覆って余りある神の恵みに信頼し、信仰をもって聖餐にあずかってください。

他教会の信徒または他教派の教会員であっても、同じ信仰を告白している方は、主にある兄弟姉妹であり、互いに神の家族ですから、私たちとともにこの聖餐にあずかってください。

しかし、まだ洗礼を受けていない方、あるいは幼児洗礼を受けた方でまだ信仰告白式を経ていない方は、いずれも今日ここで聖餐を受けることはできません。それは聖餐の意味を正しく知っていただくためです。主はこれらの方を信仰告白へと導き、この聖餐の特権にあずか

るように招いておられます。教会も、その日が一日も早く来るように心から祈り願っています。

（以下の部分は省略可）

また陪餐停止の期間を過ごしている方も、今日ここで聖餐を受けることはできません。主が悔い改めへと導き、再びこの恵みと祝福にともにあずかることができますよう、心からお祈りします。

（このような方々が、配られるパンと杯を受け取らないよう注意する）

五　聖別の祈祷

恵み深い天の父なる神さま。私たちがまだ罪人であった時、御子イエス・キリストが十字架の上で死に、私たちの贖いとなってくださったことを心から感謝します。どうか、主のいつくしみと十字架の苦しみを心に刻ませてください。

今、このパンと杯を祝福し、私たちの救いの恵みを保証する手段として聖別してください。私たちが、主の御前に砕かれた心をもって主の肉と血を受けることにより、主イエス・キリストのすべての祝福にあずからせ、救いの確信を揺るぎないものとしてください。また私たち一人一人が、キリストにあって一つであり、互いに主にある家族であることを覚えて、聖徒の交わりをいよいよ固い絆で結ばせてください。そして、やがて天における喜びの祝宴にあずかることを確信させ、地上においてその日を待ち望ませてください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

六　聖礼典の執行（分　餐）

パンの分餐

（次の言葉を言いながら、パンを手に取って会衆に見えるようにパンを裂いてもよい）

主イエスは渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげた後それを裂き、こう言われました。「これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。」

（奉仕者が会衆席を回って分餐する場合、洗礼を受けている者でパンを手にしていない者がないか、反対に洗礼を受けていない者でパンを手にしている者がないかを確認する。）

（全員に分餐し終わったら）

「取って食べなさい。これはわたしのからだです。」（マタイ二六26）

信仰をもって、キリストを味わいましょう。（ともに食する）

杯の分餐

（次の言葉を言いながら、容器を手に取って会衆に見えるように杯に注いでもよい）

食事の後、同じように杯を取って言われました。「この杯は、わたしの血による新しい契約です。飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。」

（奉仕者が会衆席を回って分餐する場合、洗礼を受けている者で杯を手にしていない者がないか、反対に洗礼を受けていない者で杯を手にしている者がないかを確認する。）

「この杯から飲みなさい。これは多くの人のために、罪の赦しのために流される、わたしの契約の血です。」（マタイ二六27-28）

信仰をもって、キリストを味わいましょう。（ともに飲む）

七　感謝の祈祷

恵み深い父なる神さま。私たちは、あなたの憐れみによって御名の内に加えていただきながら、なおも罪を犯し、悔い改めてもまた罪を

犯すという悲惨さの中にあります。しかしあなたは、そんな私たちを見捨てることなく招いてくださり、主の聖餐にあずからせてくださいました。これによって、主イエス・キリストにある豊かな恵みを私たちの内に確かなものとしてくださり、私たちに永遠のいのちの確信を与え、神の国の祝宴にあずかる望みを一層確かにしてくださったことを感謝します。

どうか、キリストと私たちを一つに結びつけ、私たちをとこしえに主とともにおらせてくださり、あなたの御名にふさわしい聖さにあずからせてください。そして、聖霊の助けによって、喜びと感謝をもってキリストのからだである教会に仕え、あなたの御救いを広く全世界に明らかにし、主が再び来られる日まで、御前に誠実に歩ませてください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

四　訪問聖餐(病床聖餐)

●聖礼典の執行においては、以下の諸点を重要な要素とし省略しないこと。
〈聖書朗読　式辞　聖礼典の執行　祈祷〉
●訪問聖餐が、私的なものとならぬよう、牧師とともに役員や信徒が同行することが望ましい。そのため、訪問聖餐がなされる場合には、事前に役員会での承認が求められる。
●長期間、礼拝に出席できない教会員に対しては、定期的に訪問して聖餐の時を持つことが望ましい。
病院や施設では、飲食物の扱いに関して、また同室や入居している方々に対して、注意と配慮が求められる。

●訪問聖餐が行われる時には、その直近の主日礼拝において　聖餐のための祈りが捧げられ、両者が一つの聖餐であることが確かめられなければならない。

一　序言

聖礼典(洗礼と聖餐)は、主イエス・キリストが守るようにと定め、教会に与えた救いの契約のしるしと保証です。それは、目に見えない霊的な事柄を、目に見えるしるしによって明らかにしたものです。

聖礼典そのものは、私たちの内に信仰を生み出すものではなく、聖霊の働きによって私たちの信仰を強め、神の救いの約束をいよいよ確信させ、保証するものです。

二　聖書朗読(次の箇所等から選ぶ)

コリント人への手紙第一、一〇章一六～一七節

私たちが神をほめたたえる賛美の杯は、キリストの血にあずかるこ

とではありませんか。私たちが裂くパンは、キリストのからだにあずかることではありませんか。パンは一つですから、私たちは大勢いても、一つのからだです。皆がともに一つのパンを食べるのですから。

マタイ二六26-29（マルコ一四22-25、ルカ二二14-23）
Ⅰコリント一一23-32　ヨハネ六53-58　ヨハネ六35

三　信仰告白

主の食卓にあずかるのに先立って、私たちの信仰を告白しましょう。
（使徒信条もしくは日本同盟基督教団の信仰告白を唱和する）

四　式　辞

（四―一）説　明

聖餐は、主イエス・キリストが十字架につけられる前夜、弟子たちと

ともに最後の食事をとる時に制定された新しい契約の礼典です。その席で主は、パンを取り、神をほめたたえてこれを裂き、弟子たちに分け与えられました。また杯を取り、感謝の祈りをささげてから弟子たちに分け与え、主の再臨の日まで主の死を告げ知らせるためにこれを守るようにと命じられました。

この礼典は、主イエス・キリストが十字架の上で裂かれた肉を表わすパンと、流された血潮を表わす杯を通して、主の犠牲をくり返し覚えるためのものであり、主の犠牲がもたらすすべての祝福を信仰者に保証するためのものです。これを通して私たちは、キリストにある霊的な養いを受け、キリストとの結びつきを強くし、キリストにある兄弟姉妹の交わりと絆を確かめ合います。またこの食卓は、やがて完成される神の国での祝宴の先取りであり、保証です。

この聖餐にあずかる時、主は聖霊の働きによって私たち一人一人の内に親しく臨んでくださいます。これによって教会全体に主の霊が満たされて、私たちは終わりの日に向かって希望をもって前進させていただくのです。

そのため聖餐にあずかる人は、神の御前に自分自身を深く吟味し、悔い改めと信仰をもってこれに臨んでください。しばらく、黙祷します。

（四―二）招きの言葉

愛する兄弟姉妹たち。主イエス・キリストを神のひとり子である救い主と信じ、聖霊の恵みに謙虚に信頼して、キリストのしもべとしてふさわしく生きる志のある者はすべて、この食卓に招かれています。たとえ

罪のとがめや良心の呵責を覚えたとしても、それを覆って余りある神の恵みに信頼し、信仰をもって聖餐にあずかってください。

五　聖別の祈祷

恵み深い天の父なる神さま。私たちがまだ罪人であった時、御子イエス・キリストが十字架の上で死に、私たちの贖いとなってくださったことを心から感謝します。どうか、主のいつくしみと十字架の苦しみとを心に刻ませてください。

今、このパンと杯を祝福し、私たちの救いの恵みを保証する手段として聖別してください。私たちが、主の御前に砕かれた心をもって主の肉と血を受けることにより、主イエス・キリストのすべての祝福にあずからせ、救いの確信を揺るぎないものとしてください。またこの聖餐は、主の日に行われた聖餐と一つの食卓です。時と場所においては離れて

いても、霊においてはキリストにあって一つであり、互いに主にある家族であることを覚えて、聖徒の交わりをいよいよ固い絆で結び合わせてください。そして、やがて天における喜びの祝宴にあずかることを確信させ、地上においてその日を待ち望ませてください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

六　聖礼典の執行（分　餐）

パンの分餐

（次の言葉を言いながら、パンを手に取って会衆に見えるようにパンを裂いてもよい）

主イエスは渡される夜（よる）、パンを取り、感謝の祈りをささげた後それを裂き、こう言われました。「これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。」

（分餐する）

「取って食べなさい。これはわたしのからだです。」(マタイ二六26)

信仰をもって、キリストを味わいましょう。(ともに食する)

杯の分餐

(次の言葉を言いながら、容器を手に取って会衆に見えるように杯に注いでもよい)

食事の後、同じように杯を取って言われました。「この杯は、わたしの血による新しい契約です。飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。」

(全員に分餐し終わったら)

「この杯から飲みなさい。これは多くの人のために、罪の赦しのために流される、わたしの契約の血です。」(マタイ二六27-28)

信仰をもって、キリストを味わいましょう。(ともに飲む)

七　感謝の祈祷

恵み深い父なる神さま。私たちは、あなたの憐れみによって御名の内に加えていただきながら、なおも罪を犯し、悔い改めてもまた罪を犯すという悲惨さの中にあります。しかしあなたは、そんな私たちを見捨てることなく招いてくださり、主の聖餐にあずからせてくださいました。これによって、主イエス・キリストにある豊かな恵みを私たちの内に確かなものとしてくださり、私たちに永遠のいのちの確信を与え、神の国の祝宴にあずかる望みを一層確かにしてくださったことを感謝します。

どうか、キリストと私たちを一つに結びつけ、私たちをとこしえに主とともにおらせてくださり、あなたの御名にふさわしい聖さにあずからせてください。そして、聖霊の助けによって、喜びと感謝をもってキ

リストのからだである教会に仕え、あなたの御救いを広く全世界に明らかにし、主が再び来られる日まで、御前に誠実に歩ませてください。
主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

五　幼児洗礼

●聖礼典の執行においては、以下の諸点を重要な要素とし省略しないこと。
〈聖書朗読　式辞　誓約　聖礼典の執行　祈祷　宣言〉
●上記のほかに、聖礼典の奥義を明らかにする象徴的行為が行われてもよいものとする。ただしそれらの行為が行われる際には、必ずそこに表される意味と目的を明らかにし、参列する会衆に誤解が生じないよう説明が求められ、迷信や偶像崇

拝的要素等が入り込むことのないよう、最大限の努力と配慮をしなければならない。

●幼児洗礼に先立っては、幼児の(両)親が、事前に十分な準備を重ね、役員会(もしくはそれに準じる機関)における試問を経て承認を受けることが求められる。

●片親がクリスチャンでない場合でも、理解と了承を得ておくことが望ましい。

一　序言

聖礼典(洗礼と聖餐)は、主イエス・キリストが守るようにと定め、教会に与えた救いの契約のしるしと保証です。それは、目に見えない霊的な事柄を、目に見えるしるしによって明らかにしたものです。

聖礼典そのものは、私たちの内に信仰を生み出すものではなく、聖霊の働きによって私たちの信仰を強め、神の救いの約束をいよいよ確信させ、保証するものです。

二　聖書朗読(次の箇所等から選ぶ)

創世記一七章九～一四節

また神はアブラハムに仰せられた。「あなたは、わたしの契約を守らなければならない。あなたも、あなたの後の子孫も、代々にわたって。次のことが、わたしとあなたがたとの間で、またあなたの後の子孫との間で、あなたがたが守るべきわたしの契約である。あなたがたの中の男子はみな、割礼を受けなさい。あなたがたは自分の包皮の肉を切り捨てなさい。それが、わたしとあなたがたとの間の契約のしるしとなる。あなたがたの中の男子はみな、代々にわたり、生まれて八日目

に割礼を受けなければならない。家で生まれたしもべも、異国人から金で買い取られた、あなたの子孫ではない者もそうである。あなたの家で生まれたしもべも、金で買い取った者も、必ず割礼を受けなければならない。わたしの契約は、永遠の契約として、あなたがたの肉に記されなければならない。包皮の肉を切り捨てられていない無割礼の男、そのような者は、自分の民から断ち切られなければならない。わたしの契約を破ったからである。」

コロサイ人への手紙二章一一～一四節

キリストにあって、あなたがたは人の手によらない割礼を受けました。肉のからだを脱ぎ捨てて、キリストの割礼を受けたのです。バプテスマにおいて、あなたがたはキリストとともに葬られ、また、キリスト

とともによみがえらされたのです。キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じたからです。背きのうちにあり、また肉の割礼がなく、死んだ者であったあなたがたを、神はキリストとともに生かしてくださいました。私たちのすべての背きを赦し、私たちに不利な、様々な規定で私たちを責め立てている債務証書を無効にし、それを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。

マルコ一〇13-16　使徒二37-39

三　式　辞

洗礼は、私たちをイエス・キリストに結びつける新しい契約のしるしです。これは、次のことを保証します。すなわち、父と子と聖霊の三位一体の神による罪の洗いきよめがなされたこと、イエス・キリストご自

身に私たちが接ぎ木され神の子どもとされていること、罪の赦しが実現したこと、聖霊によって新しくされたこと、神の民の一員とされていること、そして私たちが永遠のいのちに生きて復活することです。

洗礼は、信仰を告白する信仰者と同様に、信仰者の子どもたちにも授けられるものです。神はかつて、信仰の父アブラハムと契約を結ばれ、契約のしるしとして子どもに割礼を施すことを命じました。代々の教会は、この信仰に基づいて、信仰者の子どもに洗礼を授けてきました。

この子は、まだ自覚的な信仰を告白するまでには至っていませんが、人のわざに先立つ神の恵みのゆえに、信仰を持つ親と同じ契約の内に加えられたものと受けとめられます。この子が、家庭と教会におい

て信仰の内に育まれて成長し、やがてこの先行する神の恵みに応答して信仰告白に至ることを期待し祈るものです。

四　誓　約

1. あなた(がた)は、愛するこの子に、主イエス・キリストの十字架の贖いによる罪の赦しと、聖霊のみわざによる新生の恵みが必要であることを認めますか。(「認めます。」)
2. あなた(がた)は、この子のために、神の契約の約束を信じますか。(「信じます。」)
3. あなた(がた)は、この子の救いのために、ただ主イエス・キリストにのみより頼みますか。(「より頼みます。」)
4. あなた(がた)は、この子を全く神に委ね、この子の前で敬虔の模範を示し、ともに祈り、教理と信仰を教え、この子がやがて喜び

とともに自ら進んで信仰を言い表すことができるよう、主の薫陶と訓戒のうちに神の民にふさわしく育てることを誓約しますか。（「誓約します。」）

五　聖礼典の執行（授洗）

（　兄弟／姉妹）、父と子と聖霊の御名によって洗礼（バプテスマ）を授ける。

アーメン

六　祈　祷

恵み深い父なる神さま。あなたはかつてアブラハムと契約を結ばれ、その体の包皮を切り取ることによって神の民のしるしをその身に刻まれました。今あなたは、この幼子に洗礼の恵みを施して、神の民のしるしをその身に刻んでくださいました。これによってこの幼子の罪

を赦し、神の民の一員として受け入れられたことの確証を与えてくださったことを感謝します。

どうか、この子を信仰のうちに育てていく親と教会を支え導いてください。聖霊なる神が、この子の内に臨み、この子を支配し、敬虔な信仰の生活を送らせてください。やがてこの子が成長し、自らの口でキリストに対する信仰を告白して聖餐にあずかり、その告白にふさわしくあなたの栄光を現す者とならせてください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

七　宣　言

（受洗者　　兄弟／姉妹）は、今ここに、父・子・聖霊の御名において洗礼を受けました。神の民の一員とされ、（　　）教会の教会員となったことを宣言します。

八　(両) 親への勧告

愛する(両)親　　兄弟／姉妹)。神はこの礼典を通して、この幼子に対する恵みと憐れみを約束し、保証してくださいました。

それゆえあなた(がた)は、神の民の契約の子をあずかる者として、愛と忍耐と責任をもって、主の御前にこの幼子を育てなくてはなりません。神のことばを語り聞かせ、この幼子のために祈り、信仰を持って生きる喜びを分かち合うのです。そして、この幼子がイエス・キリストを救い主と信じて信仰を告白し、自らの主として心から信頼し、神の民としての義務を喜んで果たす者となるよう励んでください。

九　教会員への勧告

教会の皆さんは、同じ心をもって(両)親と幼子のために祈り、幼子の成長に益となる支援を積極的に行って協力してください。また(両)親同様、幼子にとっての良き信仰の模範として、ともに歩んでください。

※このあと、洗礼を受けた幼子を司式者もしくは(両)親が抱いて会衆の方を向き、幼子を紹介してもよい。また、司式者もしくは(両)親が幼子を抱いて会衆の中を歩き、新たに教会の一員に加えられた幼子の顔を会衆一人一人に見せながら、歓迎の時としてもよい。

六　献児式

●献児式は、伝統的に幼児洗礼を行わない教会において、幼児の信仰の成長を祈り、養育の責任を負う(両)親が誓約するために行われてきたものである。

●片親がクリスチャンでない場合でも、理解と了承を得ておくことが望ましい。

●通常、礼拝式の中、あるいは礼拝式直後に、教師が司式者となって行う。親は幼子を抱いて会衆の前に立つ。

一　序　言

ただ今から、献児式を執り行います。

二　聖書朗読(次の箇所等から選ぶ)

マルコの福音書一〇章一三～一六節

さて、イエスに触れていただこうと、人々が子どもたちを連れて来た。ところが弟子たちは彼らを叱った。イエスはそれを見て、憤って弟子たちに言われた。「子どもたちを、わたしのところに来させなさい。邪魔してはいけません。神の国はこのような者たちのものなのです。まことに、あなたがたに言います。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに入ることはできません。」そしてイエスは子どもたちを抱き、彼らの上に手を置いて祝福された。

詩篇128　ルカ二22-24　Ⅰサムエル一20-28

三　式辞

献児式は、ヨセフとマリアが幼子イエスを抱いて神殿に行き、神にささげたことに倣うものであり、幼子の信仰の成長と祝福のために行うものです。

今、この(両)親は、神の恵みによって与えられた幼子を、感謝をもって主の御前に連れてきました。(両)親は、この幼子がやがて教会の交わりの中で自覚的な信仰を告白し洗礼の恵みにあずかる日を期待して祈り、この幼子を主から託された子として愛し、育て、導いていかなければなりません。また教会は、この幼子を神の恵みの約束を受け継ぐ者として迎え、(両)親を励まし、この幼子が健全に成長できるように祈らなければなりません。神がこのことを通して、家族と教会を祝福してくださいますように。

四　誓　約

あなた(がた)は、やがてこの幼子が教会の交わりの中で信仰を告白し、洗礼を受けるに至るまで、日々祈り、みことばと信仰を教え、敬虔の模範を示して育てることを誓約しますか。(「誓約します。」)

五　祈　祷

(司式者は幼子を抱いて、または、頭に手を置いて祈ることがよい)

慈しみ深い天の父なる神さま。御前にある兄弟姉妹を恵み祝し、この幼子を与えてくださったことを心から感謝します。今(両)親は、この幼子をあなたの御前にささげ、その生涯を通して、主の道を歩ませたいと願っています。ここに、この幼子をあなたにおささげします。

今より後、この幼子が神と人とに愛される子として成長し、やがて自ら信仰を告白することができるように導いてください。この(両)親

を守り、その責任を果たさせてください。教会もこの家族とともに、この幼子のために祈り、助けるものとならせてください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

六　(両) 親への勧告

あなた(がた)はこの献児式において、この子を神にささげ、信仰と主の訓戒をもって養育することを誓約しました。(両)親は、愛と忍耐と責任をもって、この幼子を神の恵みを受け継ぐ子して主の御前に育てなくてはなりません。それゆえ、神のことばを語り聞かせ、この幼子のために祈り、信仰を持って生きることの喜びを分かち合うのです。そして、この幼子がイエス・キリストを救い主と信じて信仰を告白し、自らの主として心から信頼し、神の民としての義務を喜んで果たす者となるよう励んでください。

七　教会員への勧告

あなたがたは、今、幼子の(両)親の誓約を聞きました。あなたがたもこの兄弟姉妹が誠実にその責任を果たすことができるように、あらゆる配慮と祈りをもって助けとなってください。また(両)親同様、幼子にとっての良き信仰の模範として、ともに歩んでください。

※このあと、幼子を司式者もしくは(両)親が抱いて会衆の方を向き、幼子を紹介してもよい。また、司式者もしくは(両)親が幼子を抱いて会衆の中を歩き、幼子の顔を会衆一人一人に見せながら、歓迎の時としてもよい。

七　信仰告白式(堅信礼)

●信仰告白式(堅信礼)とは、幼児洗礼を受けた者が自らの信仰を自覚的に言い表すもので、その結果、陪餐の資格を得、教会員としての十全な権利と義務を有するようになる。

●信仰告白式に先立っては、本人が、教会が提供する学び等を受け、役員会(もしくはそれに準じる機関)における試問を経て承認を受けることが求められる。

●信仰告白式に先立って、信仰の証しをしてもらうとよい。

一　序言

信仰告白式は、幼児洗礼を受けた者が、その恵みに応答して、自らの信仰を自覚的に言い表すものです。

二　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

ローマ人への手紙一〇章八～一三節

では、何と言っていますか。「みことばは、あなたの近くにあり、あなたの口にあり、あなたの心にある。」これは、私たちが宣べ伝えている信仰のことばのことです。なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。聖書はこう言っています。「この方に信頼する者は、だれも失望させられることがない。」ユダヤ人とギリシア人の区別はありません。同じ主がすべての人の主であり、ご自分を呼び求めるすべての人に豊かに恵みをお与えになるからです。「主の御名を呼び求める者はみな救われる」のです。

エペソ一3－7

三　式　辞

日本同盟基督教団（　　）教会役員会は、幼児洗礼を受けた（　　兄弟／姉妹）を試問し、明確な信仰を持っていることを確認しましたので、現住陪餐会員としての特権と責任を持つにふさわしいと判断し、ここに信仰告白式を執り行おうとしています。これによって（　　兄弟／姉妹）は、聖徒の交わりにおけるすべての特権が与えられ、とりわけ主の聖餐にあずかることができるようになります。

ですから信仰を告白する者は、これまでの主の守りと導きを感謝し、自らの罪を認めて悔い改め、神の赦しと聖霊の助けを求めなけれ

ばなりません。そして、神の契約に生きる者として、自らを主にささげて生きる決意を新たにしてください。

四　祈　祷

天の父なる神さま。幼児洗礼によって神の契約の中に入れられた（　　兄弟／姉妹）が、（両）親と教会の祈りに支えられて成長し、今ここに信仰告白式を迎える恵みにあずかっています。これまでの主の守りと支えを心から感謝します。

今（　　兄弟／姉妹）は、神の恵みに応えて、神と人との前に誓約しようとしています。どうか、聖霊なる神が助け導いてくださり、罪を認めて悔い改め、神への信仰をはっきりと告白することができるようにしてください。

救い主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

五　誓　約

1. あなたは、天と地の造り主、生けるまことの神のみを信じますか。（「信じます。」）
2. あなたは、この神の前に、自ら罪人であることを認めますか。（「認めます。」）
3. あなたは、自分のために十字架の贖いを成し遂げてくださった神の御子イエス・キリストを信じますか。（「信じます。」）
4. あなたは、聖霊の恵みに謙虚に信頼し、キリストのしもべとしてふさわしく生きることを誓約しますか。（「誓約します。」）
5. あなたは、最善を尽くして教会に仕え、礼拝を熱心にささげ、キリストのからだの一器官として教会員の務めを果たし、かしらなるキリストを証しして生きることを誓約しますか。

（「誓約します。」）

6. あなたは、日本同盟基督教団の教憲・教規、および（　　）教会の規則に従って、教会の純潔と一致と平和のために努めることを誓約しますか。（「誓約します。」）

六　祈　祷

恵み深い父なる神さま。主イエス・キリストの十字架の贖いによって、（　　兄弟／姉妹）を罪から救ってくださったことを感謝します。そこに表された、あなたの愛のみわざを賛美します。

あなたは、（　　兄弟／姉妹）を生まれる前からキリストにあって選び、あなたを信じる信仰者の家庭に生まれさせ、（両）親と教会を通して主の恵みの内に育み、今、神と人との前で信仰を告白させてくださいました。

どうか、聖霊の助けによって、これから直面するすべての誘惑に打ち勝たせてください。（　兄弟／姉妹）が受け継いだ契約の恵みの中で、信仰から信仰に進ませてくださり、主の栄光のために生きる者として、天の御国に入る日までお守りください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

七　宣　言

（　兄弟／姉妹）は、今ここに、父・子・聖霊の三位一体の神に対する自らの信仰を告白しました。それゆえ（　兄弟／姉妹）、あなたは、神の教会のすべての特権を与えられ、聖餐にあずかることができます。

八　信仰告白者への奨励

（　兄弟／姉妹）、あなたは、今ここで行なった信仰の告白と誓約に従い、神の民にふさわしく生きることが求められています。そのために必要な力は、神が与えてくださいます。自らを過信することなく、謙虚に神に委ねつつ、神の聖と義と愛にふさわしい生き方を心掛けてください。

ピリピ人への手紙三章一二～一六節

私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして追求しているのです。そして、それを得るようにと、キリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。兄弟たち。私は、自分がすでに捕らえたなどと考えてはいません。ただ一つのこと、すなわち、うしろのものを忘れ、前のものに向かって身を伸ば

し、キリスト・イエスにあって神が上に召してくださるという、その賞をいただくために、目標を目指して走っているのです。ですから、大人である人はみな、このように考えましょう。もしも、あなたがたが何か違う考え方をしているなら、そのことも神があなたがたに明らかにしてくださいます。ただし、私たちは到達したところを基準にして進むべきです。

Ⅰペテロ一13-16

九　会衆への勧告

(会衆に向かって)愛する兄弟姉妹たち。神はこの信仰告白式を通して、(　　兄弟／姉妹)に対する神の恵みの特権を改めて確認し、保証してくださいました。あなたがたも、同じ信仰に立っていることを確認し、主への信頼と服従の誓いを新たにしてください。

そして、（　　兄弟／姉妹）を、ともに主の聖餐にあずかる神の民の一員として受け入れ、主にある家族として愛し、互いに仕え合って歩んでください。

（信仰告白者と会衆の双方に向けて）

「平和の神ご自身が、あなたがたを完全に聖なるものとしてくださいますように。あなたがたの霊、たましい、からだのすべてが、私たちの主イエス・キリストの来臨のときに、責められるところのないものとして保たれていますように。あなたがたを召された方は真実ですから、そのようにしてくださいます。」（Ⅰテサロニケ五23－24）

※このあと、改めて告白者の紹介をしてもよい。あるいは、迎え入れる教会の代表から、告白者に対する言葉があってもよい。

※聖餐を行う際には、最初に告白者から分餐するとよい。

八　転入会式

●転入会に関わる教規は以下の通り。

教規第90条　他教会から転入しようとする者は、役員会の試問を受け、転入の誓約を経て教会に加えられる。

●この式は、教会を代表する役員会の承認を経て行われる。役員会は転入会を志願する人に適切な導きと教育を与え、志願者が教会の一員として主日礼拝をはじめとする教会の営みにあずかり、兄弟姉妹との良き交わりを築けるように努める責務を負う。なお、役員会を持たない第二種教会は教規58条に従い、主任教師に委託される。

●転入会式の執行においては、誓約、宣言を重要かつ必要不可欠の要素とする。教団内からの転入の場合もこれを省略しないこと。

●日本同盟基督教団の信仰告白は、当日の礼拝の中で唱えてもよい。

●転入者の証しを入れてもよい。

一　序言

ただ今から、（　　兄弟／姉妹）の転入会式を執り行います。

二　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

ヨハネの福音書一五章一～五節

わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫です。わたしの枝で実を結ばないものはすべて、父がそれを取り除き、実を結ぶものはすべて、もっと多く実を結ぶように、刈り込みをなさいます。あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、すでにきよいのです。わたしにとどまりなさい。わたしもあなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木にとどまっていなければ、自分では実を結ぶこと

ができないのと同じように、あなたがたもわたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです。

エペソ四1-6　ローマ一〇8-11

三　日本同盟基督教団の信仰告白

四　式　辞

私たちは、（　）教団（　）教会の会員であった（　　兄弟／姉妹）を、当教会の会員として迎え入れようとしています。（　　兄弟／姉妹）は、すでに主イエス・キリストを信じる信仰を告白し、神の子とされ、洗礼を受けています。このたび、神の深い導きにより、当教会への

転会の申し出があり、役員会での試問と承認を経て、私たちの教会に迎えることとなりました。

五　誓　約

1. あなたは、天と地の造り主、生けるまことの神のみを信じますか。（「信じます。」）
2. あなたは、この神の前に、自ら罪人であることを認めますか。（「認めます。」）
3. あなたは、自分のために十字架の贖いを成し遂げてくださった神の御子イエス・キリストを信じますか。（「信じます。」）
4. あなたは、聖霊の恵みに謙虚に信頼し、キリストのしもべとしてふさわしく生きることを誓約しますか。（「誓約します。」）

5. あなたは、最善を尽くして教会に仕え、礼拝を熱心にささげ、キリストのからだの一器官として教会員の務めを果たし、かしらなるキリストを証しして生きることを誓約しますか。
（「誓約します。」）

6. あなたは、日本同盟基督教団の教憲・教規、および（　　）教会の規則に従って、その純潔と一致と平和のために努めることを誓約しますか。（「誓約します。」）

六　祈　祷

恵み深い父なる神さま。（　　兄弟／姉妹）が、あなたの導きの中で信仰を告白し、（　　）教会の会員となる誓約をして、教会に加えられたことを感謝します。（　　兄弟／姉妹）が私たちとともに礼拝を守り、教会員としての責任を忠実に果たし、証しの生活ができますよう

に。聖霊による助けをもって教会の一致を与え、導いてください。教会のかしらである主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

七　宣　言

（　　兄弟／姉妹）は、今ここに誓約し、（　　）教会の教会員に加えられたことを宣言します。

八　転入会者への勧告

（　　兄弟／姉妹）、教会の一員とされたあなた(がた)は、今ここで行なった信仰の告白と誓約に従い、神と教会を愛し、教会の一員としてふさわしく生きることが求められています。そのために必要な力は、神が与えてくださいます。謙虚に神に委ね、神の聖と義と愛にふさわしい生き方を心掛けてください。

ペテロの手紙第一、一章一三～一六節

ですから、あなたがたは心を引き締め、身を慎み、イエス・キリストが現れるときに与えられる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。従順な子どもとなり、以前、無知であったときの欲望に従わず、むしろ、あなたがたを召された聖なる方に倣い、あなたがた自身、生活のすべてにおいて聖なる者となりなさい。「あなたがたは聖なる者でなければならない。わたしが聖だからである」と書いてあるからです。

ピリピ人三12－16

九　会衆への勧告

（会衆に向かって）愛する兄弟姉妹たち。転入の手続きをし、同じ信仰を告白された（　　兄弟／姉妹）を、同じキリストのからだに属する

教会の一員として受け入れ、主にある家族として愛し、互いに仕え合って歩んでください。

（転入会者と会衆の双方に向けて）

「平和の神ご自身が、あなたがたを完全に聖なるものとしてくださいますように。あなたがたの霊、たましい、からだのすべてが、私たちの主イエス・キリストの来臨のときに、責められるところのないものとして保たれていますように。あなたがたを召された方は真実ですから、そのようにしてくださいます。」

（テサロニケ人への手紙第一、五章二三～二四節）

第三章　教会関係諸式

一　牧師就任式

●関連する法規は、教憲第10条、教規第94～96条、第102～105条、第122条、教師職務規程第２条、第８条、教師戒規規程。

●牧師就任式は教団理事会との合議の上で行い、司式者は宣教区担当理事、宣教区長、または理事会が派遣する教師が行うことが望ましい。

●就任式は主日礼拝の中で行うか、主日の午後など教会員ができる限り参列できる場を設けること。近隣教会に案内し、列席を求めることもよい。

一　序　言

ただ今から、（　　）教師の（　　）教会牧師就任式を執り行います。

二　賛　美

三　祈　祷

教会のかしら、羊の群れの牧者である主イエス・キリストの父なる神さま。あなたの御名を賛美します。

あなたがご自身の教会を愛し、今日ここに、あなたが召されたしもべを遣わし、この群れの牧師としてお立てになり、その尊い務めに就かせてくださることを感謝します。

どうか、この式を祝福し、あなたの恵みで満たし、あなたのみこころを受け取る時としてください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

四　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

エペソ人への手紙四章一一～一六節

こうして、キリストご自身が、ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧師また教師としてお立てになりました。それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためです。私たちはみな、神の御子に対する信仰と知識において一つとなり、一人の成熟した大人となって、キリストの満ち満ちた身丈にまで達するのです。こうして、私たちはもはや子どもではなく、人の悪巧みや人を欺く悪賢い策略から出た、どんな教えの風にも、吹き回されたり、もてあそばれたりすることがなく、むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において、かしらであるキリストに向かって成長するのです。キリストによって、からだ全体は、あら

ゆる節々を支えとして組み合わされ、つなぎ合わされ、それぞれの部分がその分に応じて働くことにより成長して、愛のうちに建てられることになります。

ヨハネ一〇1-18　ヨハネ二一15-19　使徒二〇28-32
Ⅰコリント九16-23　コロサイ一24-29　テトス二1-15

五　式　辞（就任する教師は司式者に向かって立つ）

教会のかしらであり、羊の群れの牧者である主イエス・キリストは、ご自身の群れを教え、養い、導くために牧師をお立てになりました。

今、（　　）教師は、この群れの牧師となることを、主からの召しと導きによると確信し、この務めに就こうとしています。

牧師の務めは、神のみことばを説き明かし、聖礼典を執り行うこと、人々に福音を宣べ伝え、福音の真理を教えること、人々を救いに導き、魂への配慮を行うこと、主の教会を建て上げるために祈り、治め、仕えることにあります。この務めは主イエスからみことばと聖霊によって委ねられたものです。それゆえこの務めに就く者は、主イエスへの信頼と自らの召命を繰り返し確認し続けなければなりません。

六　教師の誓約

（　　）教師。あなたは（　　）教会の牧師に就任するにあたり、神と教会の前に次の誓約をしてください。

1. あなたは、父・子・聖霊なる神の導きによって、この教会の牧師として召されたことを確信しますか。（「確信します。」）
2. あなたは、日本同盟基督教団の正教師任職の際の誓約と教憲・教

規に従って、委ねられた務めを果たし、神の栄光のために奉仕することを誓約しますか。（「誓約します。」）

3. あなたは、日々、みことばを学び、福音の真理に堅く立ち、熱心に福音を宣べ伝え、人々を救いに導き、群れの一人一人を教え、戒め、励まし、養う務めを果たすことを誓約しますか。

（「誓約します。」）

4. あなたは、委ねられた群れを愛し、熱心に祈り、謙遜に仕え、キリストのからだを建て上げるために、その賜物を十分に用いて励むことを誓約しますか。（「誓約します。」）

5. あなたは、みことばに仕える者にふさわしく生活し、群れの模範となり、教会の純潔と一致と平和のために忠実に奉仕することを誓約しますか。（「神と教会の前で誓約します。」）

七　教会員の誓約(教会員はその場に起立する)

(　　)教会の主にある兄弟姉妹。あなたがたはこの教師を牧師として迎えるにあたり、神と教会の前に次の誓約をしてください。

1. あなたがたは、(　　)教師をあなたがたの牧師として主が遣わされたことを確信し、感謝と喜びと敬意をもって、この教師を迎えることを誓約しますか。(「誓約します。」)

2. あなたがたは、牧師の担う重い務めについてよく理解し、牧師の説き明かすみことばと指導に謙遜に聴き従い、牧師とその家族の生活のために十分に配慮し、絶えず祈りをもって支え、助け、心一つに励むことを誓約しますか。(「神と教会の前で誓約します。」)

八　祈祷

父なる神さま。あなたはみこころに基づいて、万物を創造し、救いのご計画を立て、その成就のために御子をお遣わしになりました。御子の十字架と復活によって贖いを成し遂げ、聖霊を送り、教会を建て、御国の完成まで導いてくださることを感謝します。

この大いなる救いのご計画を果たさせるために、あなたは教会に宣教の使命を託し、教会に仕えるしもべを召してくださいました。

今日、（　　）教会に、あなたの召された（　　）牧師をお立てくださったことを感謝します。今ここであなたの御前に誓約した、それぞれの誓約を確かなものとしてください。

牧師に聖霊を満たし、あなたの教会に愛をもって仕えることができるように、すべての賜物を祝福し、すべての必要を満たしてください。

また教会を顧み、牧師と教会員が心を合わせて福音の宣教に励み、ともにあなたのみこころの実現のために仕えることができるように、大いなる祝福をお与えください。聖霊が教会に満ちあふれ、あなたの栄光を現すことができるようにしてください。

私たちの大牧者なる、主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

九　勧　告（説教）

一〇　頌　栄（全員、起立する）

一一　祝　祷（司式者、または就任した牧師がしてもよい）

二　伝道師就任式

●関連する法規は、教憲第10条、教規第94～96条、第102～105条、第122条、教師職務規程第２条、第８条、教師戒規規程。

●伝道師就任式は教団理事会との合議の上で行い、司式者は正教師である主任教師が行うことが望ましい。

●就任式は主日礼拝の中で行うか、主日の午後など教会員ができる限り参列できる場を設けること。近隣教会に案内し、列席を求めることもよい。

一　序　言

ただ今から、（　　）教師の（　　）教会伝道師就任式を執り行います。

二　賛　美

三　祈　祷

教会のかしら、羊の群れの牧者である主イエス・キリストの父なる神さま。あなたの御名を賛美します。

あなたがご自身の教会を愛し、今日ここに、あなたが召されたしもべを遣わし、この群れの伝道師としてお立てになり、その尊い務めに就かせてくださることを感謝します。

どうか、この式を祝福し、あなたの恵みで満たし、あなたのみこころを受け取る時としてください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

四　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

テモテへの手紙第二、四章一～五節

神の御前で、また、生きている人と死んだ人をさばかれるキリスト・イエスの御前で、その現れとその御国を思いながら、私は厳かに命じます。みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。というのは、人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳に心地よい話を聞こうと、自分の好みにしたがって自分たちのために教師を寄せ集め、真理から耳を背け、作り話にそれて行くような時代になるからです。けれども、あなたはどんな場合にも慎んで、苦難に耐え、伝道者の働きをなし、自分の務めを十分に果たしなさい。

ヨハネ一〇1-18　使徒二〇28-32　Ⅰコリント九16-23
コロサイ一24-29

五　式　辞（就任する教師は司式者に向かって立つ）

今、（　　）教師は、この群れの伝道師となることを、主からの召しと導きによると確信し、この務めに就こうとしています。

伝道師の務めは、神のみことばを説き明かすこと、人々に福音を宣べ伝え、福音の真理を教えること、人々を救いに導き、魂への配慮を行うこと、主の教会を建て上げるために牧師とともに祈り、牧師を補佐して教会に仕えることにあります。この務めは主イエスからみことばと聖霊によって委ねられたものです。それゆえこの務めに就く者は、主イエスへの信頼と自らの召命を繰り返し確認し続けなければなりません。

六　教師の誓約

（　　）教師。あなたは（　　）教会の伝道師に就任するにあたり、神と教会の前に次の誓約をしてください。

1. あなたは、父・子・聖霊なる神の導きによって、この教会の伝道師として召されたことを確信しますか。（「確信します。」）

2. あなたは、日本同盟基督教団の補教師准允の際の誓約と教憲・教規に従って、委ねられた務めを果たし、神の栄光のために奉仕することを誓約しますか。（「誓約します。」）

3. あなたは、日々、みことばを学び、福音の真理に堅く立ち、熱心に福音を宣べ伝え、人々を救いに導き、群れの一人一人を教え、戒め、励まし、養う務めを果たすことを誓約しますか。
（「誓約します。」）

4. あなたは、牧師を補佐して委ねられた群れを愛し、熱心に祈り、

謙遜に仕え、キリストのからだを建て上げるために、その賜物を十分に用いて励むことを誓約しますか。（「誓約します。」）

5. あなたは、みことばに仕える者にふさわしく生活し、群れの模範となり、教会の純潔と一致と平和のために忠実に奉仕することを誓約しますか。（「神と教会の前で誓約します。」）

七　教会員の誓約（教会員はその場に起立する）

（　　）教会の主にある兄弟姉妹。あなたがたはこの教師を伝道師として迎えるにあたり、神と教会の前に次の誓約をしてください。

1. あなたがたは、（　　）教師をあなたがたの伝道師として主が遣わされたことを確信し、感謝と喜びと敬意をもって、この教師を迎えることを誓約しますか。（「誓約します。」）

2. あなたがたは、伝道師の担う務めについてよく理解し、伝道師の説き明かすみことばと指導に謙遜に聴き従い、伝道師とその家族の生活のために十分に配慮し、絶えず祈りをもって支え、助け、心一つに励むことを誓約しますか。

（「神と教会の前で誓約します。」）

八　祈　祷

父なる神さま。あなたは御国の福音を宣べ伝える尊い使命を教会に託し、これに仕えるしもべを召してくださいました。

今日、（　　）教会に、あなたの召された（　　）伝道師をお立てくださったことを感謝します。今ここであなたの御前に誓約した、それぞれの誓約を確かなものとしてください。伝道師に聖霊を満たし、あ

なたの教会に愛をもって仕えることができるように、すべての賜物を祝福し、すべての必要を満たしてください。

この教会を顧み、牧師、伝道師、教会員が心を合わせて福音の宣教に励み、ともにあなたのみこころの実現のために仕えることができるように、大いなる祝福をお与えください。聖霊が教会に満ちあふれ、あなたの栄光を現すことができるようにしてください。

私たちの大牧者なる、主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

九　勧　告（説教）

一〇　頌　栄

一一　祝　祷（司式者、または就任した伝道師がしてもよい）

三　役員(長老・執事)任職式(就任式)

●関連する法規は、教規第53～57条。

●教会総会において役員が選出された時、または選出後の主日礼拝において任職式を行う。司式は、主任教師が担う。役員の呼び名を長老・執事としている教会では、適宜読みかえて使用する。

一　序　言

ただ今から、役員任職式を執り行います。

二　聖書朗読(次の箇所等から選ぶ)

ペテロの手紙第一、五章一～五節

私は、あなたがたのうちの長老たちに、同じ長老の一人として、キリストの苦難の証人、やがて現される栄光にあずかる者として勧めます。あなたがたのうちにいる、神の羊の群れを牧しなさい。強制されてではなく、神に従って自発的に、また卑しい利得を求めてではなく、心を込めて世話をしなさい。割り当てられている人たちを支配するのではなく、むしろ群れの模範となりなさい。そうすれば、大牧者が現れるときに、あなたがたは、しぼむことのない栄光の冠をいただくことになります。同じように、若い人たちよ、長老たちに従いなさい。みな互いに謙遜を身に着けなさい。「神は高ぶる者には敵対し、へりくだった者には恵みを与えられる」のです。

使徒六1-6　使徒二〇28-35　ローマ一二1-8　Ⅰテモテ三1-13

三　式　辞（役員は司式者の前で起立する）

私たちは、教会総会で選ばれた兄弟姉妹を教会役員の職に任じようとしています。役員は、牧師とともにキリストのからだである教会に奉仕し、治める務めを果たす者であり、礼拝、伝道、教育、奉仕、交わり、霊的訓練など牧会全体にわたって重い責任を委ねられています。これは、教会のかしらなる主が命じられた尊い職務ですから、主と教会のために、忠実に奉仕することが求められます。

四　誓　約

役員の任職にあたり、神と教会の前に次の誓約をしてください。

1. あなた（がた）は、神の恵みによって役員として選ばれ、その職に任じられようとしています。あなた（がた）がこの務めに任じられ

たのは、教会のかしらであり大牧者である主イエス・キリストの召命によると確信しますか。（「確信します。」）

2. あなた（がた）は、日本同盟基督教団の教憲・教規、および（　）教会の規則に従い、役員会を重んじ、牧師とともに教会を治める務めを果たすことを誓約しますか。（「誓約します。」）

3. あなた（がた）は、教会の一致、純潔、平和、前進のために祈り、また、その言葉と行いにおいて群れの模範となるよう励むことを誓約しますか。（「神と教会の前で誓約します。」）

どうか、この務めに任じられた主が、これを誠実に成し遂げる知恵と力を与えてくださいますように。

五　教会員の誓約　（教会員はその場に起立する）

神が、あなたがたを通して選んだこの兄弟姉妹を今、役員に任じようとしています。あなたがたは、この兄弟姉妹を教会の役員として受け入れ、その重い責任のために祈り、その務めに協力することを誓約しますか。（「神と教会の前で誓約します。」）

六　祈　祷

教会のかしらである主イエス・キリストの父なる神さま。御前に召してくださったしもべ（たち）をこの教会の役員としてください。感謝します。この兄弟姉妹を聖霊で豊かに満たしてください。御前に誓約したことを忠実に守り、牧師とともに教会を正しく導くことができるように、聖霊による知恵と洞察力、判断力を増し加えてください。あなたの御手の中で、忠実にその務めを果たすことができますように。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

七　任職の宣言と勧告

あなた(がた)は今、主イエス・キリストの召しを受けて、役員の務めに任じられました。これは主から出たことですから、役員の務めを果たすための力は主が与えてくださいます。

あなた(がた)は、牧師および他の役員とともにこの群れを守り、導かなければなりません。もし真理から迷い出る者があれば、その誤りを正しく導くのは、あなた(がた)の務めです。すべてにおいて主イエス・キリストを模範とし、キリストのからだである教会に仕えてください。そして、言葉と行いにおいて群れの模範となり、聖書を学び、祈りを怠らず、牧師のために、また群れのために、常に執り成す者となってください。私たちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがたとともにありますように。

四　教会学校校長および教師就任式

一　序言

ただ今から、教会学校校長（教師）の就任式を執り行います。

二　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

エペソ人への手紙四章一一～一六節

こうして、キリストご自身が、ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧師また教師としてお立てになりました。それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためです。私たちはみな、神の御子に対する信仰と知識において一つとなり、一人の成熟した大人となって、キリストの満ち満ちた身丈にまで達するのです。こうして、私たちはもはや子ど

もではなく、人の悪巧みや人を欺く悪賢い策略から出た、どんな教えの風にも、吹き回されたり、もてあそばれたりすることがなく、むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において、かしらであるキリストに向かって成長するのです。キリストによって、からだ全体は、あらゆる節々を支えとして組み合わされ、つなぎ合わされ、それぞれの部分がその分に応じて働くことにより成長して、愛のうちに建てられることになります。

マタイ二八18-20　マルコ一〇13-16　ローマ一二3-8

三　式　辞（教会学校校長および教師は司式者に向かって立つ）

主イエス・キリストが教会に命じられた宣教の使命を果たすため、教会は広く福音を宣べ伝え、信徒を教え育むことに取り組んできまし

た。教会学校もまた、その務めを果たすために設けられたものです。主は「子どもたちを、わたしのところに来させなさい」と招いておられます。今、（　兄弟／姉妹）はこの尊い務めのために召し出され、教会学校校長（教師）の任に就こうとしております。この務めが神さまに祝福され、必要な知恵と力に満たされ、愛と忍耐をもってこの務めを果たすことができるよう祈りましょう。

また、教会はこの就任式において、教会に与えられているこの使命を改めて覚え、教会学校の働きに関心を寄せ、そのために祈り、協力を惜しまず、その働きに参加しましょう。

四　誓　約

あなた（がた）は、教会学校校長（教師）に就任するにあたり、神と教会の前で次の誓約をしてください。

1. あなた(がた)は、教会の宣教の使命を担うこの任に就こうとしています。あなた(がた)は、この務めが主イエス・キリストのみ旨によるものであると確信しますか。(「確信します。」)

2. あなた(がた)は、主から受けたこの尊い務めのために、委ねられた人々を導き、聖霊の助けによって全力を注いで奉仕することを誓約しますか。

(「神と教会の前で誓約します。」)

五　勧　告

(誓約者に対して)

あなた(がた)は、今、神のみ旨によって、教会学校の校長(教師)の務めに就く誓約を、神と教会の前でしました。この務めが重いものであ

ることを自覚し、言葉においても行いにおいても生徒の模範になるよう常に心がけてください。

（教会員に対して）

この兄弟姉妹は、今、校長（教師）として教会学校の務めに任じられました。この働きは、教会教育の重要な役割を果たすものですから、教会はこれらの兄弟姉妹のために祈り、尊敬と忍耐をもって協力することを心がけてください。

六　祈　祷

恵み深い天の父なる神さま。今ここに兄弟姉妹が教会学校校長（教師）の務めに任命されたことを感謝します。主イエスがお命じになった宣教命令を果たすために主の召しを受けて校長（教師）となった兄弟姉妹の上に、主の豊かな祝福と助けが常にあり、その使命を達成するこ

とができますように。また教会が一つとなってこの務めに重荷を負い、ともに祈り、ともに支えることができますように、お助けください。
主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

五　第一種教会設立式

●関連する法規は、教規第34～35条、第41条。
●第一種教会設立の承認を受けた教会は、教団理事会との合議の上、第一種教会設立式を行う。
●この設立式は、その教会の主任教師が司式者となる。

一　序　言

ただ今から、（　　）教会の第一種教会設立式を執り行います。

二　賛　美

三　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

マタイの福音書一六章一三～一九節

さて、ピリポ・カイサリアの地方に行かれたとき、イエスは弟子たちに「人々は人の子をだれだと言っていますか」とお尋ねになった。彼らは言った。「バプテスマのヨハネだという人たちも、エリヤだという人たちもいます。またほかの人たちはエレミヤだとか、預言者の一人だとか言っています。」イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」シモン・ペテロが答えた。「あなたは生ける神の子キリストです。」すると、イエスは彼に答えられた。「バルヨナ・シモン、あなたは幸いです。このことをあなたに明らかにしたのは血肉ではな

く、天におられるわたしの父です。そこで、わたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上に、わたしの教会を建てます。よみの門もそれに打ち勝つことはできません。わたしはあなたに天の御国の鍵を与えます。あなたが地上でつなぐことは天においてもつながれ、あなたが地上で解くことは天においても解かれます。」

ローマ一二1-21　Ⅰコリント三6-17　エペソ一15-23
エペソ四1-16

四　祈　祷

恵み深い父なる神さま。あなたは、かつてこの所にあなたの御名を呼び求める人々を集め、教会として建て、その最初の日から今日まで、福音を伝えることに携わらせ、豊かな成長を与えてくださいまし

た。そして、今ここに主の教会の枝である日本同盟基督教団（　）教会を第一種教会として設立しようとしておられます。
どうか、今あなたの御名のもとに集まる私たちの上に臨み、教会の新たな出発にふさわしい設立式を行わせてください。
教会のかしらなるイエス・キリストの御名によって祈ります。
アーメン

五　第一種教会設立の経過報告

六　教会員の誓約（教会員はその場に起立する）

あなたがたは、かしらなるキリストに連なる枝としての第一種教会の設立にあたり、今ここに以下の誓約をしてください。

1. あなたがたは、日本同盟基督教団の信仰告白、および教憲・教規に従って、第一種教会を組織し、教会に与えられた使命を果たすことを誓約しますか。（「誓約します。」）
2. あなたがたは、教会のかしらなるキリストの恵みと御力に信頼し、教会の純潔と一致と平和のために努力することを誓約しますか。（「誓約します。」）
3. あなたがたは、日本同盟基督教団の第一種教会として（　　）宣教区における宣教の使命をともに担う教会として、宣教区会議に議員を送り、種々の活動に積極的に参与することを誓約しますか。（「誓約します。」）
4. あなたがたは、第一種教会として、さらなる成熟を目指し、宣教区内の他の小さな群れを支えて助けることや、新たな群れを生

み出す働きにも力を注ぐことによって、日本同盟基督教団の宣教協力に貢献する教会として歩むことを誓約しますか。

（「神と教会の前で誓約します。」）

七　第一種教会設立の宣言（司式者が宣言する）

今ここに、（　　）教会がみことばに従い、日本同盟基督教団第一種教会として設立されたことを宣言します。

「教会はキリストのからだであり、すべてのものをすべてのもので満たす方が満ちておられるところです。」（エペソ人への手紙一章二三節）

「あなたがたが最初の日から今日まで、福音を伝えることにともに携わってきたことを感謝しています。あなたがたの間で良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださると、私は確信しています。」（ピリピ人への手紙一章五～六節）

八　教会設立の祈祷

恵み深い父なる神さま。あなたは、ひとり子、主イエス・キリストを世に遣わし、十字架の死と復活によって救いの業を成就し、聖霊によって主をかしらとする教会を建て、その教会を用いて神の国を建設されます。今ここに（　　）教会を第一種教会として設立してくださったことを心から感謝します。

この教会の最初の設立以来、その歩みのすべては父なる神の御手の中にあり、逆境の時は忍耐強く、順境の時は感謝をもって主に信頼し、今日まで福音宣教の業に用いられたことを覚え、感謝します。

どうか、この教会をさらに祝福し、地の塩、世の光としてください。牧師と教会員一同がますます教会を尊び、愛し、互いに仕え、ともに

礼拝と福音の宣教に努め、神の国にふさわしい聖徒の交わりを実現できますよう助けてください。

教会のかしらなるイエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

九　教会に対する勧告（説教）

一〇　賛　美

一一　頌　栄

一二　祝　祷

六　第二種教会設立式

●関連する法規は、教規第34条、第36条、第40条。

●第二種教会設立の承認を受けた教会は、教団理事会との合議の上、第二種教会設立式を行う。

●この設立式は、理事会の派遣する教師が司式者となる。

●設立式には、教会員となるべき者が集まり、同時に教会担任教師である牧師や伝道師の就任式を兼ねて行うことが適当である。

●宣教区内の諸教会に案内し、出席を呼びかけてもよい。また、地域の他教団、他教派への案内についても検討するとよい。

一　序　言

ただ今から、（　　）教会の第二種教会設立式を執り行います。

二　賛　美

三　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

ルカの福音書一二章二九～三二節

何を食べたらよいか、何を飲んだらよいかと、心配するのをやめ、気をもむのをやめなさい。これらのものはすべて、この世の異邦人が切に求めているものです。これらのものがあなたがたに必要であることは、あなたがたの父が知っておられます。むしろ、あなたがたは御国を求めなさい。そうすれば、これらのものはそれに加えて与えられます。小さな群れよ、恐れることはありません。あなたがたの父は、喜んであなたがたに御国を与えてくださるのです。

マタイ一六13-19　ローマ一二1-21　Ⅰコリント三6-17
エペソ一15-23　エペソ四1-16

四祈祷

恵み深い父なる神さま。あなたは、今ここに主の教会の枝である日本同盟基督教団（　　）教会を設立し、この地に福音を宣べ伝え、主に礼拝をささげる民を集めようとしています。

どうか今、あなたの御名のもとに集まる私たちの上に臨み、新しい教会の出発にふさわしい設立式を行わせてください。

教会のかしらなるイエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

五　第二種教会設立の経過報告

六　教会員の誓約（教会員はその場に起立する）

あなたがたは、今ここに、かしらなるキリストに連なる枝としての第二種教会の設立にあたり、以下の誓約をしてください。

1. あなたがたは、日本同盟基督教団の信仰告白、および教憲・教規に従って、第二種教会を組織し、教会に与えられた福音宣教と教会形成の使命を果たすことを誓約しますか。（「誓約します。」）
2. あなたがたは、教会のかしらなるキリストの恵みと御力に信頼し、教会の純潔と一致と平和のために努力することを誓約しますか。（「誓約します。」）
3. あなたがたは、（　　）宣教区に所属する群れとして、宣教区の働きに積極的に参与することを誓約しますか。（「誓約します。」）
4. あなたがたは、将来、第一種教会の要件を満たし、宣教区会議へ議員を送り、日本同盟基督教団の宣教協力に貢献する教会へと成長するように努めることを誓約しますか。

（「神と教会の前で誓約します。」）

七　教会担任教師（牧師、伝道師）の就任式

（「牧師、伝道師就任式」を参照）

八　教会設立の宣言（司式者が宣言する。）

今ここに、神の摂理のもとに、日本同盟基督教団第二種教会として（　　）教会が設立されたことを宣言します。

「教会はキリストのからだであり、すべてのものをすべてのもので満たす方が満ちておられるところです。」（エペソ人への手紙一章二三節）

九　教会設立の祈祷

恵み深い父なる神さま。あなたは、ひとり子、主イエス・キリストを世に遣わし、十字架の死と復活によって救いの業を成就し、聖霊によって主をかしらとする教会を建て、その教会を用いて神の国を建設され

ます。あなたが兄弟姉妹に志を立てさせ、今ここにあなたの教会を設立させてくださったことを心から感謝します。

どうか、この教会を祝福し、地の塩、世の光としてください。牧師と教会員一同が教会を尊び、し、互いに仕え、ともに礼拝と福音の宣教に努め、神の国にふさわしい聖徒の交わりを実現できますように助けてください。また、この教会が、人の支配する所とならず、また世の富と力の支配する所とならず、ただあなただけが主となって統べ治める所となりますよう切にお祈りします。

どうか、教会が成長し、主にある交わりを深め、第一種教会設立にまで至れるように導いてください。教会のかしらなるイエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

一〇　教会に対する勧告(説教)

一一　賛美
一二　頌栄
一三　祝祷

七　第一種教会加入式

●関連する法規は、教規第34～35条、第45条。
●第一種教会として加入の承認を受けた教会は、教団理事会との合議の上、第一種教会加入式を行うことができる。

●加入式は、理事会の派遣する教師が司式者となる。加入式には、教会員となるべき者が集まる。

一 序 言

ただ今から、（　　）教会の第一種教会加入式を執り行います。

二 賛 美

三 聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

コリント人への手紙第一、三章六～一七節

私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。植える者と水を注ぐ者は一つとなって働き、それぞれ自分の労苦に応じて自分の報酬を受けるのです。私たちは神の

ために働く同労者であり、あなたがたは神の畑、神の建物です。私は、自分に与えられた神の恵みによって、賢い建築家のように土台を据えました。ほかの人がその上に家を建てるのです。しかし、どのように建てるかは、それぞれが注意しなければなりません。だれも、すでに据えられている土台以外の物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。だれかがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、藁で家を建てると、それぞれの働きは明らかになります。「その日」がそれを明るみに出すのです。その日は火とともに現れ、この火が、それぞれの働きがどのようなものかを試すからです。だれかの建てた建物が残れば、その人は報いを受けます。だれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、その人自身は火の中をくぐるようにして助かります。あなたがたは、自分が神の宮であり、神の御霊

が自分のうちに住んでおられることを知らないのですか。もし、だれかが神の宮を壊すなら、神がその人を滅ぼされます。神の宮は聖なるものだからです。あなたがたは、その宮です。

マタイ一六13-19　ローマ一二1-21　エペソ一15-23
エペソ四1-16

四 祈祷

恵み深い父なる神さま。あなたは、今ここに主の教会の枝である（　　）教会を日本同盟基督教団へ第一種教会として加入させようとしておられます。

どうか今、あなたの御名のもとに集まる私たちの上に臨み、教会の新たな出発にふさわしい加入式を行わせてください。

教会のかしらなるイエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

五 教会加入の経過報告

六 教会員の誓約(教会員はその場に起立する)

あなたがたは、日本同盟基督教団に第一種教会として加入するにあたり、今ここに以下の誓約をしてください。

1. あなたがたは、日本同盟基督教団の信仰告白、および教憲・教規をよく学び、これに従い、この教団に属する群れとして第一種教会を組織し、教会に与えられた使命を果たすことを誓約しますか。(「誓約します。」)

2. あなたがたは、教会のかしらなるキリストの恵みと御力に信頼し、教会の純潔と一致と平和のために努力することを誓約しますか。（「誓約します。」）

3. あなたがたは、日本同盟基督教団の第一種教会として（　　）宣教区における宣教の使命をともに担う教会として、宣教区会議に議員を送り、種々の活動に積極的に参与することを誓約しますか。（「誓約します。」）

4. あなたがたは、第一種教会として、さらなる成熟を目指し、宣教区内の他の小さな群れを支えて助けることや、新たな群れを生み出す働きにも力を注ぐことによって、日本同盟基督教団の宣教協力に貢献する教会として歩むことを誓約しますか。（「神と教会の前で誓約します。」）

七 教会加入の宣言(司式者が宣言する。)

私は日本同盟基督教団を代表し、今ここに(　　)教会がみことばに従い、日本同盟基督教団第一種教会として加えられたことを宣言します。

「教会はキリストのからだであり、すべてのものをすべてのもので満たす方が満ちておられるところです。」(エペソ人への手紙一章二三節)

八 教会加入の祈祷

恵み深い父なる神さま。あなたは、ひとり子、主イエス・キリストを世に遣わし、十字架の死と復活によって救いの業を成就し、聖霊によって主をかしらとする教会を建て、その教会を用いて神の国を建設されます。そして、あなたは兄弟姉妹に志を立てさせ、今ここにあなたの教会を日本同盟基督教団へと加えてくださいました。(　　)教会が、

この教団及び宣教区にあって、ますます主にある交わりのうちに歩み、ともに宣教の使命を担うことができることを感謝します。

どうか、この教会を祝福し、地の塩、世の光としてください。牧師と教会員一同が教会を尊び、愛し、互いに仕え、ともに礼拝と福音の宣教に努め、神の国にふさわしい聖徒の交わりを実現できますように助けてください。また、この教会が、人の支配する所とならず、また世の富と力の支配する所とならず、ただあなただけが主となって統べ治める所となりますように切にお祈りします。

教会のかしらなるイエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

九 教会に対する勧告(説教)

一〇 賛 美

一一 頌栄
一二 祝祷

八 第二種教会加入式

●関連する法規は、教規第34条、第36条、第45条。
●第二種教会として加入の承認を受けた教会は、教団理事会との合議の上、第二種教会加入式を行うことができる。
●加入式は、理事会の派遣する教師が司式者となる。加入式には、教会員となるべき者が集まる。

一　序言
　ただ今から、（　　）教会の第二種教会加入式を執り行います。
二　賛美
三　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）
　マタイの福音書一六章一三～一九節
　さて、ピリポ・カイサリアの地方に行かれたとき、イエスは弟子たちに「人々は人の子をだれだと言っていますか」とお尋ねになった。彼らは言った。「バプテスマのヨハネだと言う人たちも、エリヤだと言う人たちもいます。またほかの人たちはエレミヤだとか、預言者の一人だとか言っています。」イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」シモン・ペテロが答えた。「あなたは生ける神の子キリストです。」すると、イエスは彼に答えられた。「バルヨナ・シモン、

あなたは幸いです。このことをあなたに明らかにしたのは血肉ではなく、天におられるわたしの父です。そこで、わたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上に、わたしの教会を建てます。よみの門もそれに打ち勝つことはできません。わたしはあなたに天の御国の鍵を与えます。あなたが地上でつなぐことは天においてもつながれ、あなたが地上で解くことは天においても解かれます。」

ルカ一二29-32　ローマ一二1-21　Ⅰコリント三6-17
エペソ一15-23　エペソ四1-16

四　祈祷

恵み深い父なる神さま。あなたは、今ここに主の教会の枝である（　　）教会を日本同盟基督教団へ第二種教会として加入させようとしておられます。

どうか今、あなたの御名のもとに集まる私たちの上に臨み、教会の新たな出発にふさわしい加入式を行わせてください。

教会のかしらなるイエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

五　教会加入の経過報告

六　教会員の誓約（教会員はその場に起立する）

あなたがたは、日本同盟基督教団に第二種教会として加入するにあたり、今ここに以下の誓約をしてください。

1. あなたがたは、日本同盟基督教団の信仰告白、および教憲・教規をよく学び、これに従い、この教団に属する群れとして第二種教会を組織し、教会に与えられた使命を果たすことを誓約しますか。（「誓約します。」）
2. あなたがたは、教会のかしらなるキリストの恵みと御力に信頼し、教会の純潔と一致と平和のために努力することを誓約しますか。（「誓約します。」）
3. あなたがたは、（　　）宣教区に所属する群れとして、宣教区の働きに積極的に参与することを誓約しますか。
（「誓約します。」）

4. あなたがたは、将来、第一種教会の要件を満たし、宣教区会議へ議員を送り、日本同盟基督教団の宣教協力に貢献する教会へと成長するように努めることを誓約しますか。

（「神と教会の前で誓約します。」）

七　教会加入の宣言（司式者が宣言する。）

私は日本同盟基督教団を代表し、今ここに（　　）教会がみことばに従い、日本同盟基督教団第二種教会として加えられたことを宣言します。

「教会はキリストのからだであり、すべてのものをすべてのもので満たす方が満ちておられるところです。」（エペソ人への手紙一章二三節）

八　教会加入の祈祷

恵み深い父なる神さま。あなたは、ひとり子、主イエス・キリストを世に遣わし、十字架の死と復活によって救いの業を成就し、聖霊によって主をかしらとする教会を建て、その教会を用いて神の国を建設されます。そして、あなたは兄弟姉妹に志を立てさせ、今ここにあなたの教会を日本同盟基督教団へと加えてくださいました。（　　）教会が、この教団及び宣教区にあって、ますます主にある交わりのうちに歩み、ともに宣教の使命を担うことができることを感謝します。

どうか、この教会を祝福し、地の塩、世の光としてください。牧師と教会員一同が教会を尊び、愛し、互いに仕え、ともに礼拝と福音の宣教に努め、神の国にふさわしい聖徒の交わりを実現できますように助けてください。また、この教会が、人の支配する所とならず、また世の富

と力の支配する所とならず、ただあなただけが主となって統べ治める所となりますように切にお祈りします。

どうか、教会が成長し、主にある交わりを深め、第一種教会設立にまで至れるように導いてください。

教会のかしらなるイエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

九　教会に対する勧告(説教)

一〇　賛　美

一一　頌　栄

一二　祝　祷

九　教会付属伝道所開設式

●教会付属伝道所の開設は、「所属宣教区をはじめ関係する宣教区と合議のうえでこれを行う」（教規第59条）ものである。また、この際、開設式を行うことができる。

●所属宣教区をはじめ関係する宣教区の諸教会に案内をする場合は、それらの宣教区の役務者に報告の上で行うとよい。

●必要に応じて、担当する教師の就任式を同時に行う。

一　序言

ただ今から、（　　）教会付属（　　）伝道所の開設式を執り行います。

二　賛美

三　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

ローマ人への手紙一〇章一〇～一七節

人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。聖書はこう言っています。「この方に信頼する者は、だれも失望させられることがない。」ユダヤ人とギリシア人の区別はありません。同じ主がすべての人の主であり、ご自分を呼び求めるすべての人に豊かに恵みをお与えになるからです。「主の御名を呼び求める者はみな救われる」のです。しかし、信じたことのない方を、どのようにして呼び求めるのでしょうか。聞いたことのない方を、どのようにして信じるのでしょうか。宣べ伝える人がいなければ、どのようにして聞くのでしょうか。遣わされることがなければ、どのようにして宣べ伝えるのでしょうか。「なんと美しいことか、良い知らせを伝える人たちの足は」と書いてあ

るようにです。しかし、すべての人が福音に従ったのではありません。「主よ。私たちが聞いたことを、だれが信じたか」とイザヤは言っています。ですから、信仰は聞くことから始まります。聞くことは、キリストについてのことばを通して実現するのです。

マタイ一六13－19　ルカ一二29－32　Ⅰコリント三6－17

四 祈祷

恵み深い父なる神さま。あなたが、この所にあなたの福音を宣べ伝え、きよい礼拝をする民を集めるために、伝道所を設けてくださることを感謝します。

どうか今、御名のもとに集まる私たちの上に臨み、新しい伝道所の出発にふさわしい開設式を行わせてください。教会のかしらなるイエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

五　伝道所開設の経過報告

六　教会員の誓約（教会員はその場に起立する）

あなたがたは、（　　）教会付属（　　）伝道所を開設するにあたり、日本同盟基督教団の信仰告白、教憲・教規、および（　　）教会規則に従って、これを組織して、伝道所に与えられた使命を遂行し、神の恵みによって、伝道所の純潔と一致と平和のために努力することを誓約しますか。（「神と教会の前で誓約します。」）

七　担当する教師の就任式（別項参照）

八　伝道所開設の宣言（司式者が宣言する。）

今ここに（　　）教会付属（　　）伝道所が、主の導きにより、開設されたことを宣言します。

九　伝道所開設の祈祷

恵み深い父なる神さま。あなたが、その永遠のご計画によって、ここに主イエスをかしらとする伝道所を開設させてくださったことを感謝します。どうか、ここにおいて、福音の宣教が力強くなされ、良き実を結んで、主の栄光を現し、成長して、この伝道所が新たな教会の設立へと向かいますように、導いてください。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

一〇 勧告（説教）

一一 賛美

一二 頌栄

一三 祝祷

一〇　教会合併式

●教規第42条に則って、教会の合併の承認を得たときには、教会合併式を行う。

一　序言

ただ今から、（　　）教会と（　　）教会が、（　　）教会として合併することを覚えて、教会合併式を執り行います。

二　賛美

三　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

エペソ人への手紙一章一五～二三節

こういうわけで私も、主イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対する愛を聞いているので、祈るときには、あなたがたのこと

を思い、絶えず感謝しています。どうか、私たちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。また、あなたがたの心の目がはっきりと見えるようになって、神の召しにより与えられる望みがどのようなものか、聖徒たちが受け継ぐものがどれほど栄光に富んだものか、また、神の大能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力が、どれほど偉大なものであるかを、知ることができますように。この大能の力を神はキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上でご自分の右の座に着かせて、すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世だけでなく、次に来る世においても、となえられるすべての名の上に置かれました。また、神はすべてのものをキリストの足の下に従わせ、キリストを、すべてのものの上に立

つかしらとして教会に与えられました。教会はキリストのからだであり、すべてのものをすべてのもので満たす方が満ちておられるところです。

マタイ一六13-19　ローマ一〇10-17　Ⅰコリント三6-17
エペソ四1-16

四 祈祷

恵み深い父なる神さま。あなたは、かつて（　　）教会と（　　）教会を建ててくださり、その最初の日から今日まで、福音宣教の働きに用いてくださいました。そして、今ここに、その二つの教会が、一つの群れとなるように導いてくださいました。

どうか今、あなたの御名のもとに集まる私たちの上に臨み、新しい教会の出発にふさわしい教会合併式を行わせてください。
教会のかしらなるイエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

五　教会合併の経過報告

六　教会員の誓約（教会員はその場に起立する）

かしらなるキリストに連なる枝として二つの教会が一つに合併するにあたり、あなたがたは以下の誓約をしてください。

1. あなたがた（　　）教会と（　　）教会は、日本同盟基督教団の信仰告白、および教憲・教規に従って、（　　）教会として一つになり、教会に与えられた使命を果たすことを誓約しますか。（「誓約します。」）

2. あなたがたは、教会のかしらなるキリストの恵みと御力に信頼し、教会の純潔と一致と平和のために努力することを誓約しますか。（「神と教会の前で誓約します。」）

七　教会合併の宣言

今ここに、二つの教会が（　　）教会として一つの群れとなったことを宣言します。

「教会はキリストのからだであり、すべてのものをすべてのもので満たす方が満ちておられるところです。」

（エペソ人への手紙一章二三節）

「平和の絆で結ばれて、御霊による一致を熱心に保ちなさい。あなたがたが召された、その召しの望みが一つであったのと同じように、からだは一つ、御霊は一つです。主はひとり、信仰は一つ、バプテスマは一つ

です。すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのもののうちにおられる、すべてのものの父である神はただひとりです。」

（エペソ人への手紙四章三～六節）

八　教会合併の祈祷

恵み深い父なる神さま。あなたは、ひとり子、主イエス・キリストを世に遣わし、十字架の死と復活によって救いの業を成就し、聖霊によって主をかしらとする教会を建て、その教会を用いて神の国を建設されます。今ここに二つの教会を（　　）教会として一つに合併させてくださったことを心から感謝します。

二つの教会の最初の設立以来、その歩みの全ては父なる神の御手の中にあり、逆境の時は忍耐強く、順境の時は感謝をもって主に信頼し、今日まで福音宣教の業に用いられたことを覚えます。そして、これか

らはその二つの群れが一つとなります。いつも励まし合うことのできる交わりのうちに歩むことができますように。

どうか、この教会をさらに祝福し、地の塩、世の光としてください。牧師と教会員一同がますます教会を尊び、愛し、互いに仕え、ともに礼拝と福音の宣教に努め、神の国にふさわしい聖徒の交わりを実現できますように助けてください。教会のかしらなるイエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

九　説　教

一〇　賛　美

一一　頌　栄

一二　祝　祷

一一　教会堂建築起工式

●起工式は、教会堂を建築するにあたり、土地を定めた後、工事を起こす前に、教会員および工事関係者が集まって、その現地で行う。

●教会堂建築起工式では、「鍬入れ」をする場合がある。聖書に基づくものではないので、式中での有無は自由であるが、工事関係者を配慮しつつ検討するとよい。行う場合は、会堂建築を予定している敷地に土砂を盛り上げ、鍬またはスコップなどを入れることができるようにし、その後、祈りをささげる。

●牧師館など、教会に関する他の建築の起工式もこれに準じる。

●起工式に異教的な習慣が入らないようにする。

一　序言

ただ今から（　　）教会、教会堂建築起工式を執り行います。

二　賛　美

三　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

詩篇一二七篇一～五節　都上りの歌。ソロモンによる。
主が家を建てるのでなければ　建てる者の働きはむなしい。
主が町を守るのでなければ　守る者の見張りはむなしい。
あなたがたが早く起き　遅く休み　労苦の糧を食べたとしても
それはむなしい。実に　主は愛する者に眠りを与えてくださる。
見よ　子どもたちは主の賜物　胎の実は報酬。
若いときの子どもたちは　実に　勇士の手にある矢のようだ。
幸いなことよ　矢筒をその矢で満たしている人は。
彼らは門で敵と論じるとき　恥を見ることがない。

詩篇一二一 1-8　マタイ七24-27　Ⅰコリント三10-17
エペソ二20-22　Ⅰペテロ二1-10

四 祈祷

天地の造り主なる全能の父なる神さま。万物はあなたのみことばによって造られ、あなたの御手のうちにあります。私たちはあなたに礼拝をささげ、あなたのみことばを宣べ伝えるために、今この地に教会堂を建てようとしています。

この地に建てられる教会堂が、御名の栄光のために用いられますように切にお願いします。これから始まるすべての工事の上に、神の守りが豊かにありますように心からお願いします。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

五 鍬入れ

（牧師、役員並びに工事関係者が、それぞれ鍬あるいはスコップを入れる。）

六　工事関係者のための祈祷

慈愛に富みたもう父なる神よ、この建築に携わる人々が、あらゆるけがや事故から守られ、安全に仕事にあたることができますようにお願いします。どうか、その仕事を忠実に果たすことができますように、資材や天候をも整えられて、計画どおりに工事が進められますようにお祈りします。すべてのことを通して御名があがめられますように。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

七　賛美

八　頌栄

九　祝祷

一二　教会堂定礎式

●定礎式は、会堂建築にあたり、礎石を定めた後に行う式である。

一　序言

ただ今から（　　）教会、教会堂の定礎式を執り行います。

二　賛美

三　式辞

全能なる神は、手で造られた宮に住まわれるお方ではありませんが、地に住む私たちに、神を礼拝するために会堂を建てることをお許しになりました。この会堂において私たちは、神を礼拝し、宣教の業に励み、キリストのからだなる教会の使命を果たすものであります。神

の深い摂理のうちに、会堂建築の計画が進み、今ここに定礎式を執り行うことのできるのは、神の豊かな恵みとして感謝するものであります。

四　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

歴代誌第二　六章一～二節、一八～二〇節

そのとき、ソロモンは言った。「主は、黒雲の中に住む、と言われました。そこでこの私は、あなたの御住まいである家を建てました。御座がとこしえに据えられる場所を。」……

それにしても、神は、はたして人間とともに地の上に住まわれるでしょうか。実に、天も、天の天も、あなたをお入れすることはできません。まして私が建てたこの宮など、なおさらのことです。あなたのしもべの祈りと願いに御顔を向けてください。私の神、主よ。あなたのしも

べが御前にささげる叫びと祈りを聞いてください。そして、この宮、すなわち、あなたの御名をそこに置くと言われたこの場所に、昼も夜も御目を開き、あなたのしもべがこの場所に向かってささげる祈りを聞いてください。

詩篇一二七1-5　マタイ一六18-19　エペソ二20-22　Ⅰペテロ二1-10

五 祈祷

天地の造り主なる神さま。神の深い摂理のうちに、私たちに会堂を建てる志を与えてくださいましたことを心から感謝します。

今ここに、主の御名によってその礎を堅く据え、御目にかなう会堂をその上に建てることができますように祝し導いてください。信仰による私たちの業を用いてこれを完成させ、主の栄光を現してください。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

六 定 礎（礎石を据え、その中に工事関係の記録などをおさめる。）

七 定礎の辞

全能の神の御旨により、私たちは、今ここに（　）教会会堂の礎石を据えます。

「それゆえ、神である主はこう言われる。『見よ、わたしはシオンに一つの石を礎として据える。これは試みを経た石、堅く据えられた礎の、尊い要石。これに信頼する者は慌てふためくことがない。』」

（イザヤ書二八章一六節）

「だれも、すでに据えられている土台以外の物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。」

（コリント人への手紙第一、三章一一節）

八 祈祷

全能の父なる神さま。私たちは今、（　）教会の会堂を建てるために、その礎石を据えさせていただきました。心から感謝します。

どうか、この礎石の上に建てられる会堂の建築工事に神の祝福と守りが豊かにありますように。この工事に携わる人々がけがやあらゆる事故から守られますように祈ります。やがて建てられるこの会堂を通して、神の栄光が豊かに現されますように。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

九 頌栄

一〇 祝祷

一三　教会堂献堂式

●司式は、その教会の主任教師があたる。
●式のためのプログラム（聖句・賛美歌をともに印刷した）をあらかじめ用意しておくことが大切である。当日は、教会員、工事関係者、献金した方々、他教会の教会員が集まるので、十分用意を整えておくべきである。
●工事関係者には、感謝状および記念品を用意して式の中で渡し謝辞を述べるとよい。

一　序言

ただ今から（　　）教会、教会堂献堂式を執り行います。

二　前奏

三 招 詞

詩篇二四篇一～五節　ダビデによる。賛歌。
地とそこに満ちているもの　世界とその中に住んでいるもの
それは主のもの。主が　海に地の基を据え　川の上に
それを堅く立てられたからだ。だれが　主の山に登り得るのか。
だれが　聖なる御前に立てるのか。手がきよく　心の澄んだ人
そのたましいをむなしいものに向けず　偽りの誓いをしない人。
その人は　主から祝福を受け　自分の救いの神から義を受ける。

四 賛 美

五 聖書朗読(次の箇所等から選ぶ)

列王記第一、八章二二～三〇節

ソロモンはイスラエルの全会衆の前で、主の祭壇の前に立ち、天に向かって両手を伸べ広げて、こう言った。「イスラエルの神、主よ。上は天、下は地にも、あなたのような神はほかにありません。あなたは、心を尽くして御前に歩むあなたのしもべたちに対し、契約と恵みを守られる方です。あなたは、あなたのしもべ、私の父ダビデに約束したことを、ダビデのために守ってくださいました。あなたは御口をもって語り、また、今日のように御手をもってこれを成し遂げられました。そこで今、イスラエルの神、主よ。あなたのしもべ、私の父ダビデに約束されたことを、ダビデのために守ってください。『あなたがわたしの前に歩んだように、あなたの子孫がその道を守り、わたしの前に歩みさえするなら、あなたには、イスラエルの王座に就く者がわたしの前から断たれることはない』と言われたことを。今、イスラエルの神よ。どう

かあなたのしもべ、私の父ダビデに約束されたおことばが堅く立てられますように。それにしても、神は、はたして地の上に住まわれるでしょうか。実に、天も、天の天も、あなたをお入れすることはできません。まして私が建てたこの宮など、なおさらのことです。あなたのしもべの祈りと願いに御顔を向けてください。私の神、主よ。あなたのしもべが、今日、御前にささげる叫びと祈りを聞いてください。そして、この宮、すなわち『わたしの名をそこに置く』とあなたが言われたこの場所に、夜も昼も御目を開き、あなたのしもべがこの場所に向かってささげる祈りを聞いてください。あなたのしもべとあなたの民イスラエルが、この場所に向かってささげる願いを聞いてください。あなたご自身が、あなたの御住まいの場所、天においてこれを聞いてください。聞いて、お赦しください。

Ⅱ歴代誌六12-21　マタイ一六18-19

六 祈 祷

恵み深い神さま。あなたは過ぐる日、私たちに教会堂を建てる志を与えてくださり、今、御前にこの会堂を建て上げさせてくださったことを感謝します。私たちは、この教会堂をあなたのご栄光のためにささげようと一同御前に集まりました。どうか、この式を祝福し、みこころにかなうものとして受け入れてください。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

七 賛 美

八 工事経過報告(あらかじめ文書にまとめておくとよい)

九 献堂の宣言(献堂する教会の教会員はその場に起立する)

（司式者による宣言の後、教会員の唱和による宣言をし、全会衆で「アーメン」を唱和する。式次第等に印刷しておくとよい。）

（司式者）

愛する兄弟姉妹、神は御名の栄光のために、神を礼拝し、みことばを宣べ伝え、聖礼典を行い、主にある交わりと奉仕の場として、この会堂を建築する志を与え、今ここに、その完成に至らせてくださいました。

（教会員）

全能の神よ、私たちは、神の恵みを感謝しつつ、大いなる賛美と喜びをもって、（　　）教会の教会堂を慎んで御前におささげします。

（全会衆）アーメン

一〇　祈祷

聖なる全能の神さま。私たちは今、信仰とまごころをもって、この教会堂を御前におささげします。どうか、これをお受け入れください。また、父なる神、子なるキリスト、聖霊なる神の尊い御名によって、これを聖別し、御名の栄光のためにお用いください。ここで神を礼拝し、また祈りの家とし、聖礼典を執り行い、みことばを学び、福音を宣べ伝え、聖徒の交わりをなし、賛美と感謝にあふれる場所としてください。

この教会堂に集まる者たちを、キリストのからだなる教会の器官として、たえず、キリストのあかしをたてることができる者としてください。さらに、この会堂において、神が備えてくださる永遠の住まいを思い、神の国で親しく主に仕える備えをさせてください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

一一　賛美

一二 説教
一三 挨拶
（工事関係者への挨拶と感謝、来賓の祝辞、祝電披露等。）
一四 頌栄
一五 祝祷

第四章　教団関係諸式

一　正教師任職式（按手式）

●関連する法規は、教憲第10条、教規第12条⑨、第95条、第96条、第98条。
●正教師任職式は教団総会において行い、教団理事長が司式する。
●按手は原則として教団理事長、副理事長、常任書記、教職理事が行い、教団顧問、理事長経験者を加えることができる。按手に際しては、受按者の頭に手を置く。

一 序言

ただ今から、日本同盟基督教団の正教師任職式を執り行います。今、主の御前に立つ教師(たち)は、補教師として准允(じゅんいん)を受け、伝道と牧会の業に励み、正教師試験に合格し、教団総会の承認を経て、牧師の務めを担うにふさわしい者と認められました。

正教師の務めは、教会における教える務めと治める務めの全般を担うもので、とりわけ聖礼典の執行をつかさどる重いものです。そこで私たちは、今ここに主をおそれかしこみつつ、聖霊の恵みに信頼して、この教師(たち)に按手を授け、正教師の務めに任職しようとするものです。

二 祈祷

父なる神さま。あなたは「聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げる」（エペソ四12）ために、教会に教師の務めを置かれ、御前に立つ教師たちをキリストのうちに選び、この職務に召してくださいました。

どうか、聖霊によって真理のみことばを語らせ、敬虔できよい生き方をもってこの職務を忠実に果たし、主の栄光を現す者としてください。

教会のかしらなる主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

三　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

テモテへの手紙第一、四章十六～一六節

これらのことを兄弟たちに教えるなら、あなたは、信仰のことばと、自分が従ってきた良い教えのことばで養われて、キリスト・イエスの立派な奉仕者になります。俗悪で愚にもつかない作り話を避けなさい。むしろ、敬虔のために自分自身を鍛錬しなさい。肉体の鍛錬も少しは有益ですが、今のいのちと来たるべきいのちを約束する敬虔は、すべてに有益です。このことばは真実であり、そのまま受け入れるに値するものです。私たちが労苦し、苦闘しているのは、すべての人々、特に信じる人々の救い主である生ける神に、望みを置いているからです。あなたはこれらのことを命じ、また教えなさい。あなたは、年が若いからといって、だれにも軽く見られないようにしなさい。むしろ、ことば、態度、愛、信仰、純潔において信者の模範となりなさい。私が行くまで、聖書の朗読と勧めと教えに専念しなさい。長老たちによる按手を

受けたとき、預言によって与えられた、あなたのうちにある賜物を軽んじてはいけません。これらのことに心を砕き、ひたすら励みなさい。そうすれば、あなたの進歩はすべての人に明らかになるでしょう。自分自身にも、教えることにも、よく気をつけなさい。働きをあくまでも続けなさい。そうすれば、自分自身と、あなたの教えを聞く人たちとを、救うことになるのです。

Ⅰコリント四1-5　エペソ四11-15　Ⅰテサロニケ二3-13
Ⅱテモテ四1-8

四 正教師の誓約

今、あなた(がた)が召され、その務めをもって仕える教会は、「神がご自分の血をもって買い取られた神の教会」(使徒二〇28)です。

あなた(がた)は、正教師の務めに任じられるにあたり、神と教会の前に次の誓約をしてください。

1. あなた(がた)は、旧新約聖書66巻が、誤りのない神のことばであり、信仰と生活の唯一絶対の規範であると信じますか。
(「信じます。」)
2. あなた(がた)は、この按手による任職が神の恵みによるものであり、教会のかしら、羊の群れの大牧者である主イエス・キリストの召命によると確信しますか。(「確信します。」)
3. あなた(がた)は、与えられた召命に基づき、日本同盟基督教団の信仰告白に従って、神のみことばを正しく真摯に宣べ伝え、聖礼典を厳正に執り行い、戒規を重んじ、福音を宣べ伝えて人々を救

いに導き、委ねられた群れをふさわしく教え、治め、牧すること
を誓約しますか。（「誓約します。」）

4. あなた(がた)は、日本同盟基督教団の教憲・教規を遵守し、福音の真理および教会の純潔と一致と平和のために、熱心に祈り、励むことを誓約しますか。（「誓約します。」）

5. あなた(がた)は、みことばに仕える者として敬虔と品性を身につけ、言葉と生活においてキリストを証しし、キリストのしもべとして群れの模範となるように努めることを誓約しますか。（「神と教会の前で謹んで誓約します。」）

どうか、主なる神が、今ここに立てた誓約を忠実に果たす力を与えてくださいますように。アーメン

五 按手

（受按者はその場にひざまずき、按手を授ける教師たちはその周囲に立って受按者の頭に手を置き、司式者が祈祷をささげる。なお司式者は数名を指名して祈祷をささげさせてもよい。その場合は、最後に司式者が祈祷をささげる。）

六 祈祷

父・子・聖霊の三位一体の神さま。いま、御前にひざまずくこの教師(たち)に、正教師任職の按手をもって祈り願います。

どうか、御父が選び、御子によって救いにあずからせ、聖霊によって召してくださったあなたのしもべ(たち)を聖別し、主の教会を教え、治める務めに就かせてください。その務めに必要なすべての賜物を豊かに授け、忠実に神のみことばを宣べ伝え、聖礼典を執行し、教会を治め

る者としてください。あなたの召されたこの教師(たち)を通して、主の教会がいよいよ建て上げられ、御国の完成に向かって前進するようにしてください。

教会のかしらなる、主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

七 任職の宣言

日本同盟基督教団は、今ここに立つ教師(たち)が、按手を受け、正教師の務めに任職されたことを宣言します。

八 祝 祷

九 辞令交付・紹介

二　補教師任職式(准允式)

●関連する法規は、教憲第10条、教規第12条⑨、第95条、第96条、第98条。
●補教師任職式は教団総会において行い、教団理事長が司式する。

一　序言

ただ今から、日本同盟基督教団の補教師任職式を執り行います。今、主の御前に立つこの教師候補者(たち)は、定められた神学教育課程を経て、補教師試験に合格し、教団総会の承認を経て、主の働き人としての務めを担うにふさわしい者と認められました。

補教師の務めは、正教師である主任教師を補佐して、教会における教える務めと治める務めを共同で担うものです。そこで私たちは、今

ここに主をおそれかしこみつつ、聖霊の恵みに信頼して、この者(たち)を補教師の務めに任職しようとするものです。

二　祈　祷

父なる神さま。あなたは福音を宣べ伝え、教会を建て上げるために、御前に立つ教師候補者たちを補教師の職務に召してくださいました。

どうか、聖霊によって真理のみことばを語らせ、敬虔できよい生き方をもってこの職務を忠実に果たし、主の栄光を現す者としてください。

教会のかしらなる主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

三　聖書朗読(次の箇所等から選ぶ)

テモテへの手紙第二、四章一～五節

神の御前で、また、生きている人と死んだ人をさばかれるキリスト・イエスの御前で、その現れとその御国を思いながら、私は厳かに命じます。みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。というのは、人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳に心地よい話を聞こうと、自分の好みにしたがって自分たちのために教師を寄せ集め、真理から耳を背け、作り話にそれて行くような時代になるからです。けれども、あなたはどんな場合にも慎んで、苦難に耐え、伝道者の働きをなし、自分の務めを十分に果たしなさい。

マタイ九35－38

四　補教師の誓約

今、あなた(がた)が召され、その務めをもって仕える教会は、「神がご自分の血をもって買い取られた神の教会」(使徒二〇28)です。

あなた(がた)は、補教師の務めに任じられるにあたり、神と教会の前に次の誓約をしてください。

1. あなた(がた)は、旧新約聖書66巻が、誤りのない神のことばであり、信仰と生活の唯一絶対の規範であると信じますか。
(「信じます。」)

2. あなた(がた)は、この任職が神の恵みによるものであり、教会のかしら、羊の群れの大牧者である主イエス・キリストの召命によると確信しますか。(「確信します。」)

3. あなた(がた)は、与えられた召命にもとづき、日本同盟基督教団の信仰告白に従って、神のみことばを正しく宣べ伝え、人々を救いに導き、委ねられた群れを教え、ふさわしく牧することを誓約しますか。(「誓約します。」)

4. あなた(がた)は、日本同盟基督教団の教憲・教規を遵守し、福音の真理および教会の純潔と一致と平和のために、熱心に祈り、励むことを誓約しますか。(「誓約します。」)

5. あなた(がた)は、みことばに仕える者として敬虔と品性を身につけ、言葉と生活においてキリストを証しし、キリストのしもべとして群れの模範となるように努めることを誓約しますか。(「神と教会の前で謹んで誓約します。」)

どうか、主なる神が、今ここに立てた誓約を忠実に果たす力を与えてくださいますように。アーメン

五　任職の祈祷

父・子・聖霊の三位一体の神さま。いま、御前に立つあなたのしもべたちを補教師に任職するにあたり、あなたに祈り願います。どうか御父が選び、御子によって救いにあずからせ、聖霊によって召してくださったあなたのしもべ(たち)を聖別し、祝福してください。補教師の務めを忠実に果たさせ、やがて正教師として任じられる者、補教師として教会に仕える者として、それぞれに用いてください。

どうか、その務めに必要なすべての賜物を豊かに授け、忠実に神のみことばを宣べ伝え、あなたの召されたこの教師(たち)を通して、主の

教会がいよいよ建て上げられ、御国の完成に向かって前進するようにしてください。

教会のかしらなる、主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

六 任職の宣言

日本同盟基督教団は、今ここに立つ者(たち)が、補教師の務めに任職されたことを宣言します。

七 祝祷

八 辞令交付・紹介

三　加入正教師任職式

●関連する法規は教憲第10条、教規第12条⑨、第95～96条、第98条、第120条。
●加入教師任職式は教団総会において行い、教団理事長が司式する。
●正教師加入の場合は按手を除いて正教師任職式に準じる。

一　序言

ただ今から、加入正教師任職式を執り行います。今、主の御前に立つ教師(たち)は、定められた手続きと教団総会の承認を経て、日本同盟基督教団の正教師の務めを担うにふさわしい者と認められました。

そこで私たちは、今ここに主をおそれかしこみつつ、聖霊の恵みに信頼して、この教師(たち)を日本同盟基督教団正教師の務めに任職しようとするものです。

二 祈祷

父なる神さま。あなたの導きにより、この教師(たち)を私たちの群れに加えてくださることを感謝します。

どうか、聖霊によって真理のみことばを語らせ、敬虔できよい生き方をもってこの職務を忠実に果たし、主の栄光を現す者としてください。教会のかしらなる主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

三 聖書朗読(次の箇所等から選ぶ)

テサロニケ人への手紙第一、二章三～一三節

私たちの勧めは、誤りから出ているものでも、不純な心から出ているものでもなく、だましごとでもありません。むしろ私たちは、神に認められて福音を委ねられた者ですから、それにふさわしく、人を喜ばせるのではなく、私たちの心をお調べになる神に喜んでいただこうとして、語っているのです。あなたがたが知っているとおり、私たちは今まで、へつらいのことばを用いたり、貪りの口実を設けたりしたことはありません。神がそのことの証人です。また私たちは、あなたがたからも、ほかの人たちからも、人からの栄誉は求めませんでした。キリストの使徒として権威を主張することもできましたが、あなたがたの間では幼子になりました。私たちは、自分の子どもたちを養い育てる母親のように、あなたがたをいとおしく思い、神の福音だけではなく、自

分自身のいのちまで、喜んであなたがたに与えたいと思っています。あなたがたが私たちの愛する者となったからです。兄弟たち。あなたがたは私たちの労苦と辛苦を覚えているでしょう。私たちは、あなたがたのだれにも負担をかけないように、夜も昼も働きながら、神の福音をあなたがたに宣べ伝えました。また、信者であるあなたがたに対して、私たちが敬虔に、正しく、また責められるところがないようにふるまったことについては、あなたがたが証人であり、神もまた証人です。また、あなたがたが知っているとおり、私たちは自分の子どもに向かう父親のように、あなたがた一人ひとりに、ご自分の御国と栄光にあずかるようにと召してくださる神にふさわしく歩むよう、勧め、励まし、厳かに命じました。こういうわけで、私たちもまた、絶えず神に感謝しています。あなたがたが、私たちから聞いた神のことばを受けた

ばとして受け入れてくれたからです。この神のことばは、信じているときに、それを人間のことばとしてではなく、事実そのとおり神のことあなたがたのうちに働いています。

Ⅰコリント四1－5　Ⅰテモテ四6－16　エペソ四11－15
Ⅱテモテ四1－8

四　加入正教師の誓約

今、あなた(がた)が召され、その務めをもって仕える教会は、「神がご自分の血をもって買い取られた神の教会」(使徒二〇28)です。

あなた(がた)は、日本同盟基督教団の正教師の務めに任じられるにあたり、神と教会の前に次の誓約をしてください。

1. あなた(がた)は、旧新約聖書66巻が、誤りのない神のことばであり、信仰と生活の唯一絶対の規範であると信じますか。
(「信じます。」)
2. あなた(がた)は、この任職が神の恵みによるものであり、教会のかしら、羊の群れの大牧者である主イエス・キリストの召命によると確信しますか。(「確信します。」)
3. あなた(がた)は、与えられた召命にもとづき、日本同盟基督教団の信仰告白に従って、神のみことばを正しく真摯に宣べ伝え、聖礼典を厳正に執り行い、戒規を重んじ、福音を宣べ伝えて人々を救いに導き、委ねられた群れをふさわしく教え、治め、牧することを誓約しますか。(「誓約します。」)

4. あなた(がた)は、日本同盟基督教団教憲・教規を遵守し、福音の真理および教会の純潔と一致と平和のために、熱心に祈り、励むことを誓約しますか。(誓約します。」)

5. あなた(がた)は、みことばに仕える者として敬虔と品性を身につけ、言葉と生活においてキリストを証しし、キリストのしもべとして群れの模範となるように努めることを誓約しますか。

(「神と教会の前で謹んで誓約します。」)

どうか、主なる神が、今ここに立てた誓約を忠実に果たす力を与えてくださいますように。アーメン

五 任職の祈祷

父・子・聖霊の三位一体の神さま。あなたは「聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げる」(エペソ四20)ために、

教会に教師の務めを置かれ、御前に立つ教師たちをキリストのうちに選び、この職務に召してくださいました。

どうか、その務めに必要なすべての賜物を豊かに授け、忠実に神のみことばを宣べ伝え、聖礼典を執行し、教会を治める者としてください。あなたの召されたこの教師(たち)を通して、主の教会がいよいよ建て上げられ、御国の完成に向かって前進するようにしてください。教会のかしらなる、主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

六 任職の宣言

日本同盟基督教団は、今ここに立つ教師(たち)が、本教団の正教師の務めに任職されたことを宣言します。

七 祝祷

八 辞令交付・紹介

四　加入補教師任職式

●関連する法規は教憲第10条、教規第12条⑨、第95～96条、第98条、第120条。
●加入教師任職式は教団総会において行い、教団理事長が司式する。
●補教師加入の場合は補教師任職式に準じる。

一　序言

ただ今から、加入補教師任職式を執り行います。今、主の御前に立つ教師(たち)は、定められた手続きと教団総会の承認を経て、日本同盟基督教団の補教師の務めを担うにふさわしい者と認められました。

そこで私たちは、今ここに主をおそれかしこみつつ、聖霊の恵みに信頼して、この教師(たち)を日本同盟基督教団補教師の務めに任職しようとするものです。

二 祈祷

父なる神さま。あなたの導きにより、この教師(たち)を私たちの群れに加えてくださることを感謝します。

どうか、聖霊によって真理のみことばを語らせ、敬虔できよい生き方をもってこの職務を忠実に果たし、主の栄光を現す者としてください。教会のかしらなる主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

三 聖書朗読(次の箇所等から選ぶ)

マタイの福音書九章三五～三八節

それからイエスは、すべての町や村を巡って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆるわずらいを癒やされた。また、群衆を見て深くあわれまれた。彼らが羊飼いのいない羊の群れのように、弱り果てて倒れていたからである。そこでイエスは弟子たちに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主に、ご自分の収穫のために働き手を送ってくださるように祈りなさい。」

Ⅱテモテ四1－5

四　加入補教師の誓約

今、あなた(がた)が召され、その務めをもって仕える教会は、「神がご自分の血をもって買い取られた神の教会」(使徒二〇28)です。

あなた(がた)は、日本同盟基督教団の補教師の務めに任じられるにあたり、神と教会の前に次の誓約をしてください。

1. あなた(がた)は、旧新約聖書66巻が、誤りのない神のことばであり、信仰と生活の唯一絶対の規範であると信じますか。
(「信じます。」)

2. あなた(がた)は、この任職が神の恵みによるものであり、教会のかしら、羊の群れの大牧者である主イエス・キリストの召命によると確信しますか。(「確信します。」)

3. あなた(がた)は、与えられた召命にもとづき、日本同盟基督教団の信仰告白に従って、神のみことばを正しく宣べ伝え、人々を救いに導き、委ねられた群れを教え、ふさわしく牧することを誓約しますか。(「誓約します。」)

4. あなた(がた)は、日本同盟基督教団教憲・教規を遵守し、福音の真理および教会の純潔と一致と平和のために、熱心に祈り、励むことを誓約しますか。(「誓約します。」)

5. あなた(がた)は、みことばに仕える者として敬虔と品性を身につけ、言葉と生活においてキリストを証しし、キリストのしもべとして群れの模範となるように努めることを誓約しますか。(「神と教会の前で謹んで誓約します。」)

どうか、主なる神が、今ここに立てた誓約を忠実に果たす力を与えてくださいますように。アーメン

五 任職の祈祷

父・子・聖霊の三位一体の神さま。御父が選び、御子によって救いにあずからせ、聖霊によって召してくださったあなたのしもべ(たち)を感

謝します。どうかこの者たちを聖別し、祝福してください。補教師の務めを忠実に果たさせ、やがて正教師として任じられる者、補教師として教会に仕える者として、それぞれに用いてください。

どうか、その務めに必要なすべての賜物を豊かに授け、忠実に神のみことばを宣べ伝え、あなたの召されたこの教師(たち)を通して、主の教会がいよいよ建て上げられ、御国の完成に向かって前進するようにしてください。

教会のかしらなる、主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

六 任職の宣言

日本同盟基督教団は、今ここに立つ教師(たち)が、本教団の補教師の務めに任職されたことを宣言します。

七 祝祷
八 辞令交付・紹介

五　教団理事長任命式

●関連する法規は、教憲第８条、教規第12条②、第69～75条、第80条。
●教団理事長任命式は、教団総会において新理事長が選出された際に執り行う。
　司式は教団総会議長が行う。

一 序言

ただ今から、日本同盟基督教団第〇〇回教団総会において選出された（　　）教師の教団理事長任命式を執り行います。

二　賛　美

三　祈　祷

教会のかしらなる主イエス・キリストの父なる神さま。あなたの御名を賛美します。あなたは日本同盟基督教団を祝福し、（　　）教師を教団理事長の職に選出してくださいました。私たちはこれが主のみこころによると確信し、今、この務めに任じようとしています。

どうか、この重い務めを果たすために必要なすべての賜物を満たし、あなたのしもべを豊かに祝福して用いてください。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

四　聖書朗読

使徒の働き二〇章二八～三三節

あなたがたは自分自身と群れの全体に気を配りなさい。神がご自分の血をもって買い取られた神の教会を牧させるために、聖霊はあなたがたを群れの監督にお立てになったのです。私は知っています。私が去った後、狂暴な狼があなたがたの中に入り込んで来て、容赦なく群れを荒らし回ります。また、あなたがた自身の中からも、いろいろと曲がったことを語って、弟子たちを自分のほうに引き込もうとする者たちが起こってくるでしょう。ですから、私が三年の間、夜も昼も、涙とともにあなたがた一人ひとりを訓戒し続けてきたことを思い起こして、目を覚ましていなさい。今私は、あなたがたを神とその恵みのみことばにゆだねます。みことばは、あなたがたを成長させ、聖なるものと

されたすべての人々とともに、あなたがたに御国を受け継がせることができるのです。

五 式 辞(就任する教師は司式者に向かって立つ)

今、(　　)教師は、教団理事長の務めに就こうとしています。教団理事長の務めは、本教団を代表し、教団のすべての教務を統括する重い務めです。この務めは教団全体を導く責任を伴うゆえ、主イエスへの信頼と自らの召命を繰り返し確認し続けなければなりません。

六 教師の誓約

(　　)教師。あなたは日本同盟基督教団理事長に就任するにあたり、神と教会の前に次の誓約をしてください。

1. あなたは、この任命が父・子・聖霊なる神の導きによると確信しますか。(「確信します。」)

2. あなたは、日本同盟基督教団の教憲・教規に従って本教団を代表し、教団理事会とともに教団のすべての教務を統括し、神の栄光のために奉仕することを誓約しますか。（「誓約します。」）

3. あなたは、教団諸教会を愛し、すべての群れのために熱心に祈り、謙遜に仕え、キリストのからだを建て上げるために、その賜物を十分に用いて励むことを誓約しますか。（「誓約します。」）

4. あなたは、みことばに仕える者にふさわしく生活し、群れの模範となり、教会の純潔と一致と平和のために忠実に奉仕することを誓約しますか。（「神と教会の前で誓約します。」）

（総会議員はその場に起立する）

七　総会議員の誓約

あなたがた日本同盟基督教団第〇〇回教団総会議員は、（　　）教師を教団理事長として任命するにあたり、神と教会の前に次の誓約をしてください。

1. あなたがたは、主が（　　）教師を日本同盟基督教団理事長としてお立てになったことを確信し、感謝と喜びと敬意をもってこの教師を任命することを誓約しますか。（「誓約します。」）

2. あなたがたは、教団理事長の担う重い務めについてよく理解し、絶えず祈りをもって敬い、支え、とりなし、助け、協力することを誓約しますか。（「神と教会の前で誓約します。」）

八　祈　祷

全能の父なる神さま。あなたは日本同盟基督教団を祝福し、神の国の前進のために福音宣教の使命を託してくださいました。この使命を

果たすため、今、ここにあなたの召された（　）教師を、教団理事長にお立てくださったことを感謝します。どうか、その重い務めのゆえにこの教師に特別の恵みと賜物を満たし、聖霊による知恵と洞察力、判断力を増し加えてください。

今ここで為したあなたの御前での誓約を確かなものとしてください。（　）教師に聖霊を満たし、あなたのみこころの実現のために仕えることができるように、大いなる祝福をお与えください。私たちの大牧者なる、主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

九 頌 栄

一〇 祝 祷

六　教団総主事任命式（各主事任命式）

●関連する法規は、教規第82条。

●教団総主事任命式は、教団理事会開催日など適当な時を定めて執り行う。司式は理事長が行う。

●教団法人事務主事、国外宣教総主事、国外宣教主事、松原湖バイブルキャンプ主事などの務めに就くにあたっては、本式文を適宜読み替えて用いることができる。

一　序言

ただ今から、（　　）教師の教団総主事任命式を執り行います。

二　賛美

三 祈祷

主イエス・キリストの父なる神さま。あなたの御名を賛美します。私たちは今、（　）教師を教団総主事に任じようとしています。どうか、この務めを果たすために必要なすべての賜物を満たし、あなたのしもべを豊かに祝福して用いてください。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

四 聖書朗読

エペソ人への手紙四章七～一六節

しかし、私たちは一人ひとり、キリストの賜物の量りにしたがって恵みを与えられました。そのため、こう言われています。「彼はいと高き所に上ったとき、捕虜を連れて行き、人々に贈り物を与えられた。」「上った」ということは、彼が低い所、つまり地上に降られたということで

なくて何でしょうか。この降られた方ご自身は、すべてのものを満たすために、もろもろの天よりも高く上られた方でもあります。こうして、キリストご自身が、ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧師また教師としてお立てになりました。それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためです。私たちはみな、神の御子に対する信仰と知識において一つとなり、一人の成熟した大人となって、キリストの満ち満ちた身丈にまで達するのです。こうして、私たちはもはや子どもではなく、人の悪巧みや人を欺く悪賢い策略から出た、どんな教えの風にも、吹き回されたり、もてあそばれたりすることがなく、むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において、かしらであるキリストに向かって成長するのです。キリストによって、からだ全体は、あらゆる節々を

支えとして組み合わされ、つなぎ合わされ、それぞれの部分がその分に応じて働くことにより成長して、愛のうちに建てられることになります。

五 式 辞(就任する教師は司式者に向かって立つ)

今、(　　)教師は、教団総主事の務めに就こうとしています。総主事の務めは、教団理事会のもとに、その決議事項を執行し、理事会審議に必要な調査および報告を行うほか、教団事務所の業務を総括することにあります。この務めは教団全体に奉仕する責任を伴うゆえ、この務めに就く者は、主イエスへの信頼と自らの召命を繰り返し確認し続けなければなりません。

六 教師の誓約

（　　）教師。あなたは教団総主事に就任するにあたり、神と教会の前に次の誓約をしてください。

1. あなたは、この任命が父・子・聖霊なる神の導きによると確信しますか。（「確信します。」）

2. あなたは、日本同盟基督教団の教憲・教規に従って委ねられた務めを果たし、神の栄光のために奉仕することを誓約しますか。（「誓約します。」）

3. あなたは、教団諸教会を愛し、熱心に祈り、謙遜に仕え、キリストのからだを建て上げるために、その賜物を十分に用いて励むことを誓約しますか。（「神と教会の前で誓約します。」）

七　祈祷

父なる神さま。あなたは日本同盟基督教団を祝福し、神の国の前進のために福音宣教の使命を託してくださいました。この使命を果たすため、今、ここにあなたの召された（　）教師を、教団総主事にお立てくださったことを感謝します。

今あなたの御前で為したこの誓約を確かなものとしてください。（　）教師に聖霊を満たし、あなたのみこころの実現のために仕えることができるように、大いなる祝福をお与えください。私たちの大牧者なる、主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

八 頌栄

九 祝祷

七　国外宣教師派遣式

●関連する法規は、教規第111条、国外派遣宣教師規程。
●国外宣教師派遣式は、教団総会において執り行う。司式は教団理事長が行う。
●按手は教団理事長、副理事長、常任書記、教職理事が行う。

一　序言

ただ今から、（　　）教師の国外宣教師派遣式を執り行います。

二　賛美

三　祈祷

教会のかしら、羊の群れの牧者である主イエス・キリストの父なる神さま。あなたの御名を賛美します。今日ここに、あなたが召されたし

もべを遣わし、国外宣教の務めに就かせてくださることを感謝します。

どうか、この式を祝福し、あなたの恵みで満たし、あなたのみこころを受け取る時としてくださいますように。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

四　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

マタイの福音書二八章一六～二〇節

さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示された山に登った。そしてイエスに会って礼拝した。ただし、疑う者たちもいた。イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。ですから、あなたが

たは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」

マルコ一六15　使徒一8

五式　辞(就任する宣教師は司式者に向かって立つ)

主イエス・キリストは、「まず福音が、すべての民族に宣べ伝えられなければなりません。」(マルコ一三10)と言われました。

今、(　　)教師は、国外宣教師として遣わされることを、主からの召しと導きによると確信し、この務めに就こうとしています。

国外宣教師の務めは、主によって遣わされた地において福音を宣べ伝え、福音の真理を教えること、人々を救いに導き、魂への配慮を行うこと、主の教会を建て上げるために祈り、仕えることにあります。この務めは主イエスからみことばと聖霊によって委ねられたものです。それゆえこの務めに就く者は、主イエスへの信頼と自らの召命を繰り返し確認し続けなければなりません。

六　派遣の按手

（受按者はその場にひざまずき、按手を授ける教師たちはその周囲に立って受按者の頭に手を置き、司式者が祈祷をささげる）

七　派遣の祈祷

宣教の主なる神さま。あなたは私たちの教団に国外宣教の使命を託し、その使命を果たすために働き人を召してくださったことを感謝します。今、ここに私たちは（　　）教師を国外宣教師に任命し、遣わそうとしています。どうか主が（　　）教師に伴ってくださいますように。教師とその家族をお守りください。異文化での生活に必要なすべてのものを、豊かにお与えください。私たちが、私たちの代表として遣わされる（　　）教師のために、祈り、ささげることができますように。（　　）教師を通して神の国が前進し、拡大しますように。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

八　挨　拶

第五章　結　婚

一　婚約式

●婚約式を行うかどうかの判断は、当事者及び教師に任される。
●婚約式を行う場合は、主日礼拝内あるいは引き続いて行うか、他の日時に独立して行う。
●司式は教師(正教師・補教師)が行う。
●婚約しようとする男女は講壇前に位置し、男子は司式者に向かって右に、女子は左に起立する。

一　序　言

これより、（　　さん〈兄弟〉と（　　さん〈姉妹〉の婚約式を執り行います。

二　賛　美

三　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

コリント人への手紙第一、一三章一～一三節

たとえ私が人の異言や御使いの異言で話しても、愛がなければ、騒がしいどらや、うるさいシンバルと同じです。たとえ私が預言の賜物を持ち、あらゆる奥義とあらゆる知識に通じていても、たとえ山を動かすほどの完全な信仰を持っていても、愛がないなら、私は無に等しいのです。たとえ私が持っている物のすべてを分け与えても、たとえ私のからだを引き渡して誇ることになっても、愛がなければ、何の役にも立ちません。愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。

愛は自慢せず、高慢になりません。礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、苛立たず、人がした悪を心に留めず、不正を喜ばずに、真理を喜びます。すべてを耐え、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを忍びます。愛は決して絶えることがありません。預言ならすたれます。異言ならやみます。知識ならすたれます。私たちが知るのは一部分、預言するのも一部分であり、完全なものが現れたら、部分的なものはすたれるのです。私は、幼子であったときには、幼子として話し、幼子として思い、幼子として考えましたが、大人になったとき、幼子のことはやめました。今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、そのときには顔と顔を合わせて見ることになります。今、私は一部分しか知りませんが、そのときには、私が完全に知られているのと同じように、私も完全に知ることになります。

こういうわけで、いつまでも残るのは信仰と希望と愛、これら三つです。その中で一番すぐれているのは愛です。

ヨハネ一五1-10　ヨハネ一五12-17　ガラテヤ五16-25　エペソ五1-21
Iペテロ一13-23　Iヨハネ四7-12

四 祈祷

愛と恵みにあふれる父なる神さま。御前に立つこの二人は、あなたによってかけがえのない出会いが与えられ、神の導きを確信して婚約の誓いを立てようとしています。このような理解と志が与えられたのは、あなたの御旨によるものと信じ、主なる神に感謝と賛美をささげます。どうか、この婚約式を祝福し、二人が誠実に誓うことができるよう助けてください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

五 式辞

婚約は、神の恵みと導きによって、結婚する意志を明らかにすることであり、結婚する日に向けて準備することを約束するものです。ですから婚約する二人は、婚約と結婚を混同することなく、神を恐れ、神の守りと導きを祈り求めつつ誓約してください。

誓約したあなたがたは、神の求める純潔と礼節を守り、互いに愛と理解を深め、尊敬と誠実をもって信仰を高め合うよう交際しなければなりません。

またここに参列する者たちは、証人としてこのことを理解し、二人が祝福の内に結婚の日を迎えることができるよう、祈りと愛をもって支えてください。

六 誓約

（　　さん/兄弟）と（　　さん/姉妹）、あなたがたは今、この婚約が神のみこころであることを認め、結婚する日まで二人の交わりを主の望まれるようにきよく保ち、聖書の教えに従って愛と理解を深め、誠実に準備することを誓約しますか。（「神と人との前に、謹んで誓約します。」）

（婚約指輪や記念品の交換があってもよい）

七 祈祷

恵み深い父なる神さま。今、御前に立つ（　　さん/兄弟）と（　　さん/姉妹）は、神と人との前に誓いを立て、婚約しました。あなたの導きを感謝します。

どうか、二人の信仰と志を祝福し、その交際と生活をきよめて、愛と理解を深めさせてください。そのために必要なすべてを主が与え、結婚に至るその日まで導いてください。

また、二人の家族や友人をはじめ、ここに集う一人一人が、二人の結婚を祈りによってとりなし、助けていくことができますように。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

八 頌 栄

九 祝 祷

（婚約した二人を紹介してもよい）

（式後、会食や茶話会を行なってもよい）

二　結婚式

●司式は、教師(正教師・補教師)が行う。
●教師は、事前に結婚について教え、十分に準備し、聖書の教えにふさわしく導くこと。
●(信者と)未信者の結婚の場合は、とくに入念に準備し、まず信仰に導くことが求められるが、結婚式までに信仰に至らなかったとしても、神の御前に誓約する意味を十分に説明し、納得してもらうこと。
●証人を立てる場合は、キリスト者の夫婦に依頼する。証人を立てない場合でも、会衆が証人であることを式の中で確認するとよい。
●婚約者の入場について、通常、次の二つの方式がある。
一　夫となる者は、(証人とともに)初めから席について待ち、入場する妻となる者を待つ方式。

二　花婿・花嫁が、それぞれ（証人とともに）入場する方式。

一　序言

これより、（　　さん（兄弟）と（　　さん（姉妹）の結婚式を執り行います。

二　婚約者入場

（「婚約者が入場します。一同起立してお迎えください。」）

三　賛美

四　祈祷

恵み深い父なる神さま。私たちは今、（　　さん（兄弟）と（　　さん（姉妹）の結婚式を行うために、この場に集いました。私たちはこの結婚が、あなたの深いご計画と導きに基づくことを確信し、あなたの祝福を切に祈り求めます。

どうか、この結婚式をきよめ、あなたの臨在のもと、この式のすべてを導いてください。そして今日から始まる二人の新しい生活が、主のみこころにかない、主の平和と祝福に満ちるものとしてください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

五 式辞

あなたがたは、神と証人との前で結婚の誓いを立てようとしています。結婚は、神がこの世界を創造された時に、神の栄光と人類の幸福のために定められたものです。結婚は神の祝福です。なぜなら救いの恵みにおけるキリストと教会の結びつきを、聖書が花婿と花嫁の結婚として描写しているからです。それゆえ聖書は、「結婚がすべての人の間で尊ばれ」るようにと命じています（ヘブル一三４）。したがってあなたがたは、神をおそれつつ、慎んで結婚をしなければなりません。

（以下の部分は省略可）

そこで列席の皆さんにお尋ねします。この結婚に正当な理由で異議のある方は、今ここでそれを申し出てください。後日、異議を申し立てて二人の平和を破るようなことがあってはなりません。―（しばらく時間をとって会衆席を見渡す。）

異議なしと認めます。

※もし異議が申し立てられた場合は、その場で主張を聞く。

判断に時間がかかりそうな場合は、一時中断する旨を会衆に伝え、別室にて主張を聞く（必要であれば、婚約者、証人を同席させる）。

↓正当な理由と認められる場合、もしくはこのまま結婚することに問題がないと判断する場合は、ここで結婚式を中断する。

↓正当な理由と認められない場合は、異議申し立てに対して簡潔な弁明をして結婚式を再開する。

六　聖書の教え

【夫と妻に対する教え】

エペソ人への手紙五章二一節

キリストを恐れて、互いに従い合いなさい。

【夫に対する教え】

エペソ人への手紙五章二五～三三節

夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自分を献げられたように、あなたがたも妻を愛しなさい。キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、ご自分で、しみや、しわや、そのようなものが何一つない、聖なるもの、傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。同様に夫たちも、自分の妻を自分のからだのように

愛さなければなりません。自分の妻を愛する人は自分自身を愛しているのです。いまだかつて自分の身を憎んだ人はいません。むしろ、それを養い育てます。キリストも教会に対してそのようになさるのです。私たちはキリストのからだの部分だからです。「それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。」この奥義は偉大です。私は、キリストと教会を指して言っているのです。それはそれとして、あなたがたもそれぞれ、自分の妻を自分と同じように愛しなさい。妻もまた、自分の夫を敬いなさい。

コロサイ人への手紙三章一九節

夫たちよ、妻を愛しなさい。妻に対して辛く当たってはいけません。

ペテロの手紙第一、三章七節

同じように、夫たちよ、妻が自分より弱い器であることを理解して

妻とともに暮らしなさい。また、いのちの恵みをともに受け継ぐ者として尊敬しなさい。そうすれば、あなたがたの祈りは妨げられません。

【妻に対する教え】

エペソ人への手紙五章二二～二四節

妻たちよ。主に従うように、自分の夫に従いなさい。キリストが教会のかしらであり、ご自分がそのからだの救い主であるように、夫は妻のかしらなのです。教会がキリストに従うように、妻もすべてにおいて夫に従いなさい。

コロサイ人への手紙三章一八節

妻たちよ。主にある者にふさわしく、夫に従いなさい。

ペテロの手紙第一、三章一～六節

同じように、妻たちよ、自分の夫に従いなさい。たとえ、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって神のものとされるためです。夫は、あなたがたの、神を恐れる純粋な生き方を目にするのです。あなたがたの飾りは、髪を編んだり金の飾りを付けたり、服を着飾ったりする外面的なものであってはいけません。むしろ、柔和で穏やかな霊という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人を飾りとしなさい。それこそ、神の御前で価値あるものです。かつて、神に望みを置いた敬虔な女の人たちも、そのように自分を飾って、夫に従ったのです。たとえば、サラはアブラハムを主と呼んで従いました。どんなことをも恐れないで善を行うなら、あなたがたはサラの子です。

七 誓 約

【夫となる者に対して】

（誓約の言葉は、婚約者が考えてもよい。その場合、司式者は事前に内容を確認しておくこと。）

1.（　　さん（兄弟）、あなたは今、この女子と結婚し、夫となろうとしています。あなたは、この結婚が神の御旨によるものであることを確信しますか。

（「確信します。」）

2. あなたは、神の教えに従ってきよい家庭をつくり、夫としての分を果たし、常にあなたの妻を愛し、敬い、慰め、助けて、その健康の時も病の時も、順境の時も逆境の時も、常に真実で愛情に満

ち、死が二人を分かつその時まで、いのちの限りあなたの妻に対して堅く節操を守ることを誓約しますか。
（「神と証人との前で誓約します。」）

【妻となる者に対して】
（誓約の言葉は、婚約者が考えてもよい。その場合、司式者は事前に内容を確認しておくこと。）

1.（　　さん（姉妹）、あなたは今、この男子と結婚し、妻となろうとしています。あなたは、この結婚が神の御旨によるものであることを確信しますか。
（「確信します。」）

2. あなたは、神の教えに従ってきよい家庭をつくり、妻としての分を果たし、常にあなたの夫を愛し、敬い、慰め、助けて、その健康の時も病の時も、順境の時も逆境の時も、常に真実で愛情に満ち、死が二人を分かつその時まで、いのちの限りあなたの夫に対して堅く節操を守ることを誓約しますか。

（「神と証人との前で誓約します。」）

（指輪の交換がある場合、それぞれの左手第四指にはめる。その後、夫となる者は妻となる者のベールを上げる。）

八 祈 祷

恵み深い父なる神さま。今、御前に立つ（　　さん（兄弟）と（　　さん（姉妹）は、神と人との前で夫婦となる誓いを立てました。あなたの測り知れない恵みと祝福を感謝します。

どうか、二人がこの誓いを堅く守り、神のことばに従って愛と平和に満ちた家庭を築くことができますように。互いに愛と誠実を尽くし、二人で力を合わせてすべての試練を乗り越え、神の祝福に満ちた道をまっすぐに進ませてください。そしてその祝福が、二人から満ち溢れて、隣人を豊かに潤すものとなりますように。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

九 宣言

（　　さん（兄弟）と（　　さん（姉妹）とは今、神と証人との前で、真心から夫婦となる誓約をしました。

ここに私は、父と子と聖霊の御名によって、この男女が夫婦であることを宣言します。

「神が結び合わせたものを人が引き離してはなりません。」

（マタイの福音書一九章六節）

一〇 説教
一一 賛美
一二 頌栄
一三 祝祷
一四 新郎・新婦退場（奏楽）
一五 親族からの挨拶
一六 報告（式後の予定、退場順序など）

第六章　葬儀関係諸式

一　臨終（りんじゅう）の祈り（信者の場合）

●召天の報を受けたら、牧師は直ちに故人のもとに向かい、遺族に哀悼の意を表してから祈りをささげるのが望ましい。

●臨終の祈り（信者の場合）は、故人が召されて最初にささげる祈りで、牧師と遺族が愛する者の死の現実をともに受容し、主の助けと導きの内に葬儀が進むように祈り、天にある希望を確認することを目的とする。

一　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

詩篇二三篇　ダビデの賛歌。

主は私の羊飼い。私は乏しいことがありません。
主は私を緑の牧場に伏させ　いこいのみぎわに伴われます。
主は私のたましいを生き返らせ　御名のゆえに
私を義の道に導かれます。たとえ　死の陰の谷を歩むとしても
私はわざわいを恐れません。あなたが　ともにおられますから。
あなたのむちとあなたの杖　それが私の慰めです。
私の敵をよそに　あなたは私の前に食卓を整え
頭に香油を注いでくださいます。私の杯は　あふれています。
まことに　私のいのちの日の限り　いつくしみと恵みが
私を追って来るでしょう。私はいつまでも　主の家に住まいます。

ヨブ一21　Ⅱコリント四16-18

二　祈祷

憐れみに富んでおられる全能の父なる神さま。

すべての者のいのちは、あなたの御手の中にあります。生まれるのに時があり、召されるのに時があります（伝道者の書三２）。

あなたは、（　　兄弟／姉妹）の生涯を祝福の内に導いてくださいました。今、私たちは、（　　兄弟／姉妹）が地上のすべての営みを終えて、神のみもとに召されたことを厳粛に受けとめます。

しかし、愛する者の死に直面し、遺族の内には嘆き、悲しみがあります。あなたの助けなしには、これを乗り越えることができません。

どうか、悲しみの中にいる一人一人に、あなたの慰めと平安を豊かに与えてください。そして、これから執り行われる一つ一つの事柄を確かに導き、慰めで満たすことであなたの栄光を現してください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

(不慮の死の場合)

憐れみに富んでおられる全能の父なる神さま。

私たちは今、(　　兄弟／姉妹)の突然の死に直面して、衝撃と悲しみの中にいます。どうか、全能の主が私たちに臨んでくださり、今その存在は神の御手の中にあることを信じることができますよう助けてください。

愛する者の突然の死に直面し、遺族の内には嘆き、悲しみがあります。どうか、一人一人に、全能の神の慰めと平安を豊かに与えてください。そして、これから執り行われる一つ一つの事柄を確かに導き、慰めで満たすことであなたの栄光を現してください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

りんじゅう

臨　終 の祈り（未信者の場合）

●死去の報を受けたら、牧師は直ちに故人のもとに向かい、遺族に哀悼の意を表してから祈りをささげるのが望ましい。

●臨終の祈り（未信者の場合は、故人が死去されて最初にささげる祈りで、牧師と遺族が愛する者の死の現実をともに受容し、主の助けと導きの内に葬儀が進むように祈り、死の厳粛さを確認することを目的とする。

一　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

伝道者の書三章一～八節

すべてのことには定まった時期があり、天の下のすべての営みに時がある。生まれるのに時があり、死ぬのに時がある。植えるのに時があ

り、植えた物を抜くのに時がある。殺すのに時があり、癒やすのに時がある。崩すのに時があり、建てるのに時がある。泣くのに時があり、笑うのに時がある。嘆くのに時があり、踊るのに時がある。石を投げ捨てるのに時があり、石を集めるのに時がある。抱擁するのに時があり、抱擁をやめるのに時がある。求めるのに時があり、あきらめるのに時がある。保つのに時があり、投げ捨てるのに時がある。裂くのに時があり、縫うのに時がある。黙っているのに時があり、話すのに時がある。愛するのに時があり、憎むのに時がある。戦いの時があり、平和の時がある。

伝道者の書三11

二 祈祷

憐れみに富んでおられる全能の父なる神さま。
すべての者のいのちは、あなたの御手の中にあります。生まれるのに時があり、召されるのに時があります。今、私たちは、（　　さん）が地上のすべての営みを終えたことを厳粛に受けとめます。
どうか、その存在が神の御手の中にあることを信じ受けとめることができますよう助けてください。
愛する者の死に直面し、遺族の内には嘆き、悲しみがあります。あなたの助けなしには、これを乗り越えることができません。
どうか、悲しみの中にいる一人一人に、全能の神の慰めと平安を豊かに与えてください。そして、これから執り行われる一つ一つの事柄を確かに導き、慰めで満たすことであなたの栄光を現してください。
主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

(不慮の死の場合)

憐れみに富んでおられる全能の父なる神さま。

私たちは今、(　　さん)の突然の死に直面して、衝撃と悲しみの中にいます。この現実を受けとめるのに困難を覚えています。どうか、全能の主が私たちに臨んでくださり、今その存在は神の御手の中にあることを信じることができますよう助けてください。

愛する者の突然の死に直面し、遺族の内には嘆き、悲しみがあります。どうか、悲しみの中にいる一人一人に、全能の神の慰めと平安を豊かに与えてください。そして、これから執り行われる一つ一つの事柄を確かに導き、慰めで満たすことであなたの栄光を現してください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

二　納棺式(信者の場合)

●納棺式は、遺体を棺に納めることにより、改めて死の現実を受けとめて葬りの備えをし、死者のすべてを神に委ねる時である。

●納棺式は通常、病院、自宅、教会、葬祭場などにおいて、遺族や近親者のみで行われることが多いが、遺族の許可があれば教会員が参列してもよい。

●遺体に異教的な身支度がされたり、まわりに異教的な飾りつけがされたりしないよう気をつける。

一　賛　美

二　聖書朗読(次の箇所等から選ぶ)

ヨハネの福音書一四章一～六節

「あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には住む所がたくさんあります。そうでなかったら、あなたがたのために場所を用意しに行く、と言ったでしょうか。わたしが行って、あなたがたに場所を用意したら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしがいるところに、あなたがたもいるようにするためです。わたしがどこに行くのか、その道をあなたがたは知っています。」トマスはイエスに言った。「主よ、どこへ行かれるのか、私たちには分かりません。どうしたら、その道を知ることができるでしょうか。」イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。」

詩篇一三　ピリピ三20-21　詩篇三九　詩篇九〇
ヨハネ一一23-27　Ⅰテサロニケ四13-18

三 式辞

納棺式は、遺体を棺に納めることにより、改めて死の現実を受けとめて葬りの備えをし、死者のすべてを神に委ねる時です。すべてのことを最善に導いてくださる神を見上げて礼拝し、遺族の慰めをともに神に祈り求めます。

四 祈祷

憐れみと慰めに満ちておられる全能の父なる神さま。

今、私たちは、この地上のすべての営みを終えてあなたのみもとに召された（　　兄弟／姉妹）の遺体を棺に納めようとしています。どうか、主の創造されたからだに対して心からの誠意を尽くし、やがて

復活するこの遺体を丁重に扱って、事を行うことができますよう守ってください。

私たちは、故人の亡骸を見つめながら、生涯のすべてに神さまの守りと導きがあったことを思います。そして今は、この世のすべての苦しみと悩みから解放されて、神の満ち満ちた平安と慰めの中に移されたものと信じます。

しかし、地上に残された者には、別離の悲しみがあります。どうか主が、遺族の悲しみを癒し、天からの慰めによって一人一人を生かしてください。そして主が再び来られる栄光の日を待ち望み、主のみもとで再会する喜びに希望を置いて歩ませてください。

栄光と憐れみの主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

（嬰児（えいじ）・幼児の場合）※親が信者であることを想定しています。

万物の造り主であり、すべての人を慈しんでくださる天の父なる神さま。

今、私たちは、短い地上の生涯を終えて、神のみもとに召されたこの愛する幼子の遺体を棺に納めようとしています。どうか、主の創造されたからだに対して心からの誠意を尽くし、遺体を丁重に扱って、事を行うことができますよう守ってください。

私たちは、幼子の亡骸を見つめながら、あまりにも短い生涯を思い、驚きと悲しみの中にあります。しかしこの子は、確かに主の御手の内に置かれ、あなたの特別な愛顧を受けて、今は主の御腕の中に抱かれていると信じます。どうかご両親をはじめ、ここに集った一人一人に神の

慰めを与えてください。そして、永遠の御国を思い、復活の主を仰いで望みを抱き、主の栄光に向かって歩む者としてください。
慰めの主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

（不慮の死の場合）
慈しみと憐れみに富んでおられる天の父なる神さま。
今、私たちは、（　　兄弟／姉妹）の突然の死に直面し、悲しみと戸惑いの中にあります。そのような中で、その亡骸を棺に納めるために、ここに集いました。どうか、主の創造されたからだに対して心からの誠意を尽くし、遺体を丁重に扱って、事を行うことができますよう守ってください。

そして、（　　兄弟／姉妹）の死をあなたの憐れみの内に受けとめさせてください。いのちを与えた主が、（　　兄弟／姉妹）の存在を受け入れ、御手の内においてくださったと信じ委ねます。どうか、遺族に平安と慰めを与えてください。

慰めの主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

五　納棺

それでは、遺体を棺に納めます。

（葬儀社の指示に従い、遺族や参列者もともに参加する。）

（納棺したら、顔を見ながら故人を偲ぶ時間をしばらく取ってもよい。）

六　祈祷

父なる神さま。今、私たちは、あなたの守りのもとで、故人の遺体を棺に納めました。主イエス・キリストは、十字架で息を引き取られると

き、「父よ、わたしの霊をあなたの御手にゆだねます」（ルカ二三46）と言われました。今、同じ祈りをもって、私たちも祈ります。（　　兄弟／姉妹・さん・ちゃん）のからだと魂のすべてを、あなたの御手に委ねます。主が最善を成してください。またここに集まった一人一人に主の慰めと守りを与えてください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

七　賛　美

八　終　祷

テサロニケ人への手紙第一、五章二三～二四節

（読んだ後に「アーメン」で結ぶ。）

平和の神ご自身が、あなたがたを完全に聖なるものとしてくださいますように。あなたがたの霊、たましい、からだのすべてが、私たちの

主イエス・キリストの来臨のときに、責められるところのないものとして保たれていますように。あなたがたを召された方は真実ですから、そのようにしてくださいます。

Ⅱテサロニケ二16－17　Ⅱテサロニケ三16

納棺式（未信者の場合）

●納棺式は、遺体を棺に納めることにより、改めて死の現実を受けとめて葬りの備えをし、死者のすべてを神に委ねる時である。

●納棺式は通常、病院、自宅、教会、葬祭場などにおいて、遺族や近親者のみで行われることが多いが、遺族の許可があれば教会員が参列してもよい。

●遺体に異教的な身支度がされたり、まわりに異教的な飾りつけがされたりしないよう気をつける。

●キリスト教葬儀の意味を短く説明し、一連の葬儀がキリスト教式で行われることを伝えて理解と協力を求めるとよい。

一　賛　美

二　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

伝道者の書三章一一～一四節

神のなさることは、すべて時にかなって美しい。神はまた、人の心に永遠を与えられた。しかし人は、神が行うみわざの始まりから終わりまでを見極めることができない。

私は知った。人は生きている間に喜び楽しむほか、何も良いことがないのを。また、人がみな食べたり飲んだりして、すべての労苦の中に幸せを見出すことも、神の賜物であることを。私は、神がなさることはすべて、永遠に変わらないことを知った。それに何かをつけ加えることも、それから何かを取り去ることもできない。人が神の御前で恐れるようになるため、神はそのようにされたのだ。

詩篇一〇四24-32　伝道者の書七13-14

三　式辞

納棺式は、遺体を棺に納めることにより、改めて死の現実を受けとめて葬りの備えをし、死者のすべてを神に委ねる時です。すべてのことを最善に導いてくださる神を見上げて礼拝し、遺族の慰めをともに神に祈り求めます。

四 祈祷

万物の造り主であり、すべての人を慈しんでくださる天の父なる神さま。

今、私たちは、この地上のすべての営みを終えた（　　さん）の遺体を棺に納めようとしています。どうか、主の創造されたからだに対して心からの誠意を尽くし、遺体を丁重に扱って、事を行うことができますよう守ってください。

私たちは、故人の亡骸を見つめながら、その生涯のすべてが測り知れない神のご計画と導きの内にあったことを思います。そして今もなお、神が最善を成してくださっていると信じ受けとめます。どうか一同が、このことを信じることができるよう助けてください。

地上に残された者には、故人との別離の悲しみがあります。どうか主が、一人一人の悲しみを癒し、天からの慰めに私たちを生かしてください。慈しみと憐れみの主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

(嬰児(えいじ)・幼児の場合)

万物の造り主であり、すべての人を慈しんでくださる天の父なる神さま。

今、私たちは、短い地上の生涯を終えて、神のみもとに召されたこの愛する幼子の遺体を棺に納めようとしています。どうか、主の創造されたからだに対して心からの誠意を尽くし、遺体を丁重に扱って、事を行うことができますよう守ってください。

私たちは、幼子の亡骸を見つめながら、あまりにも短い生涯を思い、驚きと悲しみの中にあります。どうかご両親をはじめ、ここに集った一人一人に神の深く豊かな慰めを与えてください。慰めの主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

(不慮の死の場合)

慈しみと憐れみに富んでおられる天の父なる神さま。

今、私たちは、(　　さん)の突然の死に直面し、悲しみと戸惑いの中にあります。そのような中で、その亡骸を棺に納めるために、ここに集いました。どうか、主の創造されたからだに対して心からの誠意を尽くし、遺体を丁重に扱って、事を行うことができますよう守ってください。

そして、（　　さん）の死をあなたの憐れみの内に受けとめさせてください。いのちを与えた主が、（　　さん）の存在を受け入れ、御手の内においてくださったと信じ委ねます。どうか、ご遺族に平安と慰めを与えてください。

慰めの主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

五 納棺

それでは、遺体を棺に納めます。

（葬儀社の指示に従い、遺族や参列者もともに参加する。）

（納棺したら、顔を見ながら故人を偲ぶ時間をしばらく取ってもよい。）

六 祈祷

父なる神さま。今、私たちは、あなたの守りのもとで、故人の遺体を棺に納めました。主イエス・キリストは、十字架で息を引き取られるとき、「父よ、わたしの霊をあなたの御手にゆだねます」(ルカ二三46)と言われました。今、同じ祈りをもって、私たちも祈ります。(　　さん・ちゃん)のからだと魂のすべてを、あなたの御手に委ねます。主が最善を成してください。

またここに集まった一人一人に主の慰めと守りを与えてください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

七 賛美

八 終祷

テサロニケ人への手紙第二、三章一六節

(読んだ後に「アーメン」で結ぶ。)

どうか、平和の主ご自身が、どんな時にも、どんな場合にも、あなたがたに平和を与えてくださいますように。どうか、主があなたがたすべてとともにいてくださいますように。

Ⅰテサロニケ五23-24　Ⅱテサロニケ二16-17

三　前夜式(信者の場合)

●前夜式は、葬式同様、故人の死を悼み、遺族の慰めのために行われるものであって、故人の供養や死者を守るために行なわれるのではない。葬式に参列できない人のために行われることが多く、省略することもできる。

●形式にとらわれず、神のことばによって遺族を慰め励ますことを目的とする。
ただし、場合によっては、葬儀の形式に準じて行ってもよい。
●時間は、翌日の葬式を考慮して、あまり遅くならないようにし、全体的に遺族への配慮を忘れないようにする。

一 序言

ただ今から、（　　兄弟／姉妹）の前夜式を執り行います。
前夜式は、（　　兄弟／姉妹）の生涯を導いた全能の主なる神を礼拝する時であり、故人を偲びつつその遺体を葬り、地上に残る者に神の慰めをもたらすために行なわれます。

二 聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

ヨハネの福音書一〇章二八節

わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは永遠に、決して滅びることがなく、また、だれも彼らをわたしの手から奪い去りはしません。

詩篇二三　詩篇二七　イザヤ四六1-5　イザヤ六〇1-5
ヨハネ一一7-27　ヨハネ一四1-4　ローマ八28、30、32
Iコリント一五1-10　Iコリント一五50-58　IIコリント四7-18
IIコリント五1-10　Iテサロニケ四13-18　IIテモテ二8-13
Iペテロ一3-9　黙示録二一1-4

三　賛美

四　祈祷

恵みと憐れみに富んでおられる全能の父なる神さま。

今、私たちは、主のみもとに召された（　　兄弟／姉妹）の遺体を前にし、その在りし日の姿を偲びつつ、御前に集いました。どうか、心に痛みを抱えているすべての者に、全能の主なる神の豊かな慰めを与えてください。悲しみの中にあっても、主を仰ぐことによって平安を与えてください。

（　　兄弟／姉妹）は、あなたの恵みによってこの世に生を受け、キリストの贖いにあずかり、聖霊の導きによって信仰の道を走り終えて、主のみもとに召されました。今は、先に召された聖徒たちとともに、御前で主の栄光を仰ぎ見、主をほめたたえていることと信じて、主の御名を賛美します。

しかし、（　　兄弟／姉妹）が召されたことによって、私たちは深い悲しみと嘆きの中にあります。どうか主が、私たちを顧み、平

安と慰めを与えてください。とりわけご遺族の上に、神の慰めを豊かに注いでください。

またこの厳かな現実を前にして、私たちもまたいつかは死を迎える者であることを自覚し、永遠の御国を思いつつ主を仰ぎ、（　　兄弟／姉妹）が示してくれた信仰の道に進ませてください。そして私たちが世を去る時、私たちもまた（　　兄弟／姉妹）とともに聖徒の交わりに連なることができますよう導いてください。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

（不慮の死の場合）

憐れみに富んでおられる全能の父なる神さま。

私たちは今、（　　兄弟／姉妹）の突然の死に直面して戸惑っています。けれども、神の内には私たちの理解をはるかに越えたご計画と導きがあり、このことの上にも、神の憐れみがあることを信じます。どうか、ここに集うすべての者に、神の慰めと平安を与えてください。そして（　　兄弟／姉妹）を失った悲しみを抱えて生きる一人一人に、神が臨んでくださり、支えと力を与えてください。どうか、死の悲しみを慰めて希望を与える神の祝福にあずからせてください。まことの救い主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

五　聖　書
六　説　教
七　賛　美

（このあと、故人の信仰の証しの紹介や故人の思い出などを語る時を持ってもよい）

八　頌　栄

九　終　祷

一〇　報　告

（式後、短く茶菓を囲んで交わりの時を持ってもよい。）

（翌日の葬式の案内をする。）

前夜式（未信者の場合）

●前夜式は、葬式同様、故人の死を悼み、遺族の慰めのために行われるものであって、故人の供養や死者を守るために行なわれるのではない。葬式に参列できない人のために行われることが多く、省略することもできる。

●形式にとらわれず、神のことばによって遺族を慰め励ますことを目的とする。ただし、場合によっては、葬儀の形式に準じて行ってもよい。

●時間は、翌日の葬式を考慮して、あまり遅くならないようにし、全体的に遺族への配慮を忘れないようにする。

一　序言

ただ今から、（　　さん）の前夜式を執り行います。前夜式は、（　　さん）の生涯を導いた全能の主なる神を礼拝する時であり、故人を偲びつつその遺体を葬り、地上に残る者に神の慰めをもたらすために行なわれます。

二　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

詩篇九〇篇一～一二節　神の人モーセの祈り。

主よ　代々にわたって　あなたは私たちの住まいです。山々が生まれる前から　地と世界を　あなたが生み出す前から　とこしえからとこしえまで　あなたは神です。あなたは人をちりに帰らせます。「人の子らよ　帰れ」と言われます。まことに　あなたの目には千年も昨日のように過ぎ去り　夜回りのひと時ほどです。あなたが押し流すと　人は眠りに落ちます。朝には　草のように消えています。朝　花を

咲かせても　移ろい　夕べには　しおれて枯れています。私たちはあなたの御怒りによって消え失せ　あなたの憤りにおじ惑います。
あなたは私たちの咎を御前に　私たちの秘め事を　御顔の光の中に置かれます。私たちのすべての日は　あなたの激しい怒りの中に消え去り
私たちは　自分の齢を　一息のように終わらせます。私たちの齢は七十年。健やかであっても八十年。そのほとんどは　労苦とわざわいです。瞬く間に時は過ぎ　私たちは飛び去ります。だれが御怒りの力をあなたの激しい怒りの力を知っているでしょう。ふさわしい恐れを持つほどに。どうか教えてください。自分の日を数えることを。そうして私たちに　知恵の心を得させてください。

伝道者の書一二1－14　Ⅱコリント五9－10

三 賛美

四 祈祷

憐れみに富んでおられる全能の父なる神さま。

今、私たちは、（　　さん）の遺体を前にし、悲しみを抱えて集いました。在りし日の姿を偲びながら、それぞれが思い出にすがるような思いでいます。どうか、ここに集った一人一人に主の慰めを与えてください。とりわけご遺族の上に、主の慰めを豊かに注いでください。

故人の死に直面して、私たちは戸惑っています。しかし神さま、あなたは、万物を創造し、故人にいのちを与え、その人生を導かれた生けるまことの神です。そして、あなたは人の思いと言葉と行動のすべてをご存知です。私たちは、主権者であるあなたの御手にお委ねします。あなたは公正と正義に基づく最善をなさる方です。あなたを私たちが信

じることで、慰めを与えてください。唯一まことの救い主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

（不慮の死の場合）

憐れみに富んでおられる全能の父なる神さま。

私たちは今、（　　さん）の突然の死に直面して戸惑っています。けれども、神の内には私たちの理解をはるかに越えたご計画と摂理があることを信じます。このことの上にも、神の憐れみがあることを信じます。どうか、ここに集うすべての者に、神の慰めと平安を与えてください。そして（　　さん）を失った悲しみを抱えて生きる一人一人に、神が臨んでくださり、支えと力を与えてください。ど

うか死の悲しみを慰めて、希望を与える神の祝福にあずからせてください。

まことの救い主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

五　聖書

六　説教

七　賛美

（このあと、故人の紹介や思い出などを語る時を持ってもよい）

八　頌栄

九　終祷

一〇　報告

（式後、短く茶菓を囲んで交わりの時を持ってもよい。）

（翌日の葬式の案内をする。）

四　葬式(信者の場合)

●葬式は、故人の生涯を支配された神をほめたたえ、故人の遺体を葬り、地上に残された者を慰めるために行なわれる。それゆえ故人のための祈り、供え物、焼香、死者への語りかけなど、異教的な慣習を排除し、人間的な慰めではなく、神の慰めが支配するように配慮すること。

●葬式は、遺族と事前によく打ち合わせ、キリスト教葬儀の意味と目的をよく理解してもらうこと。また故人と遺族の意向によく耳を傾け、キリスト教信仰に反しない範囲でそれを反映させる努力をすること。

●列席者の中にキリスト教葬儀に不慣れな者がいる場合、式が始まる前に、キリスト教葬儀の意味や注意事項を短く説明し協力を求めるとよい。

一 前奏

二 序言

ただ今から、（　　兄弟／姉妹）の葬式を執り行います。葬式は、（　　兄弟／姉妹）の生涯を導いた全能の主なる神を礼拝する時であり、故人を偲びつつその遺体を葬り、地上に残る者に神の慰めをもたらすために行なわれます。

三 聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

ヨハネの福音書一一章二五～二六節

イエスは彼女に言われた。「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者はみな、永遠に決して死ぬことがありません。あなたは、このことを信じますか。」

コリント人への手紙第一、一五章五四～五五節

そして、この朽ちるべきものが朽ちないものを着て、この死ぬべきものが死なないものを着るとき、このように記されたみことばが実現します。「死は勝利に呑み込まれた。」「死よ、おまえの勝利はどこにあるのか。死よ、おまえのとげはどこにあるのか。」

ヨブ一21　ヨブ一九25-27　詩篇三〇4-5　詩篇六八20-21
詩篇七三24-26、28　詩篇九〇　詩篇一二四8　詩篇一三九7-12
イザヤ二五8-9　イザヤ五五6、7　哀歌三22-23　マタイ五4
ヨハネ三16　ローマ八38-39　ピリピ三20　コロサイ二12-13
Ⅰテモテ六7　Ⅱテモテ二11-13　黙示録一17-18　黙示録七9-17
黙示録一四13

（嬰児・幼児の場合）
イザヤ書六六章一三節
母に慰められる者のように、わたしはあなたがたを慰める。
エルサレムであなたがたは慰められる。

ゼカリヤ書八章三、五節
―主はこう言われる―
わたしはシオンに帰り、エルサレムのただ中に住む。エルサレムは、真実の都と呼ばれ、万軍の主の山は、聖なる山と呼ばれる。……
都の広場は、男の子と女の子でいっぱいになる。子どもたちはその広場で遊ぶ。

マルコ一〇13-16　Ⅱサムエル一二18-23　詩篇一〇三13　イザヤ四〇1

四 賛美

五 祈祷

天の父なる神さま。私たちは今ここに集い、あなたの御手の中で地上の生涯を終えて、みもとに召された（　　兄弟／姉妹）の葬式を執り行っています。どうかこの式が、神のみこころにかない、あなたの栄光を現すことができますように。

（　　兄弟／姉妹）は、あなたへの信仰を貫いて生涯を走り終えました。主イエス・キリストを信じる者に与えられた主の約束のゆえに、今はあなたの御前にあることを覚えて、主の御名を賛美します。

どうかこの時、私たちにも天の御国を思い、見つめさせてください。またここに集った列席者一同が、自らもいつかは死ぬべき者であるこ

とに心を向けることができますように。そして（　　兄弟／姉妹）と天の御国で再会することができるよう、神を信じる者とさせてください。

慰め主なる神さま。今ここに集ったご遺族と列席者一人一人の内には、愛する者を失った失意と悲しみがあります。どうか、あなたの限りない愛と力によって、慰めと励ましを与えてください。そして悲しみの中にあっても希望を抱くことができる神への信仰に生かしてください。唯一まことの救い主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

（嬰児（えいじ）・幼児の場合）※親が信者であることを想定しています。

憐れみ深い天の父なる神さま。御子イエス・キリストは、みもとに集まって来た子どもたちを祝福して言われました。「子どもたちを、わたしのところに来させなさい。邪魔してはいけません。神の国はこのような者たちのものなのです。」(マルコ一〇14)

今、(　　くん／ちゃん)は、私たちの測り知ることのできない神の摂理によって、汚れと悩みの多いこの世を離れて、平安に満ちたあなたのみもとに参りました。私たちは、この幼子が今、あなたの慈愛に満ちた御手の中でかくまわれ、平安を得ていることを信じて、神の御名をあがめます。

しかし主よ、私たちはこの幼子の死に直面して、痛みと悲しみを負っています。地上の姿を探し求め、離れがたい思いを抱いております。

どうか、主よ。愛する幼子を天に送り、悲しみの中にあるご両親とご家族の上に、あなたの深い愛と慰めを注いでください。そしてここに集った列席者一人一人の悲しみを癒してください。どうか、地上に残された私たちが、やがて（　　くん／ちゃん）と天の御国で再会することができますよう、主イエス・キリストへの信仰と、天の御国への希望を持って生きる者とさせてください。

唯一まことの救い主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

（自死・不慮の死の場合）

慈しみと憐れみに富んでおられる天の父なる神さま。人はみな、神のみこころの内にこの地上に生を受けて生きる者にされ、そして神の

みこころの内にこの世を去って行きます。今、私たちは、

（　　兄弟／姉妹）の突然の死に直面して、驚きと戸惑いの中にあります。しかしそのような中で、故人を偲び、その亡骸を丁重に葬るために集ってまいりました。

どうか主よ。人の痛みと悲しみを知っておられる神が、今、私たちに臨んでくださり、私たちを支え、励まし、慰めてください。

（　　兄弟／姉妹）の地上のいのちの終わりを、神の豊かな恵みと憐れみの内に受けとめさせてください。そして、すべてを最善に導いてくださる神に委ねることによって、平安を与えてください。深い悲しみと戸惑いの中にあるご遺族の上に、あなたの豊かな愛と慰めを注いでください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

六　賛　美（故人愛唱歌）
七　故人略歴・故人の証し紹介
八　聖　書
（故人の愛唱聖句や遺言で指定された箇所、なければ以下から選んでも良い）
詩篇九〇1-17　Ⅰコリント一五50-58　黙示録七9-17
（嬰児・幼児の場合）
Ⅱサムエル一二18-23　マルコ一〇13-16
九　説　教
一〇　賛　美
一一　頌　栄
一二　終　祷

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の慰めが、
（　　兄弟／姉妹）のご遺族の上に、またここに列席された一人一人の上に、豊かにありますように。アーメン
一三　後　奏
一四　遺族からの挨拶
一五　出　棺

葬式（未信者の場合）

●葬式は、故人の生涯を支配された神をほめたたえ、故人の遺体を葬り、地上に残された者を慰めるために行なわれる。そのため故人のための祈り、供え物、焼香、死

者への語りかけなど、異教的な慣習を排除し、人間的な慰めではなく、神の慰めが支配するように配慮すること。

●葬式は、遺族と事前によく打ち合わせ、キリスト教葬儀の意味と目的をよく理解してもらうこと。また故人と遺族の意向によく耳を傾け、キリスト教信仰に反しない範囲でそれを反映させる努力をすること。

●列席者の中にキリスト教葬儀に不慣れな者がいる場合、式が始まる前に、キリスト教葬儀の意味や注意事項を短く説明し協力を求めるとよい。

一 前奏

二 序言

ただ今から、（　　さん）の葬式を執り行います。葬式は、（　　さん）の生涯を導いた全能の主なる神を礼拝する時で

あり、故人を偲びつつその遺体を葬り、地上に残る者に神の慰めをもたらすために行なわれます。

三　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

伝道者の書一二章一～一四節

あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。わざわいの日が来ないうちに、また「何の喜びもない」と言う年月が近づく前に。太陽と光、月と星が暗くなる前に、また雨の後に雨雲が戻って来る前に。その日、家を守る者たちは震え、力のある男たちは身をかがめ、粉をひく女たちは少なくなって仕事をやめ、窓から眺めている女たちの目は暗くなる。通りの扉は閉ざされ、臼をひく音もかすかになり、人は鳥の声に起き上がり、歌を歌う娘たちはみな、うなだれる。人々はまた高いところを恐れ、道でおびえる。アーモンドの花は咲き、バッタは足取り重

く歩き、風鳥木は花を開く。人はその永遠の家に向かって行き、嘆く者たちが通りを歩き回る。こうしてついに銀のひもは切れ、金の器は打ち砕かれ、水がめは泉の傍らで砕かれて、滑車が井戸のそばで壊される。土のちりは元あったように地に帰り、霊はこれを与えた神に帰る。空の空。伝道者は言う。すべては空。伝道者は知恵ある者であった。そのうえ、知識を民に教えた。彼は思索し、探求し、多くの箴言をまとめた。伝道者は適切なことばを探し求め、真理のことばをまっすぐに書き記した。知恵のある者たちのことばは突き棒のようなもの、それらが編纂された書はよく打ち付けられた釘のようなもの。これらは一人の牧者によって与えられた。わが子よ、さらに次のことにも気をつけよ。多くの書物を書くのはきりがない。学びに没頭すると、からだが疲れる。

結局のところ、もうすべてが聞かされていることだ。神を恐れよ。神の命令を守れ。これが人間にとってすべてである。神は、善であれ悪であれ、あらゆる隠れたことについて、すべてのわざをさばかれるからである。

詩篇九〇1-12　Ⅱコリント五9-10

(嬰児・幼児の場合)

イザヤ六六章一三節

母に慰められる者のように、わたしはあなたがたを慰める。エルサレムであなたがたは慰められる。

ゼカリヤ八3、5　マルコ一〇13-16　Ⅱサムエル一二18-23

詩篇一〇三13　イザヤ四〇1

四賛美

五祈祷

天の父なる神さま。私たちは今ここに集い、私たちの測り知ることのできない深い神の摂理によってこの世を去り、あなたに召された（　　さん）の葬式を執り行っています。どうかこの式を、あなたのみこころの中で行わせてください。

慰め主なる神さま。今ここに集ったご遺族と列席者一人一人の内には、愛する者を失った悲しみがあります。どうか、あなたの深い愛と力によって、慰めと励ましを与えてください。

葬儀を通して、私たちもいつかは死すべき者であることを覚えさせてください。そして天と地とその中のものを創造し、そのすべてを支配しておられる主なる神にすべてを委ねる者とならせてください。
救い主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

（嬰児・幼児の場合）
憐れみ深い天の父なる神さま。御子イエス・キリストは、みもとに集まって来た子どもたちを祝福して言われました。「子どもたちを、わたしのところに来させなさい。邪魔してはいけません。神の国はこのような者たちのものなのです」（マルコ一〇14）。
今、（　　）くん／ちゃんは、私たちの測り知ることのできない神の摂理によって、この地上の生涯を終えました。

主よ、私たちはこの幼子の死に直面して、痛みと悲しみを負っています。地上の姿を探し求め、離れがたい思いを抱いております。

どうか、主よ。愛する幼子を失い、悲しみの中にあるご両親とご家族の上に、あなたの深い愛と慰めを注いでください。そしてここに集った列席者一人一人の悲しみを癒してください。

慰め主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

（自死・不慮の死の場合）

慈しみと憐れみに富んでおられる天の父なる神さま。人はみな、神のみこころの内にこの地上に生を受けて生きる者にされ、そして神のみこころの内にこの世を去って行きます。

今、私たちは、（　　さん）の突然の死に直面して、驚きと戸惑いを隠すことができません。しかしそのような中で、故人を偲び、その亡骸を丁重に葬るために集ってまいりました。

どうか主よ。人の痛みと悲しみを知っておられる神が、今、私たちに臨んでくださり、私たちを支え、励まし、慰めてください。

（　　さん）の地上のいのちの終わりを、神の豊かな恵みと憐れみの内に受けとめさせてください。そして、すべてを最善に導いてくださる神に委ねることによって、平安を与えてください。深い悲しみの中にあるご遺族の上に、あなたの豊かな愛と慰めを注いでください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

六 賛美

七 故人略歴紹介

八 聖書
詩篇九〇1-17　Ⅰコリント一五50-58　黙示録七9-17
（嬰児（えいじ）・幼児の場合）
Ⅱサムエル一二18-23　マルコ一〇13-16
九 説教
一〇 賛美
一一 頌栄
一二 終祷
主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の慰めが、（　　さん）を失い、深い悲しみと嘆きの中にあるご遺族の上に、またここに列席された一人一人の上に、豊かにありますように。アーメン

一三 後奏
一四 遺族からの挨拶
一五 出棺

五　火葬前式（信者の場合）

●火葬前式は、遺体を火葬する直前に火葬炉の前で行われるもので、地上における故人との別れと、肉体が朽ちて土に帰ることが強烈に印象づけられる時である。

●遺族が、棺を囲んで、最後の別れを十分にすることができるよう、時間をとって配慮すること。

●遺体を拝んだり、異教的な習慣が行われたりすることのないよう、十分に気をつける。

一　賛　美

故人愛唱歌　など

二　聖書朗読(次の箇所等から選ぶ)

ピリピ人への手紙三章二〇～二一節

しかし、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、私たちは待ち望んでいます。キリストは、万物をご自分に従わせることさえできる御力によって、私たちの

卑しいからだを、ご自分の栄光に輝くからだと同じ姿に変えてくださいます。

Ⅱコリント五１　Ⅰペテロ一３-５

三　祈祷

恵み深い父なる神さま。あなたは大地のちりで人を形造り、これにいのちの息を吹き込み、神のかたちに似せて創造されました。今、神のもとに召された（　兄弟／姉妹）の遺体は、再び地に帰ります。

慰め主なる主よ。愛する（　兄弟／姉妹）が、すでにあなたのみもとにあって、この世にはない平安と喜びに満たされていることを思います。どうか私たちの心が、悲しみに押しつぶされてしまうことのないよう、あなたの守りと助けを与えてください。

キリストを死者の中からよみがえらせた復活の主である父なる神さま。（　兄弟／姉妹）の遺体は土に帰りますが、あなたはこの体を終わりの日によみがえらせ、栄光のからだとしてくださいます。どうか私たちも、あなたにより頼むことによって、同じように栄光のからだによみがえらせ、（　兄弟／姉妹）との再会を果たさせてください。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

四　火　葬

（火葬場の職員の指示に従って、遺体を見送る）

（火葬の間、別室にて待機することになるが、遺族との交わりを通して故人を偲ぶとよい）

五　遺骨収集の祈り（遺骨収集の前か後に）

恵み深い父なる神さま。神の深い摂理とみこころによって召された（　兄弟／姉妹）の遺体は、火葬されて、遺骨となりました。
（　兄弟／姉妹）の魂は、すでにあなたによって完全にきよめられ、あなたのもとにあることを信じます。そして終わりの日には、朽ちることのない栄光のからだでよみがえることを確信します。どうか、私たちを憐れみ、ご遺族を支えて、平安を与えてください。
主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

火葬前式（未信者の場合）

●火葬前式は、遺体を火葬する直前に火葬炉の前で行われるもので、地上における故人との別れと、肉体が朽ちて土に帰ることが強烈に印象づけられる時である。

●遺族が、棺を囲んで、最後の別れを十分にすることができるよう、時間をとって配慮すること。

●遺体を拝んだり、異教的な習慣が行われたりすることのないよう、十分に気をつける。

一　賛　美

二　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

伝道者の書五章一八～二〇節

見よ。私が良いと見たこと、好ましいこととは、こうだ。神がその人に与えたいのちの日数の間、日の下で骨折るすべての労苦にあって、良き物を楽しみ、食べたり飲んだりすることだ。これが人の受ける分なのだ。実に神は、すべての人間に富と財を与えてこれを楽しむことを許し、各自が受ける分を受けて自分の労苦を喜ぶようにされた。これこそが神の賜物である。こういう人は、自分の生涯のことをあれこれ思い返さない。神が彼の心を喜びで満たされるからだ。

三　祈祷

憐み深い父なる神さま。あなたは大地のちりで人を形造り、これにいのちの息を吹き込み、神のかたちに似せて創造されました。今、神の支配のもとに移された（　　さん）の遺体は、再び地に帰ります。私

たちに平安を与えてくださり、この悲しみを主にあって乗り越えさせてください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

四 火 葬

（火葬場の職員の指示に従って、遺体を見送る）

（火葬の間、別室にて待機することになるが、遺族との交わりを通して故人を偲ぶとよい）

五 遺骨収集の祈り（遺骨収集の前か後に）

恵み深い父なる神さま。神の深い摂理とみこころによって召された（　　さん）の遺体は、火葬されて、遺骨となりました。私たちは、すべてをあなたの御手に委ねます。地上に残された私たちは、

（　　さん）の面影を偲びつつ、それぞれの人生を歩みます。どうか主が、私たちを憐れみ、ご遺族を支えて、平安を与えてください。
主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

六　埋葬式（納骨式）（信者の場合）

●葬式のあと、遺族や教会と相談し、適切な日時を選んで埋葬式（納骨式）を行う。
●墓に供え物を置いたり、遺骨に向かって拝礼行為が行われたりしないよう十分に注意し、参列者に埋葬式（納骨式）の意味を説明し理解を求めるとよい。
●司式者は、遺族の悲しみに寄り添い、式全体を通して、福音がもたらす慰めと希望が参列者に届くよう配慮して執行する。

●墓地の形態等を事前によく確認し、埋葬(納骨)がスムーズに行われるよう気をつける。また遺族の意向をよく聞き、可能な限り反映させることを心掛ける。

一　賛　美

二　聖書朗読(次の箇所等から選ぶ)

コリント人への手紙第二、五章一節

たとえ私たちの地上の住まいである幕屋が壊れても、私たちには天に、神が下さる建物、人の手によらない永遠の住まいがあることを、私たちは知っています。

ヨブ一九25-26　ローマ一四7-9　詩篇九〇1-17　ヘブル一一13-23　Iコリント一五35-58　ルカ二四5-6　ヨブ一21　ヨブ一19　詩篇一一六1-5　IIコリント五6-10　ピリピ三20-21

Ⅰヨハネ三14、16　黙示録二一1-4　Ⅰテサロニケ四13-14
黙示録一四13　ルカ二〇27-38　ヨハネ五19-29

三 祈祷

恵み深い父なる神さま。かつてあなたは、私たち人間を大地のちりで創造し、「あなたは土のちりだから、土のちりに帰るのだ」(創世記三19)と言われました。今、私たちは、主のことばの通り、(　　兄弟／姉妹)の遺骨を土に帰します。

主イエス・キリストも十字架の上で死んだあと、その遺体はアリマタヤのヨセフの墓に葬られました。しかし主は、三日後に死に打ち勝ってよみがえり、墓を栄光に輝く復活の場とされました。

今、私たちは、あなたの御旨によって召された(　　兄弟／姉妹)の遺骨をここに納めて、終わりの日のからだのよみがえりを待ち望みま

す。主は、（　　兄弟／姉妹）を測り知ることのできない恵みによって救い、天の御国を受け継ぐ者としてくださいました。

今、（　　兄弟／姉妹）は、主のみもとにあって、あなたに仕え、復活の栄光を待ち望んでいます。そのことを確信し、神の栄光をほめたたえます。

（　　兄弟／姉妹）を主のもとに送った私たちは、なおしばらくの間、地上の旅路を歩むことになります。どうか、主にあって天に望みを置き、神の栄光を仰ぎ見て生きることができますよう支えてください。そして、この墓を訪れるたびに、故人の在りし日を偲ぶとともに、永遠の御国をはるかに望みつつ、主の日に備えさせてください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

四納骨

五 賛美
六 頌栄
七 終祷

テサロニケ人への手紙第二、二章一六～一七節
（読んだ後に「アーメン」で結ぶ。）

どうか、私たちの主イエス・キリストと、私たちの父なる神、すなわち、私たちを愛し、永遠の慰めとすばらしい望みを恵みによって与えてくださった方ご自身が、あなたがたの心を慰め、強めて、あらゆる良いわざとことばに進ませてくださいますように。

民数記六24-26　Ⅱコリント一三13　Ⅰテサロニケ五23　Ⅱテサロニケ三16

埋葬式(納骨式)(未信者の場合)

●葬式のあと、遺族や教会と相談し、適切な日時を選んで埋葬式(納骨式)を行う。
●墓に供え物を置いたり、遺骨に向かって拝礼行為が行われたりしないよう十分に注意し、参列者に埋葬式(納骨式)の意味を説明し理解を求めるとよい。
●司式者は、遺族の悲しみに寄り添い、式全体を通して、福音がもたらす慰めと希望が参列者に届くよう配慮して執行する。
●墓地の形態等を事前によく確認し、埋葬(納骨)がスムーズに行われるよう気をつける。また遺族の意向をよく聞き、可能な限り反映させることを心掛ける。

一　賛　美

二　聖書朗読(次の箇所等から選ぶ)

コリント人への手紙第二、五章九節
そういうわけで、肉体を住まいとしていても、肉体を離れていても、私たちが心から願うのは、主に喜ばれることです。
詩篇九〇1-12　伝道者の書一二1-14

三　祈祷

憐みに満ちておられる天の父なる神さま。あなたは、(　さん)の生涯のすべてを測り知れない恵みによって導いてくださいました。地上に残された私たちには、悲しみや寂しさや言い尽くせぬ思いがありますが、すべては神の最善がなされたと信じて、この事実を受けとめます。どうか私たちが、(　さん)のすべてを神に委ねて、平安を得ることができるようにしてください。

残された私たちは、なおしばらく地上の旅路を歩まなくてはなりません。どうか、主にあって神に望みを置き、神の救いと祝福を得て生きることができますよう導いてください。そして、この墓を訪れるたびに、故人の在りし日を偲ぶとともに、永遠の御国をはるかに望みつつ、主の日に備えさせてください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

四 納骨

五 賛美

六 頌栄

七 終祷

テサロニケ人への手紙第二、三章一六節

（読んだ後に「アーメン」で結ぶ。）

どうか、平和の主ご自身が、どんな時にも、どんな場合にも、あなたがたに平和を与えてくださいますように。どうか、主があなたがたすべてとともにいてくださいますように。

民数記六24－26　Ⅱコリント一三13　Ⅰテサロニケ五23　Ⅱテサロニケ二16－17

七　記念会

●記念会は、故人が召天した一ヶ月後、一年後、二年後…等、適切な日を決めて行うとよい。

●親族・友人・知人等を招き、故人の思い出を語り合い、みことばの説教を聴くことによって遺族が慰めと希望を得ることを目的とする。

●故人の生前の証しを読んだり、印刷して配布したりしてもよい。
●未信者の記念会の依頼を受けて行う場合には、葬儀諸式の未信者用の聖書箇所や祈祷文例を参考にして、適宜準備して行う。

一　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

ヘブル人への手紙一一章一三～一六節

これらの人たちはみな、信仰の人として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるか遠くにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり、寄留者であることを告白していました。そのように言っている人たちは、自分の故郷を求めていることを明らかにしています。もし彼らが思っていたのが、出て来た故郷だったなら、帰る機会はあったでしょう。しかし実際には、彼らが憧れていたのは、

もっと良い故郷、すなわち天の故郷でした。ですから神は、彼らの神と呼ばれることを恥となさいませんでした。神が彼らのために都を用意されたのです。

ピリピ三20-21　黙示録二一1-4　Ⅰコリント一五50-58
Ⅰテサロニケ四13-18　ヘブル一一1-6　Ⅰヨハネ三1-3　黙示録七9-17

二　賛美

三　祈祷

恵み深い天の父なる神さま。

今日私たちは、あなたのみもとに召された（　兄弟／姉妹）を記念し偲ぶために集まりました。在りし日の（　兄弟／姉妹）を思い、生

涯を通して示された神の恵みと救いの希望を分かち合うことで、主にある慰めを与えてください。

今、（　兄弟／姉妹）は、主のみもとにあって憩い、復活の栄光を待ち望んでいると信じます。地上に残された私たちには、今なお寂しさが残りますが、やがて神の御前で再会し、永遠をともにする喜びと希望を確かなものとしてください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

四 説 教

五 賛 美（故人愛唱歌）

六 祈 祷

慰めに満ちておられる天の父なる神さま。

今日この日に、（　兄弟／姉妹）の記念会を行わせてくださり感謝します。福音の言葉を聴き、主の豊かな慰めと天における永遠のいのちの希望を味わいました。どうか私たちが、神の助けと支えによって残された地上の歩みをいよいよ確かなものとし、やがて主の御前で（　兄弟／姉妹）と永遠をともにすることができますよう導いてください。ご遺族と集われた一人一人の上に主の恵みと祝福を注いでください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

七 頌栄

八 終祷

民数記六章二四～二六節

（読んだ後に「アーメン」で結ぶ。）

主があなたを祝福し、あなたを守られますように。
主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。
主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。

Ⅱコリント一三13　Ⅰテサロニケ五23　Ⅱテサロニケ二16-17
Ⅱテサロニケ三16

九　遺族からの挨拶

一〇　思い出を語るとき

（参列者に故人の思い出を語ってもらう。茶菓の接待をしてもよい）

八　墓前礼拝

●墓前礼拝は、イースターや召天者記念日などに行われることが多いが、それ以外でも適宜行ってよい。

●教会員だけでなく、埋葬されている故人の親族・友人・知人などにも知らせて行うとよい。

●礼拝前に、墓前礼拝の意味を説明し、不慣れな参列者が理解して礼拝できるよう配慮するとよい。

●そのほか司式者は、天候や参列者の体調・疲労などにも気を配り、必要な配慮を怠らないよう注意する。

●未信者の墓前礼拝の依頼を受けて行う場合には、葬儀諸式の未信者用の聖書箇所や祈祷文例を参考にして、適宜準備して行う。

一　招　詞

二　賛　美

三　祈　祷

天の父なる神さま。私たちは今日、主にあって地上の生涯を終えた者たちの墓の前に集いました。ここに立って改めて、私たちの人生には限りがあり、私たちの肉体はやがて土に帰ることを思います。しかし主イエスは、葬られて三日後によみがえり、墓を栄光に輝く復活の場とされました。信仰によってキリストと結び合わされた者にも、あなたは同じ復活のいのちを与えてくださいますから感謝します。

先に天に召された兄弟姉妹たちは、今、神のみもとにあって安らぎ、やがて訪れる復活の栄光を待ち望んでいます。そして私たちもまた、いずれ地上の生涯を終えて、神のみもとへと迎えられることを主にあ

って感謝します。どうか今私たちに、先に召された信仰者たちとの主にある一致を思わせてくださり、天を思いながら地上で神を礼拝させてください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

四 聖書
五 説教
六 祈祷
七 賛美
八 頌栄
九 終祷

テサロニケ人への手紙第一、五章二三節
（読んだ後に「アーメン」で結ぶ。）

平和の神ご自身が、あなたがたを完全に聖なるものとしてくださいますように。あなたがたの霊、たましい、からだのすべてが、私たちの主イエス・キリストの来臨のときに、責められるところのないものとして保たれていますように。

民数記六24－26　Ⅱコリント一三13　Ⅱテサロニケ二16－17　Ⅱテサロニケ三16

第七章　祝福式

一　子ども祝福式

●献児式とは区別し、子どもたちの祝福と成長を祈るために行う。
●礼拝式の中、あるいは礼拝式後に、牧師、伝道師が司式者となり行う。子どもたちは初め司式者に向かって並ぶ。式辞後に会衆の方に向き直り、司式者が一人一人の名前を呼んで祈るようにしてもよい。
●祈祷の後に、一人一人を紹介する時間があってもよい。

一　序言

ただ今から、子ども祝福式を執り行います。

二　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

マルコの福音書一〇章一三～一六節

さて、イエスに触れていただこうと、人々が子どもたちを連れて来た。ところが弟子たちは彼らを叱った。イエスはそれを見て、憤って弟子たちに言われた。「子どもたちを、わたしのところに来させなさい。邪魔してはいけません。神の国はこのような者たちのものなのです。まことに、あなたがたに言います。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに入ることはできません。」そしてイエスは子どもたちを抱き、彼らの上に手を置いて祝福された。

ルカ二40

三　式辞

私たちは今、教会に託されている子どもたちの祝福を願い、成長を祈るために集まっています。主イエス・キリストは、「子どもたちをわたしのところに来させなさい」とお命じになり、子どもたちを抱き、彼らの上に手を置いて祝福されました。これに倣って主の教会は、子どもたちを主のみもとに招き、子どもたちの主にある祝福を祈ります。

四 祈祷

恵み深い父なる神さま。御前にあるこの子どもたちを今日まで守り、成長させてくださったことを感謝します。神と人とに愛されて成長したイエスさまのように、この子どもたちの一人一人をあなたが愛し、健やかに成長させてくださいますように。そしてあなたのご計画の中で、罪を悔い改め、主イエス・キリストがただひとりの主であることを信じることができますように。耐えられない試練にあわせること

なく、絶えず脱出の道を備え、その一生を通してあなたの栄光を現す器とならせてください。
私たちの主イエス・キリストの御名によって、祈ります。アーメン

二　成人祝福式

●新成人となった人を対象に行う。これまでの守りを感謝し、成人としての責任を伴う自覚的な歩みの祝福のために祈る時である。
●通常、礼拝式の中、あるいは礼拝式直後に、牧師・伝道師が司式者となって行う。式中、あるいは式後に記念品を贈るのもよい。

一　序言

ただ今から、成人祝福式を執り行います。

二　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

詩篇三七篇五～六節

あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。主は　あなたの義を光のように　あなたの正しさを　真昼のように輝かされる。

イザヤ四〇28-31　コロサイ一28　ピリピ三13-16

三　式辞

私たちは、この年成人する方々のこれまでの守りを神さまに感謝するとともに、成人としての責任を伴う自覚的な歩みのため、主の導きと祝福を祈る時を持ちます。

四 祈 祷

恵み深い天の父なる神さま。あなたの御前にいる（　兄弟／姉妹）を今日まで守り、成人となるまで育んでくださったことを感謝します。ご家族や周りの方々からのたくさんの愛と助けに支えられ、何よりあなたの愛とあわれみの中で生かされて、この幸いな日を迎えることができました。これからの人生は、成人としての自覚と責任をともなう新たな歩みとなります。神と隣人を愛し、正義と公正を行って、神が治める世界にふさわしく生きる者としてください。私たちの主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

三　敬老祝福式

●敬老祝福式は高齢者に敬意を払い、これまでの感謝とさらなる祝福を祈る式である。
●式中に証しやお祝いの言葉を入れてもよい。
●通常、礼拝式の中、あるいは礼拝式直後に、牧師・伝道師が司式者となって行う。
　式中、あるいは式後に記念品を贈るのもよい。

一　序言
ただ今から、敬老祝福式を執り行います。

二　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）
イザヤ書四六章三～四節

ヤコブの家よ、わたしに聞け。イスラエルの家のすべての残りの者よ。胎内にいたときから担がれ、生まれる前から運ばれた者よ。あなたがたが年をとっても、わたしは同じようにする。あなたがたが白髪になっても、わたしは背負う。わたしはそうしてきたのだ。わたしは運ぶ。背負って救い出す。

レビ一九32　Ⅱコリント四16　詩篇九二12-15　箴言一六31

三 式辞

今、私たちは、人生の先輩たちを覚えてともに喜び、祝福を祈る時を持ちます。神さまに与えられた大切な存在であるお一人お一人が新たに神さまの祝福を受け、これからの日々が守られますように、ともにお祈りしましょう。

四 祈祷

恵み深い天の父なる神さま。御前にいます（　兄弟／姉妹）を今日まで守り、御手をもって導いてくださったことを心より感謝します。お一人お一人があなたの目に高価で尊い、大切な存在です。ここまで重ねてきた年月は当たり前ではなく、それはあなたの深いあわれみと守りによるものです。「外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています」（Ⅱコリント四16）とのみことばにあるように、日々新しいあなたの恵みで満たしてください。

教会に（　兄弟／姉妹）が与えられていることはあなたの恵みであり、若い人々にとっての大きな励ましです。続く者たちもまた、恵みによって生かされていることを日々覚え、喜びをもって歩むことがで

きますように。私たちの主イエス・キリストの御名によって祈ります。
アーメン

第八章　建築関係諸式

一　起工式（定礎式）

●個人住宅の時に用いる。
●司式は教師が行う。

一　賛　美

二　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

マタイの福音書七章二四～二七節

ですから、わたしのこれらのことばを聞いて、それを行う者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人にたとえることができます。雨が降

って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家を襲っても、家は倒れませんでした。岩の上に土台が据えられていたからです。また、わたしのこれらのことばを聞いて、それを行わない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人にたとえることができます。雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまいました。しかもその倒れ方はひどいものでした。

詩篇一二七　Ⅰコリント三10-17

三　式辞

このたび、主にある（　　兄弟／姉妹）が、この地に住居を建てようとしています。私たちは今、その起工式（定礎式）を行い、この建築工事の上に主の祝福を祈るために集っています。この建築が主の御旨にか

ない、初めから竣工の時まで、恵みのうちに守られることを願いつつ、私たちは今、その礎を定めるにあたり、神の助けを祈り求めましょう。

四 祈祷

恵み深い天の父なる神さま。あなたは、人のために地を定め、そこに安らかに住むことを許し、限りない恵みを与えてくださいました。心から感謝します。

今ここに、あなたのしもべ（　　兄弟／姉妹）は、この土地に住まいを新築しようとしています。どうか、この起工（定礎）の時から竣工に至るまで、あなたの守りと導きがあり、工事が支障なく行われますようにお願いします。

また、この家に住む人々が、イエス・キリストを土台として、信仰の家庭を築き、キリストのよきあかしをすることができますように。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

五 定 礎(鍬入れ)

六 工事関係者のための祈祷

慈愛に富みたもう父なる神よ、この建築に携わる人々が、あらゆるけがや事故から守られ、安全に仕事にあたることができますようにお願いします。どうか、その仕事を忠実に果たすことができますように、資材や天候をも整えられて、計画どおりに工事が進められますようにお祈りします。すべてのことを通して御名があがめられますように。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

七 賛 美

八 祝 祷

二　上棟式

一　賛美

二　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

エペソ人への手紙二章一九～二二節

こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、聖徒たちと同じ国の民であり、神の家族なのです。使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられていて、キリスト・イエスご自身がその要の石です。このキリストにあって、建物の全体が組み合わされて成長し、主にある聖なる宮となります。あなたがたも、このキリストにあって、ともに築き上げられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。

三 祈祷

恵み深い天の父なる神さま。あなたは、この兄弟姉妹を恵み、ここに住まいを建てる志を立てさせ、今日に至るまで工事を導いてくださいました。ここに上棟の式を執り行うことができますことを心から感謝します。

どうか、この工事を祝し、竣工に至るまで守ってくださいますように。そして完成の時には、(家族および)関係者一同が心から喜び、神に栄光を帰することができるようにしてください。

工事にあたる人々が、あらゆるけがや事故から守られますようにお願いします。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

三　落成式

一　賛　美

二　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

詩篇八四篇

指揮者のために。ギテトの調べにのせて。コラ人による。賛歌。
万軍の主よ　あなたの住まいは　なんと慕わしいことでしょう。
私のたましいは　主の大庭を恋い慕って　絶え入るばかりです。
私の心も身も　生ける神に喜びの歌を歌います。
雀さえも　住みかを　燕も　ひなを入れる巣を
あなたの祭壇のところに得ます。万軍の主　私の王　私の神よ。
なんと幸いなことでしょう。あなたの家に住む人たちは。

彼らはいつも　あなたをほめたたえています。
なんと幸いなことでしょう。
その力があなたにあり　心の中に　シオンへの大路のある人は。
彼らは涙の谷を過ぎるときも　そこを泉の湧く所とします。
初めの雨も　そこを大いなる祝福でおおいます。
彼らは力から力へと進み　シオンで神の御前に現れます。
万軍の神　主よ　私の祈りを聞いてください。ヤコブの神よ
耳を傾けてください。
神よ　われらの盾をご覧ください。あなたに油注がれた者の顔に
目を留めてください。
まことに　あなたの大庭にいる一日は　千日にまさります。
私は悪の天幕に住むよりは　私の神の家の門口に立ちたいのです。

まことに　神である主は太陽　また盾。主は恵みと栄光を与え
誠実に歩む者に良いものを拒まれません。
万軍の主よ　なんと幸いなことでしょう　あなたに信頼する人は。

Ⅰ列王記八22-26　詩篇一二三　詩篇一四　詩篇一三一

三 祈祷

恵み深い父なる神さま。この家の建築工事を始めてから今日に至るまで、すべてを導き助けてくださり、本日の落成の時を迎えることができましたことを心から感謝します。今からこの家に住む人々をあなたの祝福をもって満たしてください。そして、この家庭を、主を愛する者たちによって日々感謝と喜びと賛美にあふれさせてくださり、近隣の人々に対してキリストのかおりを放つ者としてください。

イエス・キリストがこの家の主人となり、平安がこの家庭の上に豊かにありますように。
主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

四 賛美

五 祝祷

四 新居式

●新築、中古物件の購入、賃貸物件等、新居であればあらゆる場合に行ってよい。

一 賛美

二　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

列王記第一、八章二二～二六節

ソロモンはイスラエルの全会衆の前で、主の祭壇の前に立ち、天に向かって両手を伸べ広げて、こう言った。「イスラエルの神、主よ。上は天、下は地にも、あなたのような神はほかにありません。あなたは、心を尽くして御前に歩むあなたのしもべたちに対し、契約と恵みを守られる方です。あなたは、あなたのしもべ、私の父ダビデに約束したことを、ダビデのために守ってくださいました。あなたは御口をもって語り、また、今日のように御手をもってこれを成し遂げられました。そこで今、イスラエルの神、主よ。あなたのしもべ、私の父ダビデに約束されたことを、ダビデのために守ってください。『あなたがわたしの前に歩んだように、あなたの子孫がその道を守り、わたしの前に歩みさえするな

ら、あなたには、イスラエルの王座に就く者がわたしの前から断たれることはない』と言われたことを。今、イスラエルの神よ。どうかあなたのしもべ、私の父ダビデに約束されたおことばが堅く立てられますように。

詩篇二四　詩篇一三二　詩篇八四　詩篇一二三

三　祈祷

恵み深い父なる神さま。この住まいを整える計画を始めてから今日に至るまで、すべてを導き助けてくださり、本日の新居式の時を迎えることができましたことを心から感謝します。今からこの家に住む人々をあなたの祝福をもって満たしてください。そして、この家庭を、主を愛する者たちによって日々感謝と喜びと賛美にあふれさせてく

ださり、近隣の人々に対してキリストのかおりを放つ者としてください。

イエス・キリストがこの家の主人となり、平安がこの家庭の上に豊かにありますように。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

四賛美

五祝祷

五　諸事業開設式

一　賛　美

二　聖書朗読（次の箇所等から選ぶ）

箴言一六章一～五節

人は心に計画を持つ。しかし、舌への答えは主から来る。人には自分の行いがみな純粋に見える。しかし、主は人の霊の値打ちを量られる。あなたのわざを主にゆだねよ。そうすれば、あなたの計画は堅く立つ。すべてのものを、主はご自分の目的のために造り、悪しき者さえ　わざわいの日のために造られた。心の高ぶりはすべて主に忌み嫌われる。断じて罰を免れない。

詩篇一二七　詩篇一三六1-5

三式辞

愛する兄弟姉妹、神は創造の初めに、私たち人間を神のかたちに創造し、すべての被造物を治めることをゆだね、私たちに自らの手で働き、生活することをお命じになりました。そして主は、私たちの行う事業を常にみこころに留め、これを守り導いてくださいます。聖書に、「人は心に自分の道を思い巡らす。しかし、主が人の歩みを確かにされる。」（箴言一六9）とあります。私たちは、いま、（　兄弟／姉妹）の（　）事業を始めるにあたり、神の助けを確信して、豊かな祝福をいただくことを願っています。「あなたのわざを主にゆだねよ。そうすれば、あなたの計画は堅く立つ。」（箴言一六3）

四祈祷

天地万物を創造し、御手のうちに保持しておられる全能の父なる神さま。私たちにこの地上に住み、生活し、働くことを許してくださり、心から感謝します。

このたび、(　　兄弟／姉妹)が(　　)事業を始めるにあたり、あなたの助けを心からお願いします。この事業を通して、神の栄光が現され、神の御名があがめられますように。また、この事業が豊かに繁栄するために、事業を行う者の上に神からの知恵と力、また時にかなった助けをお与えください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

五 賛美

六 祝祷